THE CHURCH THEOLOGICAL LIBRARY Vol. X

A Manual of . . . Christian Evidences

BY THE

Rev. Prebendary C.A. Row, M.A., D.D.

TRANSLATED BY THE

Rev. M. Koba

Sub Principal, Trinity Theological College, Osaka

Published under the direction of the Committee of
The Japan Church Literature Fund

THE SOCIETY FOR PROMOTING CHRISTIAN KNOWLEDGE
LONDON

THE FUKOSHA
TOKYO

1912

神學博士 シ、エ、ロ ー原著
木庭孫彦 譯

基督教證據論

聖公會
神學叢書 第十卷

東京 普光社

明治
45. 5. 17
内交

序

本書の譯者木庭孫彦君は余の畏敬する先輩にして、大阪聖三一神學校に教鞭を執ること既に十數年、夙に篤學博覽の士として同人間に知らる。後進余の如き儕輩の序言を以て本書の卷頭を辱しむるは寧ろ純金の器に銅飾を施すにも似たりと雖も、恭謙なる譯者は余に序を求めて固辭するを許さず、遂に余をして禿筆を染めしむるに至れり。

抑も原著 A Manual of Christian Evidences は既に十余年以前の出版にして、爾來基督教辨證の方面及び論點は歐米の思想界に於て其風潮を變移したる所なきにあらずと雖も、ロウ博士の論辨範圍は、神・宇宙・人間・來世等の如き題目即ち科學及び哲學との交渉緻密なる外圏を避けて、專ら基督の人格に集中したるものなるが故に、其の

評點論據は今日猶ほ古くして且つ新しき權威と趣味とを維持して易らざるものと謂ふべし。而して本書が道德的論點を先にして、奇蹟的立場を後にしたる如きは、原著者が辨證學上に一新時期を生みたる者の一人として、其の眞價を不朽にしたるものなるのみならず、本書の問題が實にイエス基督なるを以て、基督の人格に對する信仰の理由を明にする以上に、一種の基督論と新約聖書の側面的研究をも併せて供求するものなり。

而して譯者は曾て幾回か本書に據て其門下生に敎授する所ありたる由なれば、譯者に往々免れざる一知半解的譯述或は魯魚混同の杜撰なきことは、原著者及び我が讀者の爲に最も慶賀すべき事實なりとす。加旃、譯者の周到なる注意と老熟したる文章とは、普通譯文の什中七八に發見さるゝ意義不明の語句を全く除き得たるが故に、讀者が開卷の始より所載の論趣を理解する快味を感ずべきことも余の信じて疑はざる所なり。實に本書は山縣雄杜三君譯『基督人物考』と共に、我が讀者界殊に宗敎家及び敎育ある信者求道者に好箇の基督研究資料を提供するものにして、敎界が深く譯者に感謝せんことも亦期して待つべきなり。

明治四十五年四月卅日

今井壽道

緒言

本書は英國の辨證學者として廣く其名を知られたるロウの基督教證據論を飜譯したるものなり。原書は神學叢書中の一卷として公にせしものなれば、紙數比較的に多からず、繁簡宜を得たるものなり。されば世務に忙はしくして讀書の時間を多く有せざる人と雖も、此書を繙きて著書の創見を印せる基督教辨護論の大要に通ずることを得べし。本書譯文の不完全なる點は讀者の寛恕を請はざる可らず。若し譯書にして幾分にても著者の公平なる議論と穩健なる思想を讀者に紹介することを得るとせば譯者の望足れり。

明治四十五年四月

譯者識す

目次

序論……一頁

第一編

道德的證據……二八頁

第一章　我は世の光なりと云ふ主キリストの主張、即ち此言出てゝより千八百五十年後の近世に實現せられしもの。……二八頁

第二章　イエス、キリストの中に宿れる神的感化力及び歴史の中に活動せし時彼の用ひし勢力。……五一頁

第三章

イエス、キリストは普通の勢力が働らきて人間を生出だす動作の結果に非ずして超人的勢力の顯現なること。……六八頁

第四章　福音書中に描出せるキリストの人物一致せるは其人物の歴史的實在を證すること。……八五頁

第五章　道德に就けるイエス、キリストの教訓。……一〇八頁

第六章　外觀微弱なりし機關に由て教會が建設せられしは其中に超人的勢力の働らきし證なること。……一二五頁

第二編　基督教の奇蹟的證明及び其性質と證據……一三八頁

第七章　福音書と其中に記載せる事實とに就ける初代の基督教記者の證明。……一三八頁

第八章　歴史的文書としての聖パウロの書翰の性質と價値。……一五八頁

第九章　初代の基督教に就き聖パウロの書翰中疑ふ可からざる事實として證明せる諸點。……一七二頁

第十章　イエス、キリストの復活は客觀的事實なること。……一九四頁

第十一章　キリストは律法と預言者の成就者なること。……二一四頁

基督教證據論

神學博士　シ、エ、ロ　―　原著
木庭孫彦　譯

序論

本論に入らざる前に、基督教の辯護者が請求せらるゝ辯護の目的如何を讀者に示し置くは必要なるべし。此點に誤解あれば、甚だ重大なる結果は之に伴ふとあり、何となれば基督教の辯護に於ける題目の範圍を限りなく擴ぐる時は、哲學、科學、歴史、批評的研究等に就ける重要なる諸點、舊新約聖書の經典的權威、其眞作と實錄なること、奇蹟の性質、其有り得べき事と證明上の價値、其他夥多なる此種の研究を其範圍中に入るゝことを得ればなり。又基督教會中種々なる教派の人々が「根本的教理」と稱するもの、即ち聖書に示さるゝのみならず、神學者によりて立てられし教理

を辯護すべきことを護教者に請求する者なきに非ず。總て此等の題目を論じ、且つ之に關係ある種々の難問に答ふることは、大部の書を出だすに非ざれば、成功するを得ず。然れども人類中の大多數は忙はしき世務に從事する者にして、彼等は此種の研究をなすこと能はず、何となれば之を爲すための時間と才能を有せざればなり。更に注意すべきことは、研究者に特別の教育あるに非ざれば、此種の研究に關係ある數多の點に對して、少しにても價値ある判定を下す能はざること是なり。斯かる題目に就ては、研究者は總て專門家の判定に依頼せざる可らず。併し乍ら基督教は、若し眞ならば、極めて重要なる事件にして、普通の理解力ある人の會得し得る證據に基きて信じ得らるゝものならざる可らず、何となれば斯教の主義によれば、斯教は教會、先祖、專門家等の教權に據ることなく、神の前に於て各人の良心に眞理と認めて受容るべきものなればなり。

基督教の辯護に於ける題目の範圍を絶對的に必要なる限度以上に擴ぐる時には又大なる危險あり。余の意味を明瞭ならしめんが爲、戰術より例を引くべし。思慮深き大將は敵に對して其兵の前面を不當に擴げざるべし。斯く爲す時は、其防禦線は集中せる劣等の軍勢に破られて、其陣地の弱所を衝かるゝの危險あり。一定の地面に廣がれる防禦線を有する陣地は、若し十萬の兵を以て防禦するとせば、之に十倍する軍勢と雖も之を拔くこと難かるべし。然れども若し此地面を擴げて四倍にするとせば、其防禦線中如何なる地點にても容易に之を破ることを得るなり。加之、讀者は「要所」てふ軍事上の熟語を學びたるに相違なし。要所とは陣地の全部を支配する所なり。外城も多少價値なきに非ず、然れども要所が安全に守らるゝ間は、其陣地は安全なり。余は比喩の語を用ふれども此語は著しく基督教の防禦に應用せらるゝなり。然らば吾人をして前述せし大將の例に倣ひ、吾人の防禦には天啓なる斯教の眞理に對して最も肝要なる點に力を集めしめよ。而して若し基督教全體の立場を支配する一個の要所ありとせば、吾人をして全部の證據を整理し、全力を盡して此要所を守らしめよ。

然らば斯かる要所ありや、是自然に起こる問題也。然り、福音書中に描出せる主イエス、キリストの人格、事業、教訓に就ける歴史上の事實は即是なり。若し主は福音書中に描出せるが如き者なりしならば、彼は超人的人物にして、隨て基督教は天

啓なるに相違なきことゝなる也。之に反して若し福音書中に描出せる人物は大體に於て歴史上の事實なりと證するを得ずとせば、且つイエス、キリストの復活は小説にして事實に非ずとせば、次位に置くべき他の點の證據によりて基督教の眞理を天啓として確證するを得ず。此點は極めて重要なるが故に、余は此點に就き讀者に最も熱心なる注意を請はざる可らず。基督教が有ゆる他の宗教と異なる點は教祖の人格を斯教の基礎とする事實にあり。彼は教會を支ふる唯一の基礎、之を結合せしむる本源、聖きに進ましむる動機、信者を強めて義務を盡さしむる靈能なり。一言にて蔽へば、イエス、キリストによりて基督教其ものは成立すと云ふことを得るなり。此事を證せんが爲に新約を讀め、さらば余が言の眞なるを知るべし。改正英譯の新約は百九十四頁より成る、其中イエス、キリストの名を明記せざるもの、若くは暗示せざるもの五頁もあることなし、或る頁には其名を記すること二十回に及べり。現今世界に存在する宗教中、佛教は四億、回々教は一億二千萬以上の歸依者を有すと云ふ。此等の宗教より前者の教祖釋迦牟尼の人格と後者の教祖マホメットの人格を除くとするも、此等の宗教は宗教として何等の影響をも受けざるべし。婆羅門教、孔子教、ゾロアスタル教、其他有ゆる古今の宗教も亦同じ。猶太教も亦然り、何となれば其中よりモーセを除くとも、其宗教は尚ほ殘ればなり。此等の宗教は皆教祖を有す。然れども其人格を基礎として立てたるもの其中一もあることなし。然るに基督教のみ全然教祖の人格を基礎として築き上げたるものなれば、イエス、キリストに關する引照を新約より皆除くとすれば、殘餘の短記事は形を成さざる廢物となるなり。

イエス、キリストの人格が基督教中に占むる所の無類なる位置は大に證明上の價値あるものなり。此點に就き余は後章に詳論すれども、主の人格と事業と教訓は基督教の立場に於ける要所なることを顯はさんが爲、今此點に就き讀者の注意を促がし置くべき必要あり。若し福音書のキリストは唯想像の產物なるのみに非ずして、歴史的實在なること證明し得らるゝとせば、基督教は天啓なるに相違なきことゝなる也。加之、若しイエス、キリストは實際に死人の中より甦りしならば、奇蹟の信仰に就きて立てたる總ての反對論は倒るゝ也。此場合に於て少なくも一個の大奇蹟は確かに行はれたり。若し一個が行はれしならば、歴史中普通の事實

を受容るゝと同樣の證據により、百の奇蹟を受容るゝも難からず。新約の記者が基督教の眞理を賭して唯一の奇蹟、即ちイエス、キリストの復活を證明せし事は人々の心に極めて深き印象を與へたり。主が他の奇蹟を行ひし事は屢ば使徒行傳中に引かれしが、此等の引照は偶然に出でしもの也。同書に記せる使徒等の奇蹟は屢ば使徒書中に引かれしが、此等は主として主の復活とメシヤ職を證せんが爲に行ひしもの也。されど聖パウロの云へる如く、復活の事實を證せんが爲に基督教の生命は賭せられき。此點に就ける彼の言は極めて明白なり。曰く「キリスト若し甦らざりしならば、我等の宣る所空しく、爾曹の信仰も空からん、且つ我等神の爲に妄の證をする者とならん、我等神はキリストを甦らしゝと證すればなり。若し死し者よみがへることなくば、神キリストを甦らしむること無かるべし」。されば若し此一奇蹟の事實なることは證し得らるゝとせば、之によりて主が神的使命の事實なることも充分に確かめ得らるゝなり。斯かる場合なるが故に、古代史の事件中、歴史上斯かる確證あるものの他にあることなし。されば奇蹟の關係より見て、吾人の辯護は此一奇蹟に力を集めざる可らず。

神學者と科學者は用語に注意せざりし爲、又不必要にして誤り易き語を奇蹟の定義中に加へし爲、奇蹟に關する爭論を大なる紛亂の中に引入れたり。故に余は他の點に移らざる前に、讀者のため此問題を明瞭ならしむるやう勉めざる可らず。例せば、種々の記者が下したる定義によれば、奇蹟とは萬有の勢力と法則とを破るか又は停止することを意味する出來事なりと云ひ、或は下等なる法則の動作を停止する爲に高等の法則を引入るゝことなりと云ふ。又萬有の法則は此事若くは彼事を起し得る効力ある原因なるが如く屢ば說述せらるゝことあり、即ち萬有の法則を萬有の勢力と混同せり。此は重要なる點なれば、余は此點に就き讀者の綿密なる注意を請はざる可らず。然らば科學的の意義より云へば、萬有の法則は如何と云ふに、此は出來事若くは結果の不變なる順序に外ならず。されば法則は何事をも起し得るものにあらず。結果を起し得るものは萬有の勢力にして、萬有の法則に非ず。吾人は皆左の如き言を聞けり、曰く「人若し萬有の法則と衝突するとせば、其影響を被らざる可らず」と。されど吾人の衝突し得るものは萬有の勢力あるのみ、何となれば萬有の法則は吾人の心外に存在せざればなり。今一例を擧げ

て此區別を明かにすべし。重力の法則は種々の結果を生み出すが如く屢ば說述せらるゝことあり。然れども此法則は單に物體が其大小と遠近とに應じ、一定の割合を以て共通の中心に落つる順序を意味するに過ぎず。されば重力の法則は他の自然法と均く何をも生み出さず、吾人が見る所の結果を生み出だすものは重力の勢力にして、其法則には非ざるなり。此明白なる區別に注意せざりし爲、奇蹟に關する爭論を種々なる紛亂の中に引入れたるは怪むべきことなり。奇蹟を定義するに當り、奇蹟の行はるゝ方法の解釋、例せば、奇蹟は萬有の勢力を停止し、若くは其法則を破るものとし、又は下等の法則を停止して高等の法則を引入るゝにより起り來るものとするが如き、如何なる解釋にせよ、之を定義中に加ふるは不必要なるのみならず、反つて危險なり。實を云へば、神が奇蹟を行ふ方法に就ては吾人何をも知らざるなり。而して以上の解釋を定義中に入るゝは吾人が斯かる知識を有するが如く言ふに異らず。吾人の知る所によれば、神は萬有の一勢力によれる動作をも停止せずして、若しくは其動作の法則をも破らずして奇蹟を行ひ得る者也。新約に記せる奇蹟中ペテロがイエスの許に至らんとて海の上を歩みし奇蹟は少なくも此場合なりしが如し。重力の勢力は彼の周圍到る處に、即ち船の上、波の上、又彼自身の上に充分活動しつゝありしなり、何となれば彼は信仰を失ふや否や沈み始めたればなり。彼の支へられしは如何なる動作によるか吾人之を知らざる也。されば奇蹟を行ふ爲に使用せらるゝ動作を定義中に入る可らず。余が殊に此點に注意を引く所以は他なし、奇蹟は萬有の勢力停止、若しくは其法則違反を意味するものと主張するは、必要なきに天啓を自然科學と衝突せしむればなり。

此等の論旨は若し眞理なりとせば、余は基督敎を辯證する有ゆる目的のため、同時に纏綿せる困難をも避くる爲に適當なる奇蹟の定義を出すことを得るなり。奇蹟とは其起る原因を人間に知られたる一勢力若しくは若干勢力の結合せるものとして說明し得られざる出來事なり。併し乍ら吾人の定義は是のみに止む可らず、何となれば吾人の知らざる一種の自然力によりて斯かる出來事を起し得ると云ふ者あるやも知れざればなり。例せば、精神實驗上の奇蹟は此場合なりと云ふ者あり。されば以上の定義に左の項を加へざる可らず、即ち基督敎的意義に於

て奇蹟と稱する出來事は偶然に起り來り、又起る理由を示し得られざる事件にも非ず、之を行はんと企つる者の言に應じて直に起り來る事件ならざる可らず、又之を行ふ前に目擊者に預告され若くは暗示されたる一定の目的なかる可らず。主が癱瘋者を醫せし件は斯かる奇蹟の一例なり。パリサイの人は主の赦罪權を疑へり。主は彼等に向ひ、「人の子地にて罪を赦すの權あることを爾曹に知らせんとて癱瘋の人に我爾に告ぐ、起て牀をとり、爾の家に歸れと」。而して語出づるや否や此事成れり。斯かる出來事は極めて有力なる懷疑者と雖も之を超人的勢力の顯現として許容するの困難を有せざるべし。主が死より甦りし事を證せんためイエスキリストの名によりて使徒等が行ひし奇蹟の中にも斯の如きもの少からざりき。

以上の定義には尙ほ注意すべき點あり。多くの人は神の外に奇蹟を行ひ得る超人的勢力あることを信ず。惡鬼の奇蹟は之が一例なり。惡鬼は斯かる勢力を有するや否や、若し有するとせば、之を使用することを許されしや否や、余は之を究問せざるべし。余の意見によれば、彼等は眞の奇蹟を行ふことを許さるゝことなし。

併し乍ら許さるゝ事ありと假定するも、斯かる奇蹟と神の行ひし奇蹟の區別し得らるゝことを示さば、余の爲すべき事は其のみにて充分なるべし。主は吾人に之を爲すことを得せしめき。主に敵對せし者は主がサタンの力によりて奇蹟を行ひしことを主張せし時、主はサタンの國を亡ぼすことを其奇蹟の明白なる目的とし主眼とせし事實に注意する所あらしめき。されば神の行ひし奇蹟は之を行ふ神の聖且つ善なることを常に證明するものにて、此事實は神の奇蹟をサタンの奇蹟若くは通常の奇事と區別するための徵證となる也。故に大體に於ける余の結論は左の如し、即ち出來事にして其起る原因を人間に知られたる勢力に歸し得られざるのみならず、前述の特徵を有するものは神の指にて起されしものにして、超人的勢力の顯現を表はすものなることを確かに假定して可なり。

希臘語の新約には一般に奇蹟と稱するものゝ三功用を表はす爲に左の三語を用ひし事も亦讀者の注目を價ひす、即ち σημεῖα 休徵、δυνάμεις 異能、τέρατα 奇蹟是れなり（此三語は何れも英譯聖書中屢ば miracle 奇蹟と譯したり）。σημεῖα 即ち休徵は精確に證明の目的を有し、イエスのメシヤなることを證する爲に行ひし奇蹟なり。聖

ヨハネの福音書に記せる奇蹟は皆此種に屬し、著者は一樣に之を休徵と稱したり。δυνάμεις 即ち異能は超人的勢力の顯現を表はすものなり。τέρατα 即ち奇蹟は神なる使者の使命に注意を引く爲に使用せられしものにて、主に他の方法にて注意を引くことの甚だ困難なるを發見せり。エペソにて聖パウロの身より取りたる衣服を以て爲せし奇蹟は斯かる奇蹟の一例と知るべし。併し乍ら初の三福音書に記せる奇蹟は皆一點より見れば證明の目的を有するもの、即ちメシヤの事業なれども、直接に證明の目的にて爲せしものに非ず、是れ注目すべき事なり。斯かる奇蹟は疑ひなく主が「愼みて人に告る勿れ」と云ひて洩らすことを禁せしもの也。福音記者の言ふ所によれば、主の奇蹟の多くは人類の苦痛を憐み、又信仰より出づる祈禱に答へて行ひし所なり。之に反して其神的使命を證する爲に奇蹟を行はんことを挑まれし時、主は常に之を謝絕せり。

余は今基督教の證據に關して現今最も重要視せらるゝ一點に就き讀者の注意を請はざる可らず。是まで基督教の證明は奇蹟的證明と稱するものを基礎とし、奇蹟は基督教の證據中前面に置かれ、他の證據は之に次ぐ位置を占めたり。此は近世に於ける基督教の辨護者が皆一致して採用せし辨論の方法なり。然れども、辨證の此方法は不完全なりとの意見は思慮深き人々の間に大に弘まれり。故に本書中余は基督教の證據を陳辨する順序を顚倒し、斯教の證據中道德的證據を第一位に置き、奇蹟的證明と稱するものを第二位に置かんと欲す。

從來の證據論には「奇蹟」と云へば其起源を既に知られたる勢力の動作に歸し得られざる有形界の出來事に限りたり。然れども何故に此語を此種の出來事にのみ限りて、之を基督教唯一の神的證明を構成するものとなせしかに答ふるは困難なり。物質界に於けるが如く道德界と心靈界にも均しく確實なる秩序あるに相違なし。有形界に働らく勢力は物質的の法則に從ひて行動するが如く、道德界と心靈界の勢力も道德界と心靈界の法則に從ひて行動す。若し有形界の定則に外れたる出來事、若くは其起源を既に知られたる勢力の動作に歸し得られざる出來事は神力の顯現を證するとせば、心靈界と道德界に於ける同樣の現象も亦同じ神力の勢力ある顯現を表はすものならざる可らず。余は斯かる顯現を「道德的奇蹟」と稱すべし。余の言ふ道德的奇蹟とは道德界と心靈界に起る事件中、其起源を既

に知られたる勢力に歸し得られざるものを意味す、若し余は斯かる事件が基督教に關して起り來りし事を證し得るとせば、此は神の力が斯教の中に現はれし證據となるべし。然らば吾人は過去の歷史若くは現在の事實中斯教に關して斯かる超人的勢力の現はれしことを確め得るや、是れ極めて重要なる問題なるべし。若し確め得るとせば、是れ千八百餘年前に有形界に行はれし奇蹟(即ち今其事實を確めんには長く且複雜なる連鎖をなせる歷史の論究を要する奇蹟)の證明より一層強く斯教の神的特性を證すべし、是れ余の論點也。然れども此點を前面に置き變ゆる事は極めて肝要なるが故に、余は斯く爲す理由を成るべく簡短に讀者に示すべし。

近世思想の有ゆる要求は證明を以て眞理の大試驗法となすことに一致す。古物の發見の證する所によれば、此試驗に合格すること能はざる說は吾人を事物の眞相に導くこと能はず。故に實際の出來事にても近世に於て之と符合する事件なき時は、之を受容るゝと大に困難となれり、何となれば斯かる事件は長く且つ複雜なる連鎖をなせる論究に由て其事實を確めざる可らず、恐らくは其連鎖をなせる數多の連環中には吾人の氣付かざる瑕瑾あるやも知れざればなり。されば以前の時代に無かりし困難は奇蹟の證明に伴ふ事となれり、何となれば奇蹟は、事件の性質より云へば、如何なる種類の證明にせよ、之に由て確め得られざればなり。加之、教會起りて以來何れの時代にも多少よき證據あるも、事實と認め難き他の多くの奇蹟の爲に此困難は大に增加せり。然れども其中多少の證據あるもの少からず。例せば現今の開明時代に行はるゝと言ふ降神術上の奇事は少なくも二名の卓絕なる科學者及び其他學界にて名聲ある多くの人々に事實として信ぜらるゝものなり。此等の點と其他余が茲に言及するの必要なき種々の點は歷史的證明を大に複雜ならしめき、されば詐欺又は種々の狂信、熱心、輕信等より生せし奇蹟と天啓の證據となるべき眞實の奇蹟とを明白に區別するの必要生じたり。

然れども余が基督教の爲に主張せんとする道德界と心靈界とに働らく超人的勢力の顯現は大に之と異なるものなり。余は此等の顯現が過去の歷史にも現在の事實にも明かに見出し得らるゝことを證し得るなり。此等の事實は明白且つ單純にして容易に證明し得らるゝなり、其中現在吾人の目前に橫はるもの少からず、又其他のものも其事實なることを確めんには、歷史の事實に就ける普通の智識あ

らば足れり。其事實なること無論なれば、唯起り得べき疑問は、此等の事實は超人的勢力の顯現なるや、左なくば人間の中に働らく既知の道德的及び心靈的勢力の結果として說明し得らるゝものなるやと云ふにあり。此點に就き讀者は余が示す證據によりて判定せざる可らず。加之、余が主張する道德的奇蹟には此外尙ほ他の利益あり、即ち時代の過ぎ去るに從ひて之を證明すると益々困難とならざるのみならず、反つて之を證するための證據益々有力となるなり、實際に於て其證據は基督敎の起りし第一世紀よりも現今は遙かに有力なり。

加之、余は不信者が前世紀以來其攻擊の理由を變更せし事にも讀者の注目を請はざる可らず。吾人の證據論中多くは以前の不信者に答ふる爲に著作せしものにて、此等の書は當時の基督敎反對者の理由とせし所を排斥せし點に於て効力ありき。當時の不信者中其大多數は基督敎は詐欺に基づくものなることを證明せんと勉めたり。然れども現今歐州の名ある不信者中、基督敎の諸祖師は欺騙者なりしと主張して憚らざる者一人もあることなし。現今彼等の中多くは主張して、基督敎の諸祖師は寧ろ正直なりしも、惑はされたる狂信の徒にして、種々奇妙なる精神の錯亂狀態に陷りし者なりしと云ひ、左なくば基督敎は道德界に働らく普通の勢力によりて進化せしものなりと云ふ。されば不信者の方にて攻擊の方面を變更したれば、護敎者の方にても防禦の方面を變更せざる可らず。

余が本書中に採用せんと欲する護敎の方面變更は極めて重要なるものゝ一にして之が根本の主義は主が其神的使命の證據に訴へし時每に採用せしものなり。余の命題は左の如し、即ち主の證據の價値に就き神的使命の道德的證據を第一位に置き、一般に其奇蹟と稱するものを第二位に置きしこと是なり。

福音書殊に第四福音書に據れば、主が自らキリストなることを主張し又人々に其使命の權威あり且つ神的なることを認むべく要求せしは單に其行ひし奇蹟にのみ訴へしに非ず。左の言は直接に此點を確むるものなり、曰く「我が證をする者は我なり、我を遣はしゝ父も亦我が證をするなり」(約八〇十八)

此言中主は其神的使命の眞理に就ける自己の證據と父の證據とを明かに區別せり。其區別如何と云ふに、自己の證據とは自然に見ゆる其神性にして、父の證據とは主の行ひし奇蹟に外ならず。左の言は最も重要なるものにして、此點を明示

す、曰く「若し我わが父の行をなさずば、我を信ずる勿れ。若し之をなさば、我を信せずとも、其行を信せよ、然らば父の我に在り、我の父に在ることを爾曹知りて信ずるを得ん」(約十〇卅七、卅八)

右の言中に行とあるは主の奇蹟を意味すること左の言によりて明かなり、曰く「我れ父に在り、父の我に在ることを信せざるか。我が爾曹に語りし言は自ら語りしに非ず、我に在る父其行をなせるなり」(約十四〇十、十一)。

此等の言中初めの言は主が其反對者に語りしものなるが故に緊要にして、主が其神的使命の證據に就て抱きし意見を明かに顯はすものなり。此言中主は其聽衆が己れの證據を信ずべきことを主張せり、其證據は己れの道德上心靈の品性に顯はるゝ證據及び人の信念を動かさしめんとて爲せし其行動の全體を意味す。然れども若し此證據は其効果を生せざる時は、父の證據として己れの奇蹟的行動に訴へたり、然れども此は單に奇蹟若くは異能の顯現としてよりも、寧ろ其道德的包圍の全體に訴へしなり、又單に神的使命を證するのみならず、父と一體なることを證するものとして訴へしなり、即ち其言にあるが如く「父の我に在り我の父に在ることを爾曹知りて信せんが爲なり」。

主はニコデモとの談話中、其主張の眞理なるを確むる目的にてなせし奇蹟の證明よりも一層高尚なる證據によりて己れの證明を受容れしめんとせり。「我等知りし事を言ひ、見し事を證するに爾曹は我證を受けず」。ニコデモは主の爲せし休徵によりて主を神より來りし師なりと信ずるに至りし事を語りたれども、主は其談話中幾回となく己れの神性に就て主張する所ありたれば、之を聞きたるニコデモは深く驚けり。然れども主は其主張の眞理なるを確むる爲に奇蹟を行はざりしのみならず、此事に言及することすらせざりき。此福音書には主が其性質の大に超人的なるを主張せしことを記載せる同樣の記事甚だ多く、此主張の大なるにより或記者は是れ奇蹟を行ふに非ざれば眞理として人に受容れしむること能はざる事なりと云へり。然るに此主張は大にして人間より言へば、信じ難き程のものなりしにも拘らず、主は其言の眞理なるを證する爲に一回すら奇蹟を行はんとはせざりき、是れ顯著なる事實なり。

此福音書中第八章は全部主と其反對者との議論より成り、反對者は誣告して主

を見に憑かれたる者とせり。章中主は幾回となく己れに神性あることを主張し、猶太人は極力之を否認せり。然れども主は其主張の眞理なるを確むる爲に一回も奇蹟を行はんとせし事なく、曾て行ひし奇蹟にすら言及せざりき。之に反して主が其言の眞理なるを人に受容れしむる爲に示せし唯一の理由は己れの完全無缺なることなりき。其言に曰く「爾曹の中誰か我を罪に定むる者あるか、我爾曹に眞理を語るに何故我を信せざるか、神より出し者は神の言を聽く、爾曹の聽かざるは神より出ざるに因てなり」。此章の論は全部自然に見ゆる主の神たる力を基礎とせるものなり。

主が最終の談話中使徒ピリポは有形的に父を顯はさん事を主に願ひ、若し斯く爲さば、それにて己等の信念を固むる爲に充分なるべしと言へり。之に對する主の答は左の如し。

「ピリポよ、我斯く久しく爾曹と偕に在りしに未だ我を識らざるか。我を見し者は父を見しなり。何ぞ父を我等に顯はせと言ふか。我は父に在り、父は我に在ると我が告げし言を信せよ。若し信せずば、我が行に因りて之を信ずべし」（約十四〇九至十二）

此言中主は父の完全性が明かに己の人格に輝き出でたることを公言せり。然らば此高尚なる主張の根據は如何と云ふに、第一は主自らの言にて、其言中其神たることは自ら證明することを主張せり。然れども若し此は信念を起さずとせば神が己れの中に住める證據として其行に訴へたり（其行には無論奇蹟を包含す）。一般に受納せられし解釋によれば、主は其主張の眞理なるを證する爲に奇蹟を行ひし筈なるに、一の奇蹟をも行はざりき。

此福音書の中より同樣の記事を多く引用し得らるれども、余の論點を證する爲には以上の言のみにて充分なるべし。

初の三福音書中には前の如き明白なる言を發見すること能はざるも、其中には吾人の論點を確むるに足るもの甚だ多し。主は其神的使命を證する爲に奇蹟を行へと其反對者より請求せられし時、常に之を拒みたり、是れ顯著なる事實なり。其言に曰く「奸惡なる世は休徵を求む、されど預言者ヨナの休徵（即ち主の復活）の外は之に休徵を與へられじ」。若し主は此等の休徵の外に己れのメシヤ職に就ける最も重要なる證據なしと認めしとせば、此は解し難き事なり。

併し乍ら初の三福音書中に記載せる左の奇蹟は直接に證明の目的を以て行ひしものなり。第一は癱瘋の治療、第二は施洗者ヨハネの弟子の面前にて行ひし奇蹟、即ち主が己のキリストなる休徴としてヨハネに報告せよと命せしもの、第三はラザロの復活なり。併し乍ら福音記者は主が奇蹟を行ひし動機を記する時、之を苦痛に對する主の同情に歸せし場合最も多し。然れども此等の奇蹟は他の行動と共に主が神的事業の一部を構成するものにて、主は己れの神より來りし證據として之に訴ふるを常とせり。主は又施洗者ヨハネが遣りし使者の面前にて行ひし奇蹟を報告せよと彼等に命せし後、ヨハネに贈りし言中眞にメシヤの事業として「貧者は福音を聞せらる」との言を加へたり。

加之。自ら證明する主の神たる其力は使徒書中にても甚だ著しき部分に記さるゝを見る。聖ヨハネの第一書翰は全部此記事を以て貫けるが故に、其中より大部分を引用して之を證明するは必要なるべし。聖パウロが基督教を天啓として受容るべしとの主張を記せる樣式の全く之と同樣なることも均しく確かなり。吾人は彼の諸書翰を手にする時、此使徒がイエス、キリストの中に宿れる道德的及び心靈的勢力を其神的使命の證據中にて最も權威あるものと認めし事を疑ふこと能はず。彼は又奇蹟を基督教眞理の唯一なる證據又は最大なる證據として之に訴ふる習慣を有せざりし事も其書翰によりて明白なり。彼は復活を以て斯教の大なる證明奇蹟と認めたり、而して彼は唯三回若くは多くも四回のみ自ら行ひし奇蹟に言及せり。彼より見れば、主の人格は天啓の本質なると共に其の證據なり。彼が教理上の記述は夥多且つ深遠なれども、又彼が宣傳せし福音の或點に就き反對者の反對は激烈なりしも、彼は己が教義の眞理なるを證明せん爲、若くは反對者の教義を論破せん爲に、一回だも奇蹟を行はんとはせざりき。故に彼は其教理を確むる爲に奇蹟の必要を認めざりしこと明白なり。

此點を確めんには使徒行傳中に有力なる證據あり。其記事によれば、彼は猶太人及び猶太教の入教者と論せし時、彼等の會堂にて奇蹟を行ふよりも寧ろ舊約聖書に基きてイエスのメシヤなることを證明せんと常に勉めたり。又異邦人の聽衆に演說せし時は、神の唯一なる事と父なる事を證せんと勉め、終りにキリストの復活を引き、神は將來人々の行爲に循ひて義しき報をなす事を證したり。彼はエ

ペン教會の長老に對し、其教義は神に向ひては悔改め、主イエス、キリストに向ひては信仰すべしとの二項に約め得らるゝ事を示したり。聖ルカの告ぐる所によれば彼はピリピとエペソにて奇蹟を行へり、然れども此二教會に贈りし書翰には一言の此事に及びしものなし。彼は唯一の奇蹟即ち復活の奇蹟にのみ訴ふるを常とせり。此一奇蹟を證する爲に使徒行傳の前部に記せる他の奇蹟は行ひしなり。例せば、聖ペテロは猶太人の議會に向ひて左の如く云へり、曰く「爾曹とイスラエルの民も皆知るべし、爾曹が十字架に釘し所、神の甦らせし所のナザレのイエス、キリストの名に由て此人健かなることを得、爾曹の前に立たり」(徒四〇十)。

故に余が大體の結論は是なり、即ち新約記者と主自らは余が前述せし論點を充分に許容すと云ふにあり。されば基督教の道德的奇蹟、殊にイエス、キリストの人格を斯教の證據中前面に置き、物質的奇蹟を其次位に置くことは基督教辯護者の義務なり。斯く爲すことは現今の時代に於て殊に必要なり、何となれば物質的奇蹟は既に止みて、千八百餘年前に行はれし此奇蹟の事實は錯雜なる歷史上の證據に由らざれば、之を確むること能はざればなり。之に反して基督教の道德的奇蹟より生ずる證據は時の過ぎ去るに由て減少せざるのみならず、漸次歷史の事件中に實現して大に增加するものなり。加之、之を措て證明てふ近世思想の大要求を滿足せしめ得るもの他にあることなし。

余は常識の原理を辯論の基礎とすべし。若し基督教は神より出でたりとせば、吾人は其の中に超人的勢力の存在する明證を見出すことを得べきなり。若しイエス、キリストは實際聖ヨハネと聖パウロの書中に描寫したるが如き者なりしとせば、吾人は一般人類の中に働らく勢力と異なる勢力の顯現と活動を彼の中に發見することを得べきなり。若し彼は世の光ならば其光は求むる人々之を見ることを得べきなり。若し彼は教會内に働らく活力たり、其統治者たり、其長たらば、其生命と勞力を證すべきものあるべきなり、語を換へて云へば、歷史に於けるイエス、キリストの動作は如何なる偉人にもせよ總て他人の動作と異なりし所あるべきなり。若し神的引力の彼の中に宿るとせば、彼は他に例なき程人心を吸收する力を顯はすべきなり。若しイエス、キリストは人間の境界に於ける神の顯現なりしならば、彼の事業と教訓の全體は其廣さ深さ共に他人の有せざるものにて、全く無類

なることを示すべきなり、實に彼の品性の全體(只一般に奇蹟的動作と稱する動作のみならず)神性の現在せる特徴を表はすものならざるべからず。

されば、イエス、キリストに關して斯かる神の顯現は發見し得らるゝや。是れ吾人の考究すべき大問題なり。余は前述の諸點及び之と同樣の諸點に就き其證據は疑はしきものに非ざることを證すべし。現在の事實は確かなる歷史の證明と均しく主が人の子の中にて只獨り卓絕せる位置に立てることを證明す。若し主のみ無雙の人ならば、其無雙の卓絕は普通の偉人のみならず有ゆる偉人を生出せし努力と異なる或る原因に歸せざる可らず。何となれば斯かる無類の結果には之に適合する原因あるべければなり。果して然らば主は神の顯現ならざる可らず。

加之、若し余にしてイエス、キリストは全たく無類なる勢力を以て歷史の上に影響を及ぼせしことを證し得ることせば、福音書中彼の動作に歸せし奇蹟は容易に證し得らるべし、何となれば斯かる人物なるに物質界に於て超人的勢力を顯はさゞりしとするは前述の奇蹟を行ひしとするよりも遙かに信じ難きことなればなり。語を換て云へば、奇蹟に伴ふが如く思はるゝ先天的困難は消滅すべし、又歷史に於ける普通の事實を確むるための證據に由りて奇蹟の行はれし事は證し得らるゝなり。余の問題中此部分の證據を示したる後、余はイエス、キリストの復活に就ける最も權威ある證據を讀者に示すべし。又紙面の許す限り、基督教の證據中次位に置くべきものをも多少擧ぐることを勉むべし、是れ、余が辯論の大要なり。

注意。本書は紙面に制限あるが故に、余は止を得ず吾人の問題中此部分に關する證據を大に短縮せり。故に倘ほ委しく此證據の全部を查べんと欲する讀者は余の第一パムプトン講義及び其二附錄を參照すべし。

第一編　基督教の道德的證據

第一章

我は世の光なり又生命の光なりと云ふ主キリストの主張、即ち此言出でゝより千八百五十年後の近世に實現せられしもの。

「イエス又人々に告て曰く、我は世の光なり、我に從ふ者は暗中を歩かず、生命の光を得べし」（約八〇十二）。

此言は今より千八百五十有餘年前に發せられて、其後六十年以内に福音書に錄されたり。不信者等は此福音書の著作年代を前述の年代よりも四十年乃至七十年以後なりしと云ふ。何れが眞の年代なるにもせよ、以上の言を載せたる此福音書が千七百二十年以前に存在せし事は疑ふ可らざる事實なり。此年代は余が論のあらゆる目的を貫く爲に十分に適合す。

主イエスは吾人の如く普通の人間なりしと假定せば、以上の言は當初之を聞きし人々には、難語中の難語、妄言中の妄言と見えたりしに相違なし、何となれば三十の年までナザレの僻村に住み、其父と思はれし者と共に村大工の職に從事し、其村に於ける會堂附屬の學校にて教育を受けしのみの一人が、自から世の光なりと宣言せし事は、自國の大博士を大に尊びし普通の猶太人には、赦す可からざる專横と見えたりしに相違なければ也。又希臘人或は羅馬人が此主張を聞きし時、彼等は如何に感せしならむ乎。彼等が甚しく輕蔑せし國民中の一人、しかも古世に於ける大家の書一卷すら讀みし事なき一人にして年僅かに三十三の時、羅馬政府の有司より耻づべき十字架上の死に處せられし者を世の光と思ふ事は、狂人の妄想として彼等に受取られしならむ。然れども此言の發せられてより千八百五十有餘年後の吾人には、此は此上なく大切なる問題なり。此ガリラヤの大工が近世を照らす大光明となりし事は事實なる乎。加之、以上の引用文中に「生命の光」と稱せらるゝが如き、生命を與ふる程の感化を近世に及ぼしつゝある事も事實なる乎。若し二問題に然りと答ふる外なしとすれば、此ガリラヤ人なる大工の胸中に、人間以上の見識と人間以上の能力宿りし事を疑ふ能はず、何となれば若しイエス、キリス

トは尋常の人間なりしならば、如上の宣言が千八百五十年後に至りて事實として證明せらるゝ事は、全く信じ得られざる事なれば也。

聖パウロ大聖堂の參觀者は若し北方なる入口の上に目を注がば此聖堂の建築師サー、クリストファ、レンの名と彼が生死の日付を記したる蠟石板を見るべし、其次の語は甚だ簡短にして左の如し、"Si monumentum requiris, circumspice" 之を譯すれば「爾もし彼の記念碑を尋ぬるならば、爾の周圍を見よ」との義なり。見よ、此文中には彼の天才或は彼が成遂げし工事の壯大なる事に就き一言せず、唯爾もし彼が建築師としての才能を評價せんと欲せば、爾の周圍を見て、彼の建築物を熟考せよと告ぐるのみ。余は讀者が猶太人なる大工の主張、即ち我は「世の光」なりとの主張に就き、同樣の方法を取らむ事を望む。讀者若し是れ果して眞なる乎を問はゞ、余は答へて言はん、見よ爾の周圍を見よと。事實上彼は當今地球上總べて進歩せる國民の爲には道德的及び心靈的光明にして、總べて其光明の中に歩まざる者は不進衰頽の狀態にあり。讀者若し彼が第二の主張、即ち我は「生命の光」なりとの主張に就き、彼は靈的太陽にして道德界及び心靈界に勢力と生命を與へつゝある乎と問はゞ、余は復た答へて言はん、見よ爾の周圍を見よと。余は問はむ、人類を改進せしむるための有ゆる運動は何人より生せしや。生命の光なるキリストが道德界及び心靈界を照さゞりし以前に斯かる運動をなせし人は何處にありしやと。以前には斯かる人甚だ稀なりしが、今は驚くべき大勢となれり。是れ見る目あり聞く耳ある者の容易に確め得る所なり。

吾人が考究しつゝある主張は大膽なるものなり、何となれば此はイエス、キリストの要求を抽象と理論の境域より除きて、事實により確むべきものと爲せばなり。若し吾人は光と生命を與ふる力が彼の人格、事業、敎訓より出づる明白なる徵證を現今の事實中に見出すと能はずとすれば、斯かる主張をなしたる彼は己が事に就て妄證をなせし者となり、欺騙者たるを免れず。之に反して若し彼は現今人類中凡べて進歩せる人種を照す道德的及び心靈的光明の泉源ならむには、彼は將來の歷史を洞觀する超人的知識を有せし者ならざる可からず。されば彼の言は少數なる弟子の外凡べて當時の人には極めて狂妄なる專横と見え、又咏方の人には之を信ずることの容易ならざるを感せしめたるに相違なからむも、今となりてそは

最も有力なる證據となり、彼の使命は神より出で、彼の出現は人間の境界に於て神の顯現なるを證するなり。

主の時代には今よりも一層人民の偏見甚しかりし故、如上の主張が當時の普通人に如何なる輕蔑を以て迎へられしかは左の假定によりて推測するを得べし。今片田舍の野人ありとせよ、其教育は其村の學校にて受けしのみなるに、彼は倫敦に於ける上流人士の會衆中に現はれ、高聲に叫んで「我は世の光なり、我に從ふ者は暗中を歩かず、生命の光を得べし」と云ふとせよ、之を聽きたる人々の中には科學者、法律家、醫師、商人、普通の會衆其他神學者すらありとせば、彼等は何と評するならんか。さらば人民の偏見甚しかりし時代に於て此言を聞きたる人民の感情は推測するに難からず。今吾人をして現時の世界を簡略に巡視し、其中に於てナザレの大工が占むる所の地位を觀察せしめよ、

一。讀者若し歐羅巴及び歐羅巴の勢力波及せし亞米利加の各部を旅行するならば、彼を崇むる爲に建てたる殿堂を遠く往かざるうちに見出すべし、其殿堂中には極めて高價なる建物少からず。又彼を大なる聖的社會の最高首長として皆公認するを發見すべし、彼は其社會の創立者たり王者たるなり。又旅行中通常遇ふ所の人々と談話を交ゆるならば、古代の偉人に就ては殆ど其名を知る者なく、彼等の顯はせる勢力も殆ど重んずる者なきにも拘らず、ガリラヤの大工に就ては誰も其名を知らざる者なく、其教誡も名目のみの信者之を守ると不充分なるも、一般の人之を其良心に嘉納し、必らず守るべきものとして承認するを發見すべし。羅馬は大政治家及び大戰勝者を多く出せし國にて、其中顯著なる者は最初の三皇帝なり。然れども普通の人が此三人の中第二第三皇帝の名を記憶する所は主としてイエス、キリストが前者の在位中に生れ、後者の在位中に十字架に釘けられたる事實ありし爲なり、而して此二人よりも一層勝れたる此帝國建設者の名はイエスの名を聞きたる幾百萬人中唯少數の人々に知らるゝのみ。如何なる羅馬人の名は現今最も善く人に知らるゝや。實に數ふるに足らざる人物ポンテヲ、ピラトの名なるに非ずや。彼よりも遙かに優れる羅馬人の名は知る人なきも、何故彼の名は人に知らるゝや、他なし、彼は裁判長としてユダヤの大工を審問し、死刑を宣告して、其王者たる主張を最も甚しく蔑視したればなり。「彼はポンテオ、ピラトの時十字架に

釘けられたり」との語は人々をして永久に其名を記憶せしめ、之に反して當時位に在りし文明世界の帝王は其死後神として崇められ其存命中と雖も屢ば神として敬禮を受けしにも拘らず、今其名は殆ど人の忘るゝ所となれりと聞きし者若しありとせば、彼は何人よりも愈りて之を信せざりしならん。然れども此は事實なり。文明人種の人類中に知られたる名の中にてイエスの名に勝りて大なるもの一もあることなし。皇帝も王者も彼の臣下たることを公認し、古の世界に於て汚辱となせし十字架は今の世界に於て最も貴重なる記念標中最高位を占む。是れ他なし彼は其上に死にたればなり。又彼は肉體となりし神の子なることを否認する人々と雖も其大多數は彼を偉人中の最大なる者となす。然れども昔し同國人が嘲りて「彼は大工にあらずや」と云ひしは此人なり。然り彼は大工なりき、されど同時に彼は同國人中凡ての預言者、王者、戰勝者よりも更に大なる者なりしのみならず、當時の文明世界を統御して、彼等を其軛の下に屈服せしめて帝王よりも遙かに勝れたる者なりしなり。

二。次に吾人をして己れの周圍を見、キリストが近世の政治的及び社會的生活の上に如何なる感化を及ぼせしかを觀察せしめよ。キリストが其主張せし國の性質に就き語り聞かせし時、ピラトは彼に向ひ「さらば爾は王なる乎」と云ひて彼を輕蔑せり。此輕蔑には古世の政治家、哲學者又恐らくは總て教育ある人々は心より同意したりしならむ。然れども其時より十八世紀間を經たる今日に至り此國は如何になりし乎。此國建設の計畫は成功したりし乎。之に對して然りと答へざる可らず。又此國の領土は一世紀ごとに廣まりしや。答へて然りと云ざる可らず。又此國は過去の立法と行政の上に有力なる感化を及ぼせしや。歴史は明かなる聲にて然りと答ふ。又此國は現今人間の實際的行爲に有力なる感化を與へつゝあるや。余は答へて云ふ、爾の周圍を見よと。又歐羅巴及び亞米利加に於てイエエス、キリストの教訓中に包含する主義を嘉納せざる立法院は何處にありや。皆此等の主義を嘉納し、之を以て社會を維持すべき基礎とし、少なくも之を實地に應用せんことを宣言す、而して之を實地に應用せんとの計畫は徒勞に歸せしことなし、何となれば現時の世界に於ける有ゆる制度は多少此等の主義により發展し年々益々發展しつゝあればなり。

此點を證する爲に余をして一二の例を擧げしめよ。ピラトがナザレ人イエスの主張を輕蔑して之を斥けし時己れの屬せし帝國內に恐らくは六千萬に下らざる奴隷ありしならむ、即ち此帝國の臣民中その半數は人間の待遇を受けずして、其所有者の隨意に賣買し得る動產の如く看做されたり。然れども吾人は今一ヶ國の外あらゆる基督教國に奴隷使役の止みたるを見る。此驚くべき改革は誰の賜なるか。是れ奴隷賣買を當然の制度と認めし古世の哲學者及び道德家の賜に非ずして人皆兄弟なりと敎へしキリストの賜なり。又カイザルの統治せし大帝國即ち當時の統治者が永久不滅なりと信せし大帝國を見よ、其帝國も其文明も過ぎ去りて、新しきもの之に代りて興り千八百有餘年前に自から世の光なりと宣言せし人の敎へし主義に因りて發展するとなれり、此點は基督敎に甚しく敵對する者と雖も承認せざるを得ず。加之、現今公私の運動は如何なる特殊の目的を以てなされつゝあるや、其主要なるものゝ一は下等人民の位置を高め、窮民の境遇を改良するにあり。此點を證せんがため余は單に云ふ、爾の周圍を見よと。而して此は何人より起りしや。古世の統治者よりなるか。彼等は人民の騷動を預防する事のみ務めたり。然らば哲學者よりなるか。彼等下等人民の狀態を悲觀し、之を高むるは到底不可能の事として斷念せり。然らば此大改革は何人より生せしか。敵對者が尙ほ「ナザレ人」と稱するキリストの敎訓より生せしなり。彼は驚くべき軍勢を起すことを得たり、其軍勢の職掌は人を殺すに非ず又滅ぼすに非ずして、彼の模範に效ひ普く巡りて善を行ふにあり。讀者若し好評ある羅馬史中紀元前四十年より紀元後七十年までを研究せば、此等の點を容易に確むることを得べし。又當時の世界と現今の世界とを比較して、二者の間に大差あることに注目せよ。さらば昔敵對者が「此人は未だ學ばずして如何にして書を知るや」と云ひて侮りしキリストは現今に於ける世の光なりと結論するの外なかるべし。

茲に反對の起り得べき一點あるが故に、余は更に次の點に進まざる前に、此點に就き一言せんと欲す。人ありて或は曰はむ、イエス、キリストの敎訓は著しく戰爭を非とするものなるに、其敎訓は此點に就き今日に至るまで基督敎國の上に少しの感化をも及ぼさずして、各國相互に戰ふための準備を怠らざるは殆ど暗黑時代と異ならずと。此は否認す可らざる事實なり。然れども現今平和の王なるキリ

ストの臣民中、多くは基督教國間の爭點を決する爲に戰爭に訴ふるが如きは最も不正なる手段なりと結論せし事と、之に同意する人日々增加しつゝある事も亦否認す可からざる事實也。又基督教の麵酵は人情の全塊を(恰も麵に於けるが如く)漸々脹らしつゝある兆候も、時を經て今漸やく明かに現はれ、他の點に於て其感化を認むることを得るなり。例せば、古代の戰爭と近世のそれとを比較せよ。一は極めて殘忍にして、他は比較的に溫和なり。一は全軍を屠殺し、他は戰場の外にて人命を害することなし。併し乍ら尙ほ之よりも一層注目を價するものは、敵味方を論せず公平に雙方の病人及び負傷者を看護せんが爲に、篤志の男女より成る一會社の設立せられしことにて、此は吾人が自ら記臆する所なり。而して此會社員の旗章は如何と云ふに、其は十字架に釘られしキリストの十字架なり。凡て基督教國の名を有する國は此旗章を以て神聖なるものと爲し、且つ此旗章を有する者を尊敬することに同意せり。實に戰爭に關してすら世の光は東天に輝きつゝあるなり。

三。次に人々の社交的關係に就て觀察せんに、現今人類中の進步せる人種間にて人と人との間に於ける義務に就き公認されたる法則は何人の敎訓に基くものなるや。そはイエス、キリストの敎訓なりと云はざる可らず。古世の哲學者及び道德家は大に其職務に盡力せり、然れども外見に於ては無敎育の大工なりしキリストが吾人の住居する世界の上に及ぼせし感化は、古今の哲學者及び道德家の感化を悉く合するも尙ほ遠く其上に超越す。彼の敎訓中に包含する主義は何處にても改進したる人の良心に嘉納せざるはなし。此點はキリストを人間以上と認めざる人々と雖も承認する所也。ジョン、スチユアルト、ミル氏は自己の意見を表白して曰く、近世の懷疑者が自己の品行をイエス、キリストの嘉納する所とならしめむと企つるは最上の善き事なり。併し之よりも尙ほ一層顯著なることは、近世の不可思議論的懷疑者が愛他敎(アルフルイヅム)と云ふ名稱を附したる倫理說を提出したる事なり。彼等は之を提出するに當り、有ゆる過去の經驗と現今の進步とを利用せり。然らば此名稱中に含める敎は何ぞやと云ふに、そはイエス、キリストが千八百有餘年前に敎へし所と更に異ならず。愛他敎とは人各他人の益を起さんが爲に己れを犧牲にせば、之に因て自已の幸福を最も善く收得すべしとの意なり。イエス、キ

リストは之と同樣の事を敎へしに非ずや。彼は言はずや「己を愛する者を愛するは何の報あらんや、惡人にても己を愛する者を愛するなり。己に善をなす者に善をなすは何の報あらんや、惡人も亦斯の如くなす也。爾曹還さるゝ事を得んと思ふ人に借すは何の報あらんや、惡人もその如く還されんとて惡人に借すなり。爾曹仇を愛し、又善をなし、何をも望まずして借與へよ。然らば其報は大なり、且つ至上者の子とならん。夫れ至上者は恩を忘るゝ者及び惡き者にまで仁惠を施せばなり」（路六〇三十一至三十六）。寸毫も利己の念なく全く他人の益を起さんが爲に己を犧牲にする人々の中にてキリストは最も大なる者なり。不信者若し此點に就きキリストと比肩するに足る者を示し得るならば、請ふ之を示せ。

されば此新福音、即ち有ゆる過去の經驗と現今の進歩とを利用し、頗る苦心の後に提出せられて基督敎にすら代るべきものと主張せらるゝ此福音は如何なる點に於て舊福音と異なるや。其異なる點は他なし、即ちそは同じ目的を有すれども、其敎を人間の行爲に實現せしむる爲に、幫助となるべき道德上及び心靈上の動力を悉く其中より除き去ること是なり。其敎ふる所は左の如し、曰く爾他人の益を起さんが爲に己を犧牲にすべし、然れども神を愛するが爲に然す可からず、或は神が之を命じたるが爲に然す可からず、何となれば此哲學に從ふ吾人は愛すべき又從ふべき神あるを知らざればなり。爾他人の益を起さんが爲に己を犧牲にすべし、然れども己を犧牲にせし者の中にて最も大なるイエス、キリストを愛するが爲に然す可からず、彼は小說若くは神話中の人物なればなり。爾他人の益を起さんが爲に己を犧牲にすべし、然れども來世に於て己の幸福を得んとの希望に支配せられて然す可からず、何となれば此動機は利己的にして餘りに低ければ哲學にて承認するを得ず、加之、之を實現すべき來世なかるべければなり。爾が己を犧牲にせし結果として當然に望み得べきものは左の一事あるのみ、即ち若し他人は爾の模範に效ふ時は、爾の意識せる存在が無限の事物中に消去りてより幾千年かの後に、世は改まるべし、然れども記憶せよ、此改まりたる世に於て爾は何の關係をも有すること無かるべし。

此は不可思議論、實驗哲學、萬有神敎等の名稱を有する哲學の派中より提出せる敎說の內容を明白に表白したるものにて、即ち改進したる近世の福音なり。然れ

ども此福音中の善きものは悉く千八百五十有餘年前に基督教會の設立者によりて敎示せられたり、是よりも明白なる事は他にあることなし。唯基督敎と異なる點は、既に述べし如く、他人の爲に己を犧牲にする事を人間の行爲に實行せしめ得べきすべての道德上及び心靈上の動力を除く事にあり。

然らば明白なる事實は何ぞやと云ふに、そは所謂改進したる近世に於ける以上の諸學派が、有ゆる過去の經驗を有するにも拘らず、イエス、キリストの敎訓を改良すると能はざりし事是也。若しキリストには人間以上のもの宿り得たるに非ずとすれば、彼は僻村の大工に過ぎず、其敎育は其村の會堂に附屬せる學校にて受けたるのみ、時としてエルサレムに上りて敎育上多少の幇助を受たるやも知る可からず。然れども然らずと思はるゝにも拘らず、自ら世の光なることを主張せり、而して彼が地上の舞臺を退きてより千八百年以上を經過したる今日に於て、彼は實際に吾人が住居する世界の光也。彼は現時心靈界の太陽として燦然たる光輝を放ちつゝあるなり、而して有ゆる他の光體は其光線の反對に外ならず。此等の事實より推定せざるを得ざる所は、紀元三十年に自ら「世の光なり」と云ひ、又紀元千八百八十六年に於て世の光なる其者の中に超人的光明と超人的先見ありしことは是なり。

四。今吾人をしてキリストが談話、美術、文學、歷史の上に及ぼせし感化、及び今尙ほ及ぼしつゝある感化に就き、觀察する所あらしめよ。アウグストの時代及び其次の時代には、聖パウロが言ふだにも耻づべき事なりと云ひし事柄は敎育ある社會に於ける公然たる談柄なりしなり。若し此等の時代に於ける大家の著作を讀まば、容易に此事を發見するに至るべし。彼等の道德は卑俗なりしなり。併し此汚穢は今如何になりしや。今少なくとも、風儀を重ずる社會にては、此汚穢を其出所なる暗黑中に放逐せり。又風儀を重ずる著者は希臘及羅馬の古詩の多くを直譯することを憚かる。斯かる汚穢の惡むべきものなることを告示したるは何人の敎訓なるか。古世に於ける哲學者の敎訓なるか、又はイエス、キリストと其使徒の敎訓なるか。現今に於ては舊約聖書中にさへも宜に適せざる用語少からず、基督敎によりて之を暗黑中に放逐せり。

美術、例せば、繪畫に就ては如何。試みに近世の歐羅巴に於ける二三の繪畫陳列所に入り、其中にて著しく崇めらるゝ人物は誰なるかを注視せよ。そは無論不名

譽なる十字架上に死せしキリストなり。加之、彼は最も深く歸依せし人々の上に其榮光の光輪を發射せり。福音書に描寫せられたる彼の神相と品性に就き、美術の諸大家は自己の理想を其繪畫に描き出さんと勉めたり、而して其中にて多くの繪畫は近世の歐羅巴に於ける名作なり。又キリストの母と其弟子中の重立ちたる人々又は彼の爲に生命を惜まざりし人々を描き出せる同樣の繪畫も、到る處に之を見ることを得べし。若し吾人の繪畫陳列所よりイエス、キリストに關係ある總ての繪畫を取除くとすれば、其陳列所の大半は空室となるべし。若しピラトとカヤパは己等が死刑に處せし者の爲に、其公務を行ひし場所は、彼等が墓に葬られてより十八世紀以後に前述の如く有名なる所となるべしと告ぐる者ありしならば、彼等は其人を狂人と思ひたるに相違なし。

詩歌及び歴史に就ても亦全く同樣なり。若しイエス、キリストと其設立せし敎會及び彼と其敎會が人類の上に及ぼせし感化に關係ある總ての事件を詩歌及び歴史中より取除くとすれば、其全篇は意味もなく前後の聯絡もなき片言の行列となり終るべし。又基督敎によりて特殊の建築術と音樂が作出されし事は茲に附加ふるの必要なかるべし。

殉敎者ジャスチンは第一世紀末に近づきし頃主が幼時の住處より遠からざる地に生れし人にて、彼の傳へし遺傳によれば、主と其養父は主として牛に負はしむる軛と此類の器具を造ることに從事せりと云ふ、是れ恐らくは眞なるべし。然れども吾人が今住居する世界に於て、天才の人は彼を崇むるを以て誇とし、又不進衰頽の中に沈める人々を除けば、人類中の有ゆる人種は彼より出づる光明の中に歩みつゝあるなり。今奇蹟を見んと欲して、目前に之を見ることを得ば、疑は皆氷解すべしと思ふ人少からず。斯かる人は其目を開くべし。然らばキリストが千八百五十年前に「我は世の光なり」と云ひし語の今日に實現し來りしことの中に奇蹟の最大なるものを見るべし。

五。吾人は主の言中其前半を考究し又第十九世紀の今日に於て其言の眞なることを證明したれば、今其後半を考究すべし。曰く「我に從ふ者は暗中を歩かず、生命の光を得べし」。

主は此言中己は世を照す光明なるのみならず、己に從ふ者に生命を與ふる力な

ることを宣示す。

道德の光明にして正邪を判斷する知識と其知識を實際の行爲に應用して之を整理する能力とは其間に大差あり、吾人は此點に注目せざる可らず。余の意見を明瞭ならしむる爲に、自然界より例證を擧ぐべし。太陽は光熱二種の線を發射す。一は光を與へ、他は熱を與ふ。前者は生命を與ふるものに非ず、後者は生命を呼起して之を活動せしむる職掌をなすものなり。一言にて蔽へば、此等の勢力なき時は吾人の住居する世界は生命なき曠野と化し去るべし。此比喩によれば、主は此言中己は心靈界及び道德界の太陽なることを宣示す、而して吾人が考究せし如く、彼は世を照す光源なり、彼は又活動力の本源なることを宣示す。彼は曰く「我に從ふ者は暗中を歩かず、生命の光を得べし」。然らば此言は彼が此世を去てより千八百五十年後に住居する吾人の世界に於て證明し得らるゝや。此は重要なる問題なり、而して余は尙一度之に答へて曰ふ、爾の周圍を見よと。

現今イエス、キリストの周圍に集中せる心靈的及び道德的勢力の莫大なる事は極端なる懷疑者と雖も否認するを得ず。彼は莫大なる軍勢を有す、其軍勢は他人の益を起さんが爲に己を犧牲にする人々にして、今活動しつゝあるなり。爾の周圍に目を注ぎて彼等が運動の範圍を見よ。一方には遠き地方にて働らく宣敎師あり、他の一方には多くは一週間に一回のみ得る所の休日を犧牲にして、其信仰に從ひ主の事業をなしつゝある日曜學校の敎師あり、又此二者の間に人類の改新を增進せんとの目的を有するあらゆる運動あり。彼等は時として無分別の働をなしたる事もあるべし、然れども彼等の運動は明白なる事實也。然らば如何にして斯の如き事あるや。爾若し此莫大なる運動者の軍勢に向ひ、爾曾何故に己を犧牲にするや、何故に墮落者を其亡ぶる儘に捨置かざるやと問はゞ、彼等は答へて曰はん、我等が己を犧牲にして各己が方面の運動に從事する所以は他なし、彼等の爲に己を犧牲にせしキリストを愛すればなり、又斯く行ふは即ち其聖旨を行ひ其命令に從ふ事なるを信ずればなりと。イエス、キリストを除きては、過去にも現在にも、誰に就て斯の如き事を云ひ得べきや。彼は神的感化力を有し、現今心靈界及び道德界に於て驚くべき活動を爲しつゝある也。此點を證せんには、恐らくはパタゴニヤに於ける野蠻人の例よりも更に愈れるもの他に無かるべし。時として宣敎

師は安逸に耽るとの非難を受くることあり。然れども余惟ふに基督教に最も強く敵對する者と雖も、宣教師が安逸を得んが爲に旅人を薄待する此バタゴニヤに往きたることを主張するの勇氣なかるべし。今より久しき以前に有名なるダルウキン氏は此地に往きたることあり。彼は後に其航海の記事を公表したりしが、其中に意見を述べて曰く、野蠻なる此地の住民は禽獸の如くなりて教化の望なしと。然れども其後基督教の宣教師は此等の野蠻人の所に往けり。而してダルウキン氏は此等の宣教師が盡力せし結果の報告を讀みし時、憚からず前說の非なるを告白し、寄附金を傳道會社に送りたり。余は問はん、此等の宣教師を嘗舞して、望なきが如く見えし此地の傳道を企てしめしものは何ぞや。他なし、そは心靈界に於ける太陽の動作にして、彼は曰へり、我に從ふ者は生命の光を得べしと。余は又問はん、如何なる心靈的及び道德的勢力は墮落せし此等の野蠻人を動かせしや。そは十字架に釘られしイエス也。彼は數多の墮落者を其墮落の中より救出して、彼等の心を健康狀態に回復せしむる者なり、或は弱點あれども尙ほ努力せる大勢の人々を引上げて、彼等を淸潔と德の一層高き程度に進ましむる者也。此點は今日此國に於て何人も否認せざるべし。斯かる靈的勢力は何處より來るか。そは唯彼の敎へし敎理若くは其道德的訓戒より來るのみに非ずして、神的感化力を有する其人格より來る也。愛他敎又は之に類する宗敎の敎師中、己が爲に身を犧牲にし、普く巡りて善を行ふ者を十一人すら其感化の下に引寄せることを得たる者何處にあるや。然れども數へ難きほど莫大の軍勢は今日斯く行ひつゝある也。斯く行ふは誰かを愛するに因りてなり。然るに斯く愛せられし者若し吾人と同く唯人間のみなりしならんには、千八百五十有餘年の間地上に於て斯かる動作を爲すと無りしなるべし。併し此問題は頗る重要なるが故に次章に於て之を詳論すべし。次章には、キリスト、の中に宿れる勢力、即ち主が之を用ひて現在にも働らき、過去にも働らきたる其勢力を考究すべし。茲には疑ふ可からざる左の單純なる事實を云ふのみにて充分なるべし、即ちキリストは外見に於ては無學なる僻村の大工にして、後に奴隷の、死を遂げたるも、千八百有餘年の後尙ほ心靈界及び道德界に於て驚くべき活動を爲しつゝあると是なり。彼は語りて曰く「我に從ふ者は暗中を歩かず、生命の光を得べし」と。此は單純なる事實にして、何人も疑を入る可からざる

眞理なり。此事實は人間の歷史に全く比類なきものなれば、之を道德的奇蹟と稱するも不當には非ざるべし。此は明かに吾人の目前に現れたるものにして、吾人は各己の爲に此事の眞實なることを確め得るなり。

第二章

イエス、キリストの中に宿れる神的感化力及び歷史の中に活動せし時彼の用ひし努力

「我若し地より擧られなば、萬民を引て我に來らせん」（約十二〇三十二）。

余は左の點を考究すべし、即ち、基督敎の中に、又斯敎が歷史の上に及ぼせし影響の中に何ものか斯敎を過去と現在に拘らず人間の創作せし有ゆる宗敎と異ならしむるものありや。又た斯敎の中に何ものか獨り抽でゝ全たく無類なるものありや。

此等の問題に對して只一個の答あるのみ、即ち、基督敎は此宗敎全體の組織、內部の生命、維持の主因、皆敎祖の來歷に基ける點に於て有ゆる他の宗敎と著しく相違す。

余は讀者が最も顯著なる此事實に深く注意せんことを望む。基督敎の內部の生命は種々の敎誡、敎理、儀式、哲學より成立つには非ずして一個人の來歷より成立つものなり。人間の歷史中之に類するもの一もあることなし。人は無數の宗敎

と有ゆる政體と社會制度を制定せり、然れども其中一も內部の生命は制定者其人の來歷に基きしものなし。現今世界に存在する宗教中、比較的に勢力なき宗教を除けば、基督教の外に三大宗教ありて、七億乃至八億の信徒を有す、即ち婆羅門教、佛教、回々教是也。此中二教の教祖は世に知られ、信徒に深く尊敬せられ、記念せらるれども、此二教本來の主義は教祖其人の來歷よりも寧ろ種々の教理より成立つもの也。されば實際婆羅門教の場合に於けるが如く、教祖其人の來歷は忘れらるゝも、之が爲に此二教の存在には何等の影響をも及ぼすことなし。他の宗教も過去に存在せしものと現今尙ほ存在するものとに論なく皆之と同樣なり。然れども基督教より教祖其人を除き去る時は、此宗教の滅絕すること恰かも弓形天井より樞石を除きたる時、全體の構造崩落するに異ならず。新約聖書を讀む者は何人も此點を疑ふこと能はず。

吾人は又世界に存在せし種々の哲學、政體、社會制度を觀察すれば、前と同樣の結論に到着すべし。人は哲學、政體、社會制度を制定すれども、單に之を制定するに止まる。古代若くは近世に存在せし哲學者が結合して一派をなす所以のものは種々の教理に同意するが爲にして、其哲學を自己の來歷に基かしむるが如き事は古今に於ける思想家の先輩が曾てせざりし所なり。總て他の政體及び社會制度の場合に於ても亦同じ。個人的來歷よりも寧ろ共同の主旨若くは目的は彼等が內的生命の主義となれり。

加之、基督教は單に宗教なるのみならず、一大社會をも設立せり。此社會結合の主義は如何と云ふに、そは教祖の個人的來歷なりと答ふることを得るのみ。然るに其進路を追跡すれば、未だ曾て成功せし模倣者出でたるを見ず。回々教は後に起りしのみならず、許多の宗派は教會內に生じたり。然れども其一致結合は何れも教理に基くものにて、歷史の事件に基くもの一もあることなし。

然らば吾人は茲に全たく無類なる事實の存在するを見る。即ち人間の中に働らく有ゆる勢力によりて他に生ずること能はざる事實是なり。併し乍ら無類なる事實には無類なる原因なかる可らず。其原因は他なし、即ちイエス、キリストの人格には他人の有せざりし感化力あること、詳言せば、人間の境界に於ける神の顯現なること是なり。

余の論點は是なり、即ち、歴史の證する所に據れば、イエス、キリストは偉人中の偉人又は偉人中の最大なる者(此點は不信者と雖も快く承認す)なりしのみならず、彼は測る可らざる程遠く彼等の上に超越し、人間中の最大偉人、最大聖人と雖も其前に拜伏するに適する程の者なり。彼は唯一の不偏なる人、唯一の人類の理想にして、彼が歴史の中に顯現し、歴史の上に活動せし事は道德界及び心靈界に働く既知の勢力のみを以て說明するを得ず。此の點より推せば如何なる斷定は必要なるか。他なし、即ち人間が地上に現はれし以來、其中に働きたる勢力に由てキリストの同類を生出すこと能はざりし故、吾人はキリストの中に道德的奇蹟の存在を認めざるを得ず。

イエス、キリストが斯く無上に偉大なる所以は如何と云ふ點に深く注意するは極めて肝要也。前述せし如く、そは只其道德的敎理若くは其道德的敎訓の結果に非ず、又は其敎へし道德を其人的行爲に實現せしめし故にも非ず、又は其知力の超越せし結果にも非ず、又は此等の原因が悉く結合し其一致せる行爲に由て普通の意味に於ける偉人となりし結果にも非ず。此驚くべき感化は福音記者が描出せるが如く、其品性の全體を貫ける神的行爲に基くものにて、只奇蹟と稱する行爲のみならず、其行爲の有ゆる部分に基くものなり。又此感化は其行爲の一方面、即ち其行爲と己を犧牲にせし愛と其甘せし死とに由て現はれたる完全なる犧牲獻身に於て頂點に達するを見る。此はイエス、キリストの偉大なることを有ゆる他人の其れと區別するものにして、其勢力ある秘訣も亦茲にあり。

イエス、キリストの單獨に偉大なることゝ其及ぼせし感化の有力なることに就ける歴史上の證據は明白なり。余は證據となる事實を記述するには基督敎を天啓として受容れざる一歴史家の語を以てするに及かずと思考す、何となれば斯かる歴史家は證人として公平なることを疑ふと能はざればなり。レキイ氏は「アウグストよりシャルマンまでの道德史」第二卷中に左の如く記述せり、曰く「理想的人物を世に現はすことは基督敎を待て始めて成就せり。此人物は變遷多かりし過去十八世紀間に於て人々の心に熱したる愛を充たしめ、又如何なる時代、邦土、性質、狀態の人にも感化を及ぼし得ることを自ら證明せり。又此人物は最も高尙なる德の模範なるのみならず、之を實行する爲の最も有力なる動機なり。又此人物の及

ぼしたる感化は深くして、三年間に於ける活動の簡短なる記錄は有ゆる哲學者の推論よりも、有ゆる道德家の教訓よりも一層多く人類を更生せしめ、溫和ならしむることを得たりと云ふを妨げず。此は基督教徒の行爲に於ける最善最潔なるものゝ泉源なりき。教會は有ゆる罪惡、失敗、宗教的方便、迫害、妄信に因て其面目を毀損したりしも、教祖の品性と模範の中に更生の永續的要素を保存せり」(第二卷八頁)。

此外他の證人を出すことは容易なれども、前に引用せし語句は不信者と雖も之を歷史に現はれたる事實の正確なる記事と認むるが故に、余は此記事を各條に分ちて詳細に考究すべし。

一。此歷史家は曰く「理想的人物を世に現はすことは基督教を待て始めて成就せり。此人物は變遷多かりし過去十八世紀間に於て人々の心に熱したる愛を充たしめたり」。玆に理想的人物とあるは無論福音書中に描出せるイエス、キリストの人物なり。

此事は明白に左の二點を確證す。

第一、イエス、キリストの人物は前に述べたる結果を成就せしこと。

第二、人類の歷史中曾て此事に成功せしものは唯此人物あるのみなること。

余は左の點を讀者に示すの要なかるべし、即ち此歷史家はイエス、キリストの人類中の各員が斯かる感化を受けたることを確證するの意に非ず、唯人類の中にて此人物を研究せし最善最潔なる人々、又は不完全なる品性を有し、此人物によりて吸收せられし多數の人々、又は罪惡と墮落の中に沈み、此人物によりて改心せし少からざる人々が斯かる感化を受けたる事を確認するものなり。

此點に於てイエス、キリストの行動は絕對的に無類なりき。曾て存在せし偉人の數は甚だ多し、其中人類の大恩人となり、人類の爲に力の有らん限り勞を甘んじて善をなせし人少からず。然れどもイエス、キリストを除けば、地上の生涯を終りて後十八世紀の間、若くは其期間中の極めて短き年限にすら斯かる感化を及ぼせし偉人は何處にありや。他の偉人を記念することは吾人之を尊重す。併し乍ら熱したる愛を吾人の心に充す者は其中に一人もあることなし。モーセにせよ、ダビデにせよ、イザヤにせよ、ソクラテースにせよ、プラトーンにせよ、アリストートルにせよ、如何なる宗教の開祖にせよ、如何なる過去の大勝利者にせよ、尊敬すべき近

世の献身者ハワアドにせよ、斯かる感化を吾人に及ぼさず。斯の勢力を出すことに於てイエス、キリストは絶對的に無類なり。若し彼は普通の人と同樣の心靈界及び道德界に働らく勢力の產出なりとせば、何故に自然は過去の長時期中彼と同じ品性の人を他に產出し得ざりしや。若しイエス、キリストのみ斯かる勢力を出せしとせば、吾人は其中に神の顯現を認めざるを得ず。

二。此歷史家又曰く「此人物は如何なる時代、邦土、性質、狀態の人にも感化を及ぼし得ることを自ら證明せり」、詳言せば、其感化は只一時的若くは地方的のものに非ずして、普ねく人類の上に及びたり。

此事實は歷史の頁中普ねく其跡を留めたれば、遠く求むるに及ばざるべし。歐羅巴人、亞細亞人、亞米利加土人、ダルウキン氏のバタゴニヤ蠻人、濠太利亞及びポリネシヤ諸島の下賤なる土人、此等の人種は知力と品性とに於て相互の間に甚しき懸隔あるにも拘らず、均しく此人の勢力を認識せり。此人物は人種と性質の有ゆる特色を超越せり。最大知識の人も其前に膝を屈め、最大德行の人も其感化によりて一層高く引上げられ、未開野蠻の民も此人物に觸れて心に其恩化を被れり。

此人物の感化に由て國風、知音、其他社會の狀態より生せし拘束は破れたり。此人物は人の其同類に語るが如く語るなり。

過去の時代に於て偉人なかりしに非ず、されど彼等は皆國民的若くは地方的偉人にして只幾分のみ其血統と道德的及び知識的包圍より生せし境遇を打破するを得たるのみ、全く之を打破したる者に唯イエス、キリストあるのみ。然らば如何に推斷すべきやと云ふに、イエス、キリストは超人的と稱すべき何物かを有せしものと認めざる可らず。人類中の理想的人物が人類の德育と德育の上に働らく勢力の作用のみに由て猶太人の狹隘にして排外的なる境遇中より生出だされて成長せしとは信ぜられず。斯の如き事ありと主張するは心靈界と道德界に於ける法則の支配を否認するに異ならず。無花果は荊棘より生せず、葡萄は蒺藜より生せざるなり。

三。次に此歷史家の記載せし事實はイエス、キリストは曾て人類中に現はされたるものゝ中にて最も高尙なる德の模範なること是なり。前に述べし如く、此點に就てミル氏はレキイ氏に同意せり、又スペンサル氏及び其他有名なる懷疑者の多

數も同じ意見なりと思はる。故にイエスの德性の極めて高尚なりしことは爭ふ可らざる事實にして、近世に於ける少數の反對者は綿密なる批評により此事實を動かさんと試みたれども失敗せり。施洗者ヨハネが己れに就て言ひし事は聖者中の最大聖者に就ても眞なり。彼等はイエスのみ正當に左の如く言ふことを得、即ち「爾我て存在せし有ゆる道德家中唯イエスのみ正當に左の如く言ふことを得、即ち「爾我に從へ、我宣る事を實行するのみならず、我行ひし事をも實行せよ」と。若し他人が斯かる言を出すとせば、そは信ずるに足らざる傲慢の言となるべし。

四。又此歷史家はイエス、キリストの人物に就き更に著明にして無類なる點に吾人の注意を惹けり。即ちイエスは最も高尚なる德の模範なるのみならず、之を實行する爲の最も有力なる動機なり。此言は若し眞ならば、吾人は茲に極めて深き意味ある事實を有す。男女の別なく多數の人は不完全ながらも種々の程度に於て德の模範となれり、然れども之を實行する爲の偉大なる動機と正當に稱し得るもの、換言すれば、其人格と來歷とに於て偉大なる道德的及び心靈的勢力を構成するものは、長き歷史の中に只一人の人物あるのみ。宗教と道德の大家中或人は種々度を異にせる謙遜を以て、又屢ば大なる疑惑を以て、其弟子を己の模範に倣はしめんと試みたり、然れども人間の心を動かし得る所の道德的及び心靈的勢力として教師を提出することは基督教にのみ發見し得らるゝなり。而して此計畫がなされし以來、一人の模倣者を出せしことなし。

されば此事實は極めて重要なるものとなるなり。然らば以上の計畫は成功したりしや。吾人をしてレキイ氏の爲したる歷史の證明を聞かしめよ、曰く「三年間に於ける活動の簡短なる記錄は有ゆる哲學者の推論よりも、有ゆる道德家の教訓よりも一層多く人類を更生せしめ、溫和ならしむることを得たり」。

五。何人にても過去の歷史と現在の事實とを參考して後、此記事の眞なることを疑ひ得る者あるや。既に證したるが如く、イエス、キリストは吾人が住居する世界の文明即其思想の樣式、其立法、其習慣風俗、其道德等、其範圍の全體に感化を及ぼせり。若し吾人は過去の歷史人類の進步を目的として爲されし盡力と之が爲に喚起されし犧牲獻身の跡を點檢せば、其中十中の九、一層精確に云へば、百中の九十九はイエス、キリストと其人格、事業、教訓を尊重するより生せしと言ふも過言に非

す。而して其教訓の感化は大なりしに相違なきも、前述の結果は唯其教訓のみに因るに非ず、其言行錄中に含める人格的感化の結果なりき。基督教國の歷史は全部之を證するものにて、此歷史の感化により人々の心は內部より動かされたり。紀元六百年より千六百年までの間に歐羅巴の諸國を動かせし大運動は何程まで基督教主義の實現なりしかと云ふ點に就ては、余は意見を述ぶるを好まず。されば「三年間に於ける活動の記錄」は其運動の根底に橫はりしと言ふも可なるべし。イエス、キリストをして驚くべき勢力となりて活動するを得せしめ、人々を鼓吹して歸依、愛慕、禮拜せざるを得ざらしめし所以は、其言行錄によりて人々を動かす所の人格の勢力あるに因る。若し此人格の勢力の伴ふに非ざれば、其教理と教訓は恐らくは哲學者及び道德家のそれと同じく何の感化をも及ぼさゞりしならん。人類の爲に必要なるものは行爲を律するための教訓に非ずして、其教訓を實行せしむる所の道德的及び心靈的勢力也。道德家及び哲學者は皆之を發見し得ざりしのみならず、曾て一回も其力を己に歸せんと思ふ心すら起らざりき。然れども イエス、キリストは然かなせり。彼は己れに對して力の及ぶ限り如何なる犧牲をも甘ずる人あるを當然の事とし、己れに斯かる價値あることを主張せり。而して三年間に於ける其活動の簡短なる記錄は過去十八世紀間に於て誰も數ふることを能はざる献身者の大軍を呼起せり。基督教の存在する處には、縱令其中に低き程度の宗派あるにもせよ、何處にも献身者の隊伍あらざるはなし。哲學者及び道德家の教訓に由て呼び起されし献身者の軍隊は何處にありや。「人類教」と稱する近世の幻想によりて幾許の献身者は呼び起されしや。此宗教は愛他主義を大綱とす、詳言せば、曾て過去に存在し又將來に存在せんとする男女を總合したる理想的人類は此哲學に於ける神を構成するものにて、此宗教は斯かる理想的人類の爲に己れを犧牲にする事を主義とす。然らば此宗教に從ふ献身者の軍隊は何處にありや。斯教の人は地を踏で號令するも其軍隊は之に應じて現はれず。

然らば如何に結論すべき乎。若し三年間に於ける其活動の簡短なる歷史は、有ゆる哲學者の推論よりも、有ゆる道德家の教訓よりも一層多く人類を更生せしめ、溫和ならしむることを得たりとせば、神的感化力はイエス、キリストの人格に宿れるに相違なし、詳言せば、彼の顯現は人間の境界に於ける神の顯現ならざる可からず。

六。此歷史家は尙ほ一つの最も著しき事實を記載せり。曰く敎會は有ゆる罪惡、失敗、宗敎的方便迫害、妄信に因て其面目を毀損したりしも「敎祖の品性と模範の中に更生の永續的要素を保存せり」。

此記事中歷史家が敎會に對して爲せし非難は確かなる事實也。敎會は遺憾ながら屢ゞ腐敗せり。時として宗敎的方便の暗雲は其上を蔽ひ、又屢ゞ政府に勸告し若くは命令して迫害の劍を拔かしめたり。時として此世の智者は敎會が其腐敗の爲に滅亡すべきことを豫言し、其豫言が事實となりて現はれんとする兆候あり き。宗敎改革に近ける時代には無宗敎的不信仰と公然たる敗德の人は敎會に於て高位を占めし事あり。初回の佛國革命より以前の時代にも同樣の事ありき。宗敎改革の時期に自らキリストの代理と僭稱せし者は敗德の不信者レオ十世なりき。其少し以前には軍人ジュリオス二世、其以前には不義の怪物アレキサンデル六世、尙ほ其以前には宗敎的方便の標本にして、自ら帝位に登らんと努めしボニフェース八世ありき。此外暗黑時代に於ける此憂ふべき名簿を引延ばすは其要なし。英國に於てすらバッラ監督の告ぐる所に據れば、其時代に於て「基督敎は左程に研究の問題にては非ざりしが、今遂に其小說なることは發見せられしものと多くの人に假定せられ、隨つて此點は當時見識ある人々の皆同意せしものなるが如く認められき」。余は過去の時代に於て敎會の名を以て起されし迫害と戰爭の慘憺たる光景に言及するに及ばざるべく、唯敎會歷史中或る時期の敎會に對する歷史家の非難は事實なりと告白せば之にて充分なるべし。

併し乍ら結末に於ける此歷史家の陳述も均しく事實なり、曰く「敎會は敎祖の品性と模範の中に更生の永續要素を保存せり」。

然らばイエス、キリストの人格と敎訓の中には各時代に於ける實際の基督敎に超越せし深意義のものあり、即ち何物か各派のバベル塔上に高く聳ゆるものあり。古來人間の社會は其腐敗により漸を逐ふて除々と瓦解するを以て通則とす。されば帝國は沒落し、社會は滅絕し、宗敎は衰頽の狀態に陷りて再興せざりき。然れども基督敎の內部には常に更生せしむる活力の要素あり、而して人間の惡と罪とに由て敎祖の人格を蔽へる假裝を除き、福音記者が描出せし儘に其人々の面前に顯はすとは、敎會の爲に活力を回復する原因となれり、將來に於ても亦然らん。此

點に於てイエス、キリストの教會は總て公認せられたる人立の社會と性質を異にす。見よ十八世紀の大半に於ける教會の勢力は英國に於てすら衰運に傾けり。されど十九世紀の教會の活氣ある新狀態に回復せしことは何人も之を否認せざるべし。如何にして斯かる活力は幾回も新たに生ずるや。是れ他なし、教祖の人格を顯はすに因る。

今左の點に就き余をして讀者の熟考を請はしめよ、即ちイエス、キリストの人格に現はれたる此等の超人的勢力の顯現は各孤立のものに非ざること是なり。縱令孤立のものとするも、各大なる證明上の價値を有す。併し此證據は之を總合すれば(余は只最も著しき部分を擧げたるのみ)更に其勢力を增加す。故に余は讀者がイエス、キリストの人格を中心とせる此證據を總合して、其重量を充分に評價せんことを望む。イエス、キリストより出づる神的光明は單獨の光線に非ずして、許多の光線の集合せるものなり、而して其光線は皆共同の中心に集まる。イエス、キリストの發射せし光輝ある光の前には有ゆる他の光は恰かも太陽出でたる時の衆星の如く朦朧となり、有ゆる他の活動は微弱となるなり。然らば如何に推斷すべきやと云ふに、吾人は左の三者中其一を撰ぶの外なし。即ち

イエス、キリストは超人的勢力の顯現なるか。

左なくば、人間の中に働らく普通の努力の顯現にして、其勢力は唯一回のみ働らきて彼を生出し、其後永久に其動作を止めて、過去十八世紀の間同類を生出だし得ざりしものなるか。

左なくば、想像に基づく創作なり。

余は次の二章に於て以上三者中其二と三を考究すべし。

第三章

イエス、キリストは普通の勢力が働らきて人間を生出だす動作の結果に非ずして超人的勢力の顯現なること。

「安息日に及びければ、イエス會堂にて教へ始む。人衆之を聞て奇み曰けるは、如何にして此人に斯の如き事ある乎。誰より此智慧を授けられて、斯く不思議なる事をも其手よりなす乎。彼は木匠に非ずや」(可六〇二、三)。此答へ「我は神より出て來れり、即ち我は自ら來れるに非ず、神我を遣はし給へるなり」(約八〇四十二)。

余は本章を始むるに當り、主の同郷人が主の教訓と奇蹟を奇しみ、自然に發せし問を借りて、吾人が前の二章中に考究せし問題に應用すべし。余は問はん、如何にして此人に斯の如き事ある乎。有ゆる哲學者と道德家の智慧に超越して驚くべき結果を起したる此智慧は誰より此人に授けられし乎。過去千八百有餘年間道德界及び心靈界に於て此人のなしたる奇蹟は何を意味する乎。余は聖ヨハネの福音より引用せし主の言のみが此等の問に對する當然の答なることを證すべし。即ち「我は神より出て來れり、即ち我は自ら來れるに非ず、神我を遣はし給へるなり」。

余は前章の結末に左の事を述べ置けり、即ち若しイエス、キリストは超人的勢力の顯現に非ずとせば、彼は人間の中に働らく普通の勢力に由て生出だされしものならざる可らず、詳言せば、單に人間のみなるに過ぎず、然らざれば彼は理想的創作ならざる可らず。今此二者中前者を考究すべし。

先づ左の點に就き余をして讀者の周到なる注意を請はしめよ、即ち若しイエス、キリストは福音書に描出せるが如き超人的人物なりとせば、そは前の問に對する當然の答となり、又過去の歷史に於ける其偉業と現在の事實を充分に說明すれども、若し彼は普通の人と同樣に生出し成長せし人間のみなるに過ぎずとすれば、前の二章に說述せし事實には合理的解釋を與ふること能はず。

余は問はん、若しイエス、キリストは道德界及び心靈界に於て働らく普通の勢力に由て生出だされし人間のみに過ぎずとすれば、五千年以上に跨がる確實なる歷史の全時期中、同じ勢力に由て一人の同類をも生出だし得ざりしは何故なる乎。元始の時代にすら普通の意味の偉人なかりしに非ず。アーガイル公爵が其著書「萬有の一致」中に述べたるが如く、最初火を點すことを人に教へ、之を生活の術に應用

せし人、又最初麥を耕作し之を人間の食物に應用せし人、又最初金屬の器具を骨器及び石器に代用せし人、又繪畫體の文字を簡易なる書體に改めし人、總て此等の人々は其時代の大發明者にして、近世の發明者に劣ることなく、人類の歷史に均しく偉大なる結果を生じたり。發明者の名は忘れられたるも、其發明は今尙ほ至大の價値を有す。エヂプト及びアッスリヤの石碑は吾人に何を敎ゆる乎。一般に偉人と稱せらるゝ人は其時代にも多くありしに相違なし。然れども此等の人々の偉大とイエス、キリストの偉大とは全く異なり、彼等の發明は今尙ほ至大の價値を有すれども、彼等の履歷は其死後十八世紀間に何等の感化を後世に及ぼせし事なし。吾人は若し歷史の流を下りて希臘及び羅馬に至れば、此二國に於ても自然は殆ど人生の有ゆる方面に於て豐かに偉人を生出だすを見る、即哲學者としての偉人あり、道德家としての偉人あり、技藝家としての偉人あり、政治家としての偉人あり、又戰士としての偉人あり、彼等は偉大なるもナザレのイエスの偉大なるに比すれば其光を失ひ、彼等の履歷は愛と崇拜の精神を起すことなく、又何等の感化力をも有することなし。

更に一歩を進め、吾人をしてヘブル人種を一見せしめよ。此人種中にも異なる種類の偉人少からず。確かにアブラハムは其時代を超越せし偉人なりき、モーセも偉人なりき、ダビデも偉人なりき、預言者中にも偉人少からざりき、又己の生命を犧牲にして其宗敎を衰運の中より挽回せしマカビース一族の人々も偉人なりき。然れども舊約聖書の公平なる讀者は此等の人々をイエス、キリストに比較して其數ふるに足らざることを承認すべし、又其人々の履歷中一として文明人若くは野蠻人の心を深く感奮せしめ得るものなく、又一人をも更生せしめ得る力なかりし也。何人にてもアブラハム或はダビデ或はマカビース一族の人々或は古世の勇士又は哲學者又道德家の愛に勵まされて他人に善を行はんがため献身の生涯を送ることを主張せざるべし。此等の人々は各其名を得たる部門に於て他人の爲に善き模範となりしに相違なきも、其中一人も道德的及び心靈的勢力の中心とはならざりし也。終にイエス、キリストは顯現せり。若し彼は道德界及び心靈界に働らく普通の勢力によりて生出だされし者なりとせば、自然は其大なる勢力を顯はし自ら働きて有ゆる偉人を併せたる者よりも更に偉大なる者を生出だせしものと

せざる可からず、即唯一の偉人にして、此人のみ「爾曹の中誰か我に罪ありと證明し得る者ある乎」と言ふことを得、又此人のみ世を去りし後幾世紀となく後世に神的感化力を及ぼすを見る。然るに自然は若し此無類なる一人を生出だし得たりとせば此後其同類に近き者を一人も生出せずして、唯普通の偉人を多く生出するのみに過ぎざりしは何故なる乎。自然はマホメットを生出し、シャールマンを生出し、ナポレオンを生出し、シエーキスピヤを生出したるもイエス、キリストを生出ださゞりき。其理由は明白なり、即ち彼は自然界に於て働く勢力の產出に非ざれば也。

余は又問はんイエス、キリストのみ不偏の人なるは何故ぞや。余の所謂不偏の人とは其生れ出でゝ教育を受けし包圍の印象を脫し、又人種及び民族に限れる特性の印象を脫したる人を云ふ。總て普通の人々に就ては如何なる事實あるや。彼等は皆均しく平生其呼吸せし道德的及び心靈的空氣の印象を有す。是れ國によりて世々傳來せる特殊の國風ある所以なり。偉人と雖も其感化を脫することは能はざりき。されば東洋の哲學及び東洋の思想は其間に千差萬別あるにもせよ、西洋諸國のそれとは、大に種類を異にする思想の印象を有す。偉人の場合に於ても亦同じ。婆羅門教の祖師は何人なりし乎吾人之を知らず、然れども此宗教が西洋の國民を感動せしめ得ざりし事は確かなり。釋迦牟尼と佛教とに就ても亦同じ。此宗教は其生れ出てゝ成長せし國に於ける道德的及び心靈的空氣の深き印象を有す。マホメットは當時の風習を多く改良せしにもせよ、其生れて教育を受けたる包圍を全く超越すること能はざりき。其宗教は東洋人の精神の或狀態にのみ適するものにて、西洋の諸國に勢力を有するを得ず。希臘と其哲學及び文明も亦同じ。此國は多くの偉人を出せしも、其中不偏の性質を表はし得たる者は一人もなかりき。羅馬の偉人も亦斯の如く、近世の偉人亦同じ。彼等は普通の同國人を遠く超越したりしにもせよ、皆其生れ出てゝ教育を受けたる國に於ける道德的及び心靈的及び心靈的空氣の著しき印象を有す。

然れども一般の此定則より除くべき者は唯イエス、キリストあるのみ。彼は排外を以て殊に有名なりし一國の僻村に生れ又僻村にて教育を受けたり。此國が排外に熱心なりし事は爭ふ可からざる事實なり、何故なれば此事實は基督教の聖書中より得らるゝのみならず、教外の著者は猶太人種の事に論及する每に大抵此

事實を以て彼等を非難したればなり。然れども此國の內部より唯一の不偏なる人出でたり、彼は文明人にも野蠻人にも、哲學者にも無敎育の人にも、其心に語り得る者なることを自ら證明せり、彼は又レキイ氏の言によれば「如何なる時代、邦土、性質、狀態の人にも感化を及ぼし得る」ことを自ら證明せり、又ミル氏の言によれば、彼は近世の懷疑者が自己の品行をイエス、キリストの嘉納する所とならしめんと企つるより以上の事をなし得ざりし程の者なり。

然らば道德界及び心靈界に働く勢力は如何にして唯一の不偏なる此人を生出だしたりし乎、彼は他の人々が其敎育を受けたる生國の道德的及び心靈的空氣の影響として免れ得ざる拘束を脫せる者なり。之に對する唯一の合理的解答は他なし即ち彼は此等の勢力の產出物に非ずして超人的勢力の顯現なり。されば彼が己に就て語りし事は眞なり、曰く「我父より出て世に來れり」。(約十六、廿八)

余は同一の神性中種々なる他の點に同一の論法を適用することを得れども、讀者は此等の二例證により自ら然なすことを得べし。

現今多數の拔群なる科學者が萬物の起源を適當に說明するものとして採用する所の推論あらば、余は次の問題に移らざる前に、此推論が今吾人の考究しつゝある問題に如何なる關係を有する乎と云ふ點に就き、二三の簡短なる論評を加ふべし。此推論は一般に進化論と稱するものにて、疑なく讀者は屢ば之を耳にせしならん。此推論は多くの宗敎家より無神論視せられたるも、其中には無神論の姿あるものあれば、又有神論の所說と一致するものもあり、此推論によれば、元始の創造作用を假定すれども、其後の作用より創造者の干涉を除き、無意識の勢力は一定の法則に從ひて働き、漸々現今の狀態に進化せりと云ふ。此進化論の眞僞を審査するは、本書の目的に非ず。斯かる研究は哲學者及び科學者の本領に屬す。此進化論に關する余の論旨は、若し此進化論の眞理を假に承認するとせば、之に由りてイエスキリストは人間の境界に於ける神の顯現なることを證する爲に、一の極めて有力なる證據を得ると云ふにあり。此論の目的を達する爲には、最初世界に生命の入り來りし時より進化の行程を辿るのみにて充分なるべし。

有神論系の進化論によれば、創造者は最初極めて單純なる生物の原種少數を創造し、之に賦與するに同類を生出だし得る能力を以てせり。若し彼は之のみにて

其作用を止めしならば、生物は皆永久に同類のものゝみにて、進歩改良は不可能なりしならむ。故に彼は此等の原種に賦與するに其同類を生出だすのみならず、之を生出すに當り其原種の模型より少しく變化せるものを生出し得る能力を以てせり。時の移り行くに從ひ、此等の生物は其數非常に多くなり、食物の供給は不足して、生存の競爭は始まれり。此競爭に於て强者は勝を占め(即ち進化論中の婉曲なる用語にて適種生存と稱するもの)弱者は敗を取れり。斯かる狀勢に進行し、吾人の推測し得ざる程長き時期を經過せり。此等の變化(此推論によれば小變化なることを記臆せよ)は生物を其境遇に適せしめ、之が爲に其生存を持續せしめ得て、其構造に一定の改良を加ふるものとなれり。而して此等の改良は其子に遺傳し、其子も亦少しく變化せる同類を殖やせり。此後又同じ理由により此等の變化は新生物を其境遇に一層善く適應せしめ、其生存を持續せしめて、自ら永續し且つ遺傳するものとなれり。而して改良は改良に次ぎ、時至るに及び、生物の一種類を組成する個々の生物を漸々其境遇に適應せしめて、其種類より他の種類を出し、漸次多くの種類を出して後遂に人類を出したり。是までの進行のみを見て云へば、此人類は創造作用の絶頂に位す。極めて少數の語にて此推論を言ひ表はせば、過去に存在せし生物又は現今存生する生物は各個々の生物が相續で其境遇に適應し、之に由り改良に改良を加へて現在の狀態となれり、然るに其境遇に適應せざる生物は皆滅絶せり。是皆自然界の勢力が一定の法則に從ひて働きたる結果にして、創造者の直接の作用に歸すべきものは生命を有する元始の細胞を造り、之に若干の性質を賦與し、其機關を運轉の緒に就かしめたるのみに過ぎず。此機關の構造は完全なりし故、數へ難きほど多くの時代の間に、少しも創作者の干涉を要せずして、過去及び現在に存在せし無數の生物を生出だす結果を生じたり。少數なる生命の源種は少しく變化せる同類を生出だし得る能力を賦與せられ、意識なき自然界の勢力に支配せられ、限なき時間内に互に競爭して、吾人が目前に見る所の萬種の生物を生出せり。是は進化論の概略なり。

余が是迄說明せし所は、進化論者の主張するが如く、此推論に由て人間の有形的構造の起源と彼が他の動物と同樣に賦與されたる能力の起源を說明するに過ぎず。此推論の提出者は是のみにて滿足せず、此理論を以て吾人の德性と知力の起

源と開發、及び人と動物との間、又は人と人との間に存在する區別の起源と開發を適當に說明するものとなせり。加之、人間は政治的、社會的、宗教的生物として同じ進化の作用により現今の狀態に進化せり。彼は原種として生存を始め、其原種より、前に說明せし方法に由り、曾て此世に出し人々の中にて最も大なる智者となり、聖者となり又獻身の人となれり。是は人間の起源と現在の狀態を適當に說明するものとして、多數の哲學者と科學者が受容れたる理論の大略なり。

前に述べたるが如く、此理論の眞僞を論ずるは本書の目的に非ず。余は唯序に左の點を讀者に警告し置かざる可からず、即進化の長き連鎖中には最も熱心なる此理論の信者が些少の科學的證據をも示し得ざる種々の環あること是なり。然れども此理論は當時流行のものなれば、余は此理論が基督教の天啓に如何なる關係を有するや、又理論は余が本書中第二第三の二章に示したるイエス、キリストの有力なる感化力に合理的說明を與ふるや否やを考究すべし。

されば余は其事實を信ずること能はざるも、辨論の目的を達するため、假に此理論を以て普通の男女の起源、及び一層信を置き難けれども、其中にて偉人と稱せらるゝ人々の起源をも正しく說明するものと爲なさしめよ。然らば余は假に之を眞とし、此理論は超人的勢力がイエス、キリストの中に自ら現れたる事を最も確實に證明するものなるを證すべし。

さらば吾人をして此理論中に假定する所の事實を觀察せしめよ。過去の時代に於ける驚くべき變化は皆數へ難き小變化の結果にして、之が爲に各種の動物(人類をも包含す)は一定の進步をなし、下等より高等の生物に進化せり。若し萬有は一足飛びに進化せしことを表はし得るとせば、是大に此推論を助くれども、不幸にして事實は之に反し、此推論の左袒者中斯かる說を立てし者なし。されば萬有は下等より高等に、高等より更に高等に進み、其進步は非常に漸進的のもの也。然らばイエス、キリストは如何なる境遇の中に生れて敎育を受けしや、彼が同時代の人々のみならず、總て歷史ありてより以來の人々に愈りて偉大なりし事實は前述の小變化に由りて說明し得らるゝや、然らざれば超人的勢力は彼の中に自ら現れたる事を承認するは絕對的に必要ならざる乎、吾人をして此等の點を考究せしめよ。

然らば余が辨駁しつゝある解釋によれば、イエス、キリストは一個の猶太人に生

れ、紀元前四年より紀元後三十年までの間に流行せし思想と感情の包圍中に教養せられ、其心も其中にて進化せり。此事の如何に就ては吾人之を福音書、ジョシフアスの書、其他異教著者の書より學ぶことを得るなり。此等の書は一の點に於て一致す。即ち猶太人の心は甚だ狹隘にして排外の傾向ありき。福音書によればパリサイ派は實際に人望ある民間の黨派にして、其心非常に狹く、又其宗教は外面の儀式のみを重ずる宗教なりき。サドカイの小派は世俗主義に傾ける一群なりき。ヘロデ黨も亦同じ。エッセォ派に就ては新約聖書は一回も記載せざれども彼等は多少賞すべき點あると共に、猶太教中他の諸派よりも一層甚しく排外に傾ける一派を組織せり。若し吾人は轉じてジョシフアスの書に向はゞ、大なる者と誤稱されしヘロデと其諸子は半異教徒にして、其惡感化により猶太人の社會を腐敗せしめたるを見る。猶太人の事を記せし異教の著者中曾て猶太に來遊せし者一人も無かりしとは事實なり。然れども多數の猶太人は羅馬に居りたれば、此人種の習慣風俗に就き彼等の記せし所は福音書の記事よりも更に厭ふべきものあり。タルムッドの最初の部分は紀元百八十年より二百年までの間に著はせしものにて、此書の記事によるも、考究中の時代に於ける猶太人の思想と感情の包圍は更に愈れるものなく、其教訓は主として道德上些細なる末事より成立す。若し吾人は主の時代に於ける道德の狀態を此人種中最も勝れたる教師の教訓と更に勝りたる預言者の高尚なるとに比較せば、明かに衰頽の兆候を有し、其中には進歩よりも寧ろ退歩の進化行はれたるを感せざるを得ず。然れども斯かる狀態の社會より唯一の不偏なる人出で、極めて心の狹き者の中より、毫も斯かる性癖なき者出で、儀式を極端に重ずる宗教的感情の狀態中より、神の意に適ふ禮拜は靈と眞を以て拜するにありと教へし人出で、最も熱心に國民性を保守する者の中より、獨り人種若くは國民の特性を有せざる人出でたり。

然らば余は問はん、如何なる進化の法則に從ひてイエス、キリストは斯の如き元素より進化せしや。若し進歩的開發の法則は少しづゝ除々と進むにありとせば、確かにイエス、キリストは此法則に對して例外の人なることを表はせり、何となれば彼と其時代の最も勝れたる人との間には測る可からざる相違あれば也。故に彼は進化論の教ふる所に適合して進化せりと云ふを得ず、其教ふる所によれば、改良

の方向に進む進歩は小變化の長き行程を歩むものにして、其小變化は改良と共に先祖より後裔に遺傳するもの也。イエス、キリストの先祖中一人にても殆ど彼の如く偉大にして、其死後一世紀にても感化を人々に及ぼせし者ありしや。彼等の名聲と品性は人に忘れられしも、イエス、キリストの勢力は普く世に弘まれり。

此事實の說明として庶ば左の如く主張する者あり、曰くイエス、キリストは偉人にして偉大なる天才なりし故、其生れて敎育を受けし包圍の束縛を破ることを得たりと。然れども進化論は人類の起源を誤りなく說明するものならば、己が先祖と包圍を遠く超越せる偉人と偉大なる天才は如何にして發生せしや、之を會得することを極めて困難なり。併し此點は此儘に終らしめよ、何故なれば余は進化論を論破しつゝあるに非ず、反つて此推論はイエス、キリストの存在に合理的說明を與ふるや否やを確めんと勉めつゝあればなり。故に余は左の如く言ふのみにて自ら滿足すべし、即ちイエス、キリストの偉大は有ゆる偉人の偉大と異なりて遠く其上に超越し、進化論中の如何なる解釋によるも、道德界及び心靈界に働く勢力の結果として說明し得られざるものなる事確實となれり。

又或人はタルムッドを根據としてラビの敎訓中イエス、キリストの敎訓と多少相似たるものあることを屢ば主張し、隨つて二者の間に大差なきものと推斷せり。彼は十二卷の大本より成れる此書を穿鑿して、純良ならざる金屬山をなせる中に數粒の黃金のみ埋り居れるを發見し得たるに相違なし。然れども此書を福音書に比較せば、吾人は如何なる結果を得べき乎。タルムッドは信ず可らざる不用物の集合體なれども、福音書は一點の不用物なき純金の集合體なり。啻に是のみに非ず、近世の或る著者が表示せし如く、猶太人中の有名なるラビを併せて一とせばイエス、キリストは唯少しく彼等に愈るのみなりと假定せよ。若し此は事實ならば、如何にして彼等の運命に著しき相違を生ずるに至りしや。若し此等のラビは唯少しくイエス、キリストに劣りしならば、彼等は唯少しく劣りて感化を後世に及ぼす可かりしなり。然るにイエス、キリストの感化は過去にも現在にも世界に普及し、將來尙ほ增加するの兆候あれども、ラビの及ぼせし感化は拮据勉勵して此十二卷の大本を習得せし數名の學者にのみ限られ、此外其敎訓によりて其感化を近世の猶太人に及ぼしたるに過ぎず。一言にて蔽へば、イエス、キリストは世の光に

して、ラビは朦朧として暗處を照らす微光に過ぎず。彼等が人類中の進歩せる人種に及ぼせし感化は皆無にして、彼等の姓名すら多くは人の忘るゝ所となれり。されば、イエス、キリストは進化せしラビに非ず、有ゆるラビ、有ゆる哲學者、有ゆる立法者、有ゆる戰勝者、有ゆる道德家、有ゆる偉人を合せて一となすも、測る可からざる程遠く其上に位する者なり。此點より推定すれば、彼は進化の原理に從ひて人間の中に働く道德的及び心靈的勢力の產出に非ざるなり。

此外イエス、キリストの品性中他に多くの特別なる點を擧ぐることは容易ならむも、前に擧げしものは何れも同一の結論に導く此論法の例證となるものなれば、讀者は之に由て自ら此論法を他の點に應用するを得べし。されば余は左の言を加ふるのみにて充分なるべし、則前論は本章の劈頭にある題辭中に含める眞理を證明するものなり、即ちイエス、キリストは普通の勢力が働らきて人間を生出だす動作の結果に非ずして、超人的勢力の顯現なり。

第四章

福音書中に描出せるキリストの人物一致せるは其人物の歷史的實在を證すること。

「我等は巧みなる奇談を用ゐざりき」(彼後一〇十六)。

近世の不信者が立てし論旨は極めて廣く嘉納せられ、一見巧みなるが如く見ゆるものなり、其論によれば、福音書のキリストは一種の想像に基づく創作にして眞實のキリストは大に之と相違せり、又眞實のキリストは普通の偉人なりしも、弟子等は熱心の餘り超人的榮光の後光を之に被せたりと云ふ。余は本章に於て、此論旨は大體のみを述ぶる時は、巧みなるが如く見ゆるにもせよ、之に綿密なる批評を加ふる時は、忽ち微塵に碎くることを證明すべし。

左の事實は余が論の根據となるべきものにて、信者にも不信者にも均しく是認せられざる可らず。

一、福音書の存在すること。

二、福音書の起源と其內容の性質に就き如何なる解釋は提出せらるゝにもせよ、

其中にも偉大なる人物の畫像、即ちイエス、キリストの畫像あること。

三、此人物は多數の部分より成立すること、委く云へば、其部分の聯絡せる內容より成立すること。

四、此人物を構成する多數の部分は一致すること。

五、吾人は四福音書中同じ人物を描出せる異なる畫像四個を爲す、其異なる所以は唯四人の記者が各異なる見地より描出したるが爲なること。

余の論旨は左の如し、即ち福音書中に描出せる人物の一致せる事實は、其畫像を歷史的實在の儘に描出せしものとする解釋にのみ符合し、近世に於ける不信者の解釋、即ち福音書を種々の神話、奇談、小說より成るものとする解釋とは全然符合せずと云ふにあり。

抑も福音書の起源に就き如何なる說明は提出さるゝにもせよ、此畫像が其中に存在することは明白なるが故に、起源は之を說明せられざる可からず。さらば余は問はん如何にして此畫像は存在するに至りし乎。

左の解釋は此問題を合理的に說明するのみならず、過去の歷史に於けるイエス、キリストの行動と前に說述したるが如き現在の事實をも合理的に說明するものなり、即ち此畫像は實際に存在せし人物を實際の生涯より寫出せしものなること是なり。此解釋は吾人が今考究中の事實を充分に說明するものなり。

然らば近世の不信者が此問題を論ずるに當り、如何なる說を立てしやと云ふに、彼等の主張する所によれば、福音書の內容中其大部分は眞實の歷史に非ずと云ふ。委く云へば、初代に於けるイエスの弟子が其師を頌揚する目的にて、無邪氣に創作せし種々の小說、神話、奇談より成立するものにて、時を歷て後歷史の事實なるが如く誤認せらるゝに至りしと云ふ。

見よ、福音書の性質と起源に就き、近世の不信者が種々の解釋を提出したるは、イエス、キリストの畫像が其中に存在する事實を說明せんが爲に非ずして、唯其內容中に包含する奇蹟的記事を說明せんが爲なりき。余の論點は、如何なる解釋にても若し此畫像の起源を合理的に說明すること能はずとすれば、記事の起源を正當に說明するものとして之を受容るゝを得ずと云ふにあり、何となれば此畫像は記事の聯絡せる結果なればなり、此は見易き道理なり。然れども福音書に歷史の性

質あることを否認する人々が一般に此點を顧みざるは奇と謂ふべし。

左の諸點は此畫像に關するものにて、之を想像に基く創作とすることの困難を現はすものなり。

一、福音書中に描出されたるイエス、キリストの人物は、曾て實際に存在せしもの、若くは想像に由て創作せしものゝ中にて、最も高尚なるもの又最も純潔なるものとして、有名なる不信者と雖も其大多數は之を承認す。

二、イエス、キリストの人物は、普通の歴史家又は詩人のなすが如き、意匠を加へたる創作に非ず。彼等の描出せる人物は其記述する事實の結合せる結果に非ずして、明かに歴史家又は詩人の巧みに創作せるものなり。其中にてシエークスピヤ、ロードクラレンドン、マカウレーの作は之が適例なるべし。余が讀者の注意を惹かんと欲する點は茲にあり、即ち彼等の描出せる人物は明かに作品なり。

然れども福音記者に於ては此技術的性質は全く闕如せり。福音書の構造ほど單純なるものは他に其比を見ず。何人にても福音書を讀まば、著者の目的は人物を描寫する爲に非ずして、イエス、キリストの行爲と教訓の記錄となるべき傳記を作らんが爲なりし事を斷定せざるを得ざるべし。されば人物を描出せし事は偶然に得たる間接の結果と見るを得べし。

三、福音書の單純なる性質に就ける他の一證を擧ぐれば、著者は無論其師を深く景慕したるに相違なきも、彼等は、一回も彼の卓絶なる性質を大きく述べざりし事是なり。彼等は殆ど註解を加へずして、唯彼の行爲と教訓を記錄したるに過ぎず。彼等は彼を十字架に釘けし主謀者を最惡の殺人者と認めたるに相違なきも、彼の敵に就て一言の惡評をも加へざりき。此點に於て福音書は著しく使徒書と相違す、使徒書の著者は絶えず彼の卓絶、謙遜、柔和己を犧牲にする愛を稱揚し、又效ふべき模範として彼の完全なる品性を屢ば說述せり。彼等は時として堅忍なる受苦者として簡略に彼を描寫せり。然れども福音書の著者は聊にても人物を描寫せんと試みるの意なかりしにも拘らず、彼等は過去若しくは現今に於ける詩人、歴史家、又は傳記作者中の何人よりも一層多く有効に然なすことを得たり。

四、然らば此人物は如何なる部分より成立するやと云ふに、疑なく此は福音書中の種々なる記事を其書中の順に從ひて並列せし結果なり。余が此事實に讀者の

注意を惹く所以は、此人物は全く意匠を施さずして出來りしことを現さんが爲なり。然らば此人物の出來たりし起源は如何。福音書の著者が其書を編纂せし目的は、其中の二人が記述せし如く（路一〇一―五、約三十、三十一）、信者の德を立て、基督教の主意を教へんが爲なりき。而して此目的を達せんが爲に彼等は主の行爲と教訓を記錄せる四個の傳記を吾人に與へたりしが、斯く爲したるに由り彼等は少しも預期せざりし結果を生出せり、即ち有ゆる畫像中の最も完全なる畫像、即ち福音書中のキリストの畫像を讀者の前に出すことを得たり。

此等は福音書の表面に現れたる數個の著明なる事實にして、讀者の容易に知り得る所なり。然らば福音書の歷史的性質を否認する人々は此等の事實に對して如何なる說明を與ふるや。

彼等の解釋を略述すれば左の如し、即ち歷史上のイエスは極めて偉大なる人にして、多數の迷信に傾き易き熱心なる弟子を已に從はしむることを得たり。此等の弟子は彼を古代の預言中にあるメシヤなりと想像し、メシヤは云々の事を行ふべき者にて、イエスは實際に之を行ひたりと輕信せり。斯かる傾向は彼の死後一世紀間に大に增加し、多くの創作家は種々の小說を創作せり。此等の小說にはイエスを以て超人的人物となし、又奇蹟を行ふ能力ある者となせり。されば初代の弟子等は輕信の餘り此等の小說を歷史の事實と誤認し、之が結果として歷史上のイエスは漸々神話中の人物と變化し、其生涯中の出來事は神話、奇談、小說中に埋沒せらるゝ事となれり。斯かる狀態の下に初の三福音記者は此等の小說的回想を材料とし、又當時既に存在し居たりし幾何かの文書をも助として、各其福音書を編纂せり、而して此等の福音書は速かに初代の信者間に弘く流布したれば、通例僞福音書と稱して今尙ほ存在する十八部の書（其中幾何かは稍後世の僞作なり）を除けば、他の小說的物語は悉く忘れらるゝに至れり。又第四福音書は故意に僞作せし稍後世の書にして、作者は其師を稱揚する傾向を有し、アレキサンドリヤの哲學思想に深く心醉せし信者なりしと云ふ。此等の解釋は其後多少變更したるに相違なからむも、前に述べたる所により讀者は其性質の如何を知るに難からざるべし。

余は又讀者が左の點を忘れざらむことを望む、即ち斯かる解釋の出だされたるは福音書中に描出だされし畫像を說明する爲に非ずして、其中の奇蹟的記事を說明せ

んが爲なりし事是なり。然れども此畫像は記事より成立するが故に、此二者中一方の存在を合理的に說明し得ざる解釋は他の一方の存在をも說明し得ざるものと認めざる可らず。

然らば福音書に就ける此解釋に據れば、有ゆる人物中にて最も偉大なる人物の畫像は、著者が多數の人の創作せし多くの小說的物語を並列して創作せしものにて、福音書は何れも多數の小說より材料を撰取して著せしものなり、而して著者が其撰取せし材料を綴合せて、主の行爲と敎訓の連續せる記錄となしたるは、毫も一人の人物を描出ださんとの目的を有したるが爲には非ずして、唯主が宣敎の記錄を後世に傳へんが爲なりしなり。此等の解釋を總合して言へば他なし、即ち著者が多數作者の創作せし多くの小說より材料を撰取し、之を並列して連續せる傳記となしたるにより、キリストと稱する神的人物は出來たり、其人物を構成する有ゆる部分は完全に一致するのみならず、斯かる著者は四人なりしも皆同一の結果を得たりと云ふ。

讀者恐らくは怪みて言ふならん、何故に斯かる創作は卓絕せる一人の天才より出でしと云はずして、不都合にも多數の人の援助に由りて作出せしと云ふが如き說を立てしやと。然れども其實を云へば、斯かる說は總て歷史の事實に適合せざるが故に、有名なる不信者中斯かる說を出せし者一人もあることなし。

福音書中にあるキリストの人物は不信者と雖も道德上最も卓絕したるものなることを承認す。故に若し此人物は歷史的實在に非ずして、想像に基く創作とすれば、此は最も完全なる作品の一に加へらるべきものなり。實に此は作品なること卓絕なる詩歌、繪畫、肖像の作品なるに異ならず。然るに詩歌、繪畫、肖像は決して偶然に成るものに非ずして、卓絕なる天才を賦與せられし人の創作なり。若し福音書中のキリストは多數創作者の努力より出でしものならば(此は現今不信者間に廣く行はるゝ福音書起源說なり)、此等の創作者は卓絕なる天才と高尙なる道德を具へたる人ならざる可らず。

此解釋を詩歌、繪畫、肖像の如き公認されたる作品に應用せば、其不當なること現はるべし。玆に詩の全體を一貫して終始一致せる人物ありと假定し、又其詩も人物も傑作と稱すべきものと假定し、又其人物を構成する種々の部分は多數詩人が

各隨意に描寫せしものにて、其詩も人物も此等詩人の勞力を合せたる結果なりと假定せよ。然らば全部は其部分より成立するが故に詩才に秀でし此等多數の人々が互に合意せず各單獨に勞力せし結果、其勞力は一致して其人物を作出し、其部分は相合して想の一致を表はせしものと謂はざる可らず。又前と同じ方法によりて創作せし有名なる繪畫若くは肖像ありと假定せよ、然らば多數の畫工若くは彫刻師が互に合意せず。各隨意に種々の部分に其妙技を施せし結果、此等の部分は合して有名なる繪畫若くは肖像を作出せしものと謂はざる可らず。

今一例を擧げて斯かる解釋の不當なることを讀者に示すべし。パリに於けるルウフル館の繪畫展覽所に「ガリラヤのカナに於ける婚禮」と稱する有名なる繪畫あり。此繪畫は一緒に群をなせる多數の人物より成り、其人物相共に打交りて調和せる想の一致を表はすもの也。吾人をして前に述べたる解釋(即ち福音書の起源を合理的に說明し、隨つて其中に包含せる畫像をも合理的に說明するものとして、吾人の前に提出せらるゝもの)を此繪畫に應用せしめよ。即ち此繪畫は一畫工の作に非ずして、多數畫工の合作なりと假定せよ、然らば前に述べたる解釋の如く此等の畫工は各隨意に幾何かの人物を描寫して、其中より其幾何かの人物を撰び出だし、其撰び出だせしものを並列せし結果、此繪畫を作出せしものと認めざる可らかず。此は信ず可からざる解釋にして、此繪畫の起源を恰當に說明するものに非ず。

此解釋は福音書の起源を合理的に說明し、隨つてキリストの畫像をも合理的に說明するものとして、吾人の前に提出せらるれど、其中には前述せしものよりも更に大なる困難あることは否認す可からざる事實なり、何となれば此解釋によれば、キリストの畫像を描出せし人々は秀才高德の人に非ずして、輕信と迷信の傾向ある熱心家の團體なればなり、是れ斯く爲さゝるを得ざる事情あるに因る。然らば此解釋の提出者は何故に斯かる困難を自ら招きしやと問はゝ、其理由は他なし、即ち彼等はイエスの奇蹟を行ひしことを事實と認めざるが故に、斯く爲さゝれば、福音書中種々の奇蹟をイエスの行ひし實際の事實として記したる理由を說明することは能はざればなり。

然れども幸にして吾人は迷信的神話記者が創作せし奇談の性質を明かにすることを得るなり。前に引きたる僞福音書中にはイエスの人格を中心として多數の

奇談を記載せり。此等の書によりて吾人は奇談記者がイエスに附するの習慣ある行爲は如何なる種類のものなるかを確め得るなり。其中に記載せる出來事は主の生涯中二期に限ざるものなり、即ち其一は其幼年と少年の時代にして吾人の福音書中に殆ど記載せざる時期、其二は其苦難と復活の時期にして、主の宣教に關はる記事は其中に見當らず。其中にイエスの奇蹟として記載せるものは多くは神の聖者に就ける滑稽畫なり。余は特に其中より例を擧げずして(斯くなすことは堪へ難き苦痛なり)、其中の記事と四福音書中の記事との簡短なる對照を讀者に示すべし、此對照は余が他の著作中に擧げたるものなり。

「實際の場合を擧ぐれば左の如し、即吾人の福音書中には光榮あるキリストの畫像あれども、神話的福音書中には卑むべきキリストの畫像あり。吾人の福音書中にはキリストを極めて偉大なる人間として表はせども、神話的福音書中にはキリストの行爲中高尚なるものあるを見ず。吾人が福音書中のキリストは超人的矛盾を表はすのみ吾人が福音書中のキリストは聖德の美衣に包まれども、神話的福音書中のキリストには斯かる性質は全く缺けたるを見る。吾人が福音書中のキリストには其品性を汚すべき一點の罪なきも、神話的福音書中の神童イエスは短氣にして惡意ある者なり。吾人の福音書は高尚なる道德を表はせども、神話記者の福音書には道德の光明は耀やくことなし。奇蹟を比較すれば、何れの點に於ても彼と此との間に著しき相違あり。二者中の思想、感情、道德、宗教に於ても、始より終まで同じ性質の相違あり」(「福音書中のイエス」三百八十一頁)。

神話記者がイエス、キリストの傳記を作らむと試みて實際に創作せしものは此類のキリスト、此類の奇蹟なり。其中には謬說多く又道德の威嚴を缺きたる痕跡を深く印するを見る、是れ輕信と狂信とに由て此類の書を作らむと試みる時に避く可らざる結果なり。されど福音書中イエス、キリストに附したる奇蹟には皆高尚なる道德の印象あり、余は今讀者が此重要なる事實に注意せんことを望む。余が之を望む所以は、ジョン、スチユアルト、ミル氏が其著作即ち氏の死後に出版せし有名なる論文中に意見を表白して左の如く云ひたるが爲なり、曰く初の三福音書中のイエスは想像に基く創作とは思はれず、何となれば其中に描出されたる彼の人物は、彼の弟子も初代の信者も使徒パウロすらも其想像を以て創作すること能

はざる程、遠く卓越したるものなればなりと。然るにミル氏は此事實を承認せしにも拘らず、進んで左の如く云へり、曰くキリストの弟子は福音書中彼に附したるが如き奇蹟を幾個にても創作し得べしと。惟ふにミル氏は之を言はざれども、氏の言より推せば、氏は主の尊大なる主張を福音書中の超自然的分子中に包容せりと認むるも妨なかるべし。何となれば、若し主は神の內住を自覺せざりしならば其主張は甚しき我儘にして、彼がイエス、キリストに附せし高尙なる道德と全く矛盾すればなり。然るにミル氏は第四福音書の記事を多數の價値なき材料より成るものとし、斯かる記事は主の弟子等が幾個にても作出し得べきものとせり。

斯かる場合なるが故に、讀者は余が前に注意したる事實の重要なることを直ちに悟るべし即ち福音書中にある超人的分子も人的分子も其道德の眞相は全く同一なり。故に若しイエスの人物と敎訓は弟子等の想像すること能はざる程に卓絕なるが故に、人的分子は弟子等の創作せしものと信ずる能はずとすれば、同一の理由は超人的分子にも應用し得らるゝなり。然らばミル氏の示せし理由により一方を歷史として承認せざる可らずとせば、他の一方をも然せざる可らず。加之、福音書中に現はれたる此等の分子は密接に一致せるものなれば、彼と此とを引離す時は、全部の記事は亂雜なるものとなるに至るべし。讀者若し一の福音書に就て此事を驗せば、容易に之を確むるを得べし。されば此問題は單純なる事實に歸着す、即ち福音書中の超人的分子は道德の卓絕せることに於て人的分子と同一なりやと云ふにあり。讀者は此點をも自ら確むることを得べし。

余は既に不信者が福音書の起源及び其中に包含するキリストの畫像の起源に就て提出せる解釋の不當なることを大體に於て說示せり、彼等は其解釋を以て福音書を歷史上眞實なりと認むる說に代るべきものとせり。今吾人をして此解釋には更に打勝ち難き特別の困難あることを簡短に點檢せしめよ。されば余が論の目的を達する爲に簡短に之を說述すれば左の如し。

第一世紀中に純粹の人間なるイエス、キリストを超人的人物に變造せし多數の小說的傳記出でたり。吾人が今有する福音書の著者は此等の傳記より材料を撰取して、各其記事を作りたりしが、其撰取せし材料の中より神的キリストの畫像三個は出來り、其畫像は各一個にて一個の人物をなし、又三個合せて調合せる一個の

人物をなせるものなり。聖ヨハネの福音書中に描出せる人物は他の三福音書中に描出せるものと一致符合せずとの說に對し、余は決して讓步する者に非ず、然れども此點を論ずる時は議論長くなりて、本書の範圍を超過するが故に之を略すべし。余が論の目的を達する爲には、三福音書中に描出せる人物の一致(此は爭ふ可らざる事實)のみにて充分なり。

一。此等の作者は何れも申合せたるが如く、一個の人格中に神性と人性との結合を表はす一組の小說を自然に描出せしものとせざる可らず。若し一人の神話記者が神人兩性中何れか其一を有する人格を描出ださんと企てしとすれば、此問題の解決は比較的に容易なれども、彼等は二者の結合せるものを描出せしとするが故に、此問題は紛糾を極むるに至る、何となれば一個の人格に配合すべき此二者の釣合を如何にすべきか、又此二者は互に其特色を表はして一致和合せる想を描くには如何にすべきか其苦心容易ならざれば也。然るに若し多數の作者は自然に此類の小說一組を苦心して創作したりしに、其中より撰取せし材料を結合せし結果、今考究中の人物を創作するを得たりとすれば、困難は更に大なるものとなるなり。然れども福音書中のキリストは此一致を表はし、彼の人物中に神性と人性とは各完全に其特色を表はせるものにて、此は單純なる事實なり

二。此等の作者は又何れも申合せたるが如く一組の小說を描出したるに、其中より至聖にして極めて完全に慈悲を表はし、之と同時に罪惡に接せし時は嚴格にして侵す可らざる相を具へし一個の人物を描出せしものとせざる可らず。讀者若し一瞬間の考を費やすならば、此は甚だ困難なる問題にして、人に由て解釋を異にするが如きものなるを發見すべし。然れども三福音書中に描出せる如く、此等の三特性が主の畫像中に全く一致せることは事實なり。

三。此等の作者は又皆同じく物語を創作したりしが其中に描出せしイエスは己れの無上に偉大なるを自覺したると共に、極めて謙遜なりしものとせざる可らず。福音書中のイエスは己れの偉大なることを主張せしも、そは不當の主張に非ず、而して福音書中彼は己れを無上に價値ある者と自覺せしことを記すると共に彼に着するに謙遜の衣を以てするを例とせり。斯かる特性の人物を畫くとは其筆の巧妙なるを示すものにして、之を模造するは容易の事に非ず。然れども吾人

は福音書の全體を通じて斯かる人物の其中に存するを見る。一人の作者にせよ斯かる人物を描出だすことは極めて困難なる事業なり。然れども余が論破しつゝある解釋によれば、初代に多數の基督教神話記者は皆同じく主に斯かる特性あることを記せしものとせざる可らざるのみならず、此等の書像は之を結合すれば完全に一致せる想を表はすものとせざる可らず。

四。此等の作者は皆同じくイエスを絶對的に無私なる者とせる小說を創作せしものとせざる可らず。何となれば吾人は福音書を始より終まで通讀するも、彼には一點の私あることを發見せざればなり。彼は怒を發せしことあるを記したるも、そは常に私に屬する事の爲に非ずして、甚しき邪曲に對して發せしなり。加之、此無私なることは奇蹟的記事の中に最も著しく現はるゝを見る、然るに此記事は余が論破しつゝある解釋によれば、何れも假作的奇談とせざる可らず。

五。此等の作者は又皆同樣に主を道德上完全無缺なる理想とせる小說を創作せしものとせざる可らず、殊に注意すべき事は、道德上の完全無缺とは如何なる性質のものなるべき乎と云ふ點に就き彼等が、意見を同うせしと是なり。其外政略的及び英雄的なる德(智と勇の如き)を最も多く重んじて、溫和、謙遜なる種類の德を稍劣れるものとすることは殆ど人類一般の傾向にして、殊に古代に於ける世界の傾向なりき。然るに福音書中のキリストには英雄的なる德は缺けたるには非ざるも、溫和なる性質の德よりも劣れるものと認められき。此點に於ても此等の作者は識らずして己が生存せし時代の輿論と殆ど正反對の斷定をなせしものと謂はざる可らず。

六。キリスト受苦の件を描出したるは奇と謂ふべし。此件が福音書中重要なる位置を占むる事は、此件の記事が書中五分の一を占むる一事に由て知らるゝなり。然れども吾人が既に知れる如く、作者は受苦者なるキリストを超人的人物とせり。されば如何にして神なるキリストを受苦者として描出すべきや、神話記者の心に自ら起るべき此問題は極めて困難なりしに相違なし。彼等は其時代の思潮に反對し、又己を導くべき模型をも有せざりき。然れども苦に遇へるキリストの書像は終始調和を得、其調和を傷くべき一點の筆跡あるを見ず。彼は父の趣旨に全く服從し、安靜にして、其迫害者の前に威嚴を保ち、極めて烈しき苦痛を全く忍

耐し、己を殺す者の爲にすら祈禱せり。使徒の一人が云へる如く、彼は嘗られて嘗らず、苦められて厲言を出さず、然れども若し彼は父に祈りしならんには、十二軍餘の天使は彼を救援せんが爲に直ちに來りしならん。されば其受苦は全く任意的なりしなり。若し最も親密に神と一致せる人を受苦者として描出ださんには如何にすべき乎と問ふ者あらば、福音記者はゲッセマネ、猶太人の議會、ピラトの面前、十字架上に於けるキリストを觀よと答ふべし。斯かる畫像は何人も模造することを得ざるべし。受苦の記事は全部を通じて一致するを見る。此は完全なる作にして、左程基督教に贊成せざる知名の一記者すら假作的人物の口を假りて其所感を表白せり、其言に曰く、若しソクラテスの死は哲學者たるに善く適するとせば福音書中に描出せるキリストの受苦は神たるに善く適するものなり。

七。福音書中の歷史は歷史の木匡に嵌きるものなり、委く云へば、福音書中には其時代(書中記錄する事件の起りし時代)の歷史、習慣、風俗、思想の樣式、事情を示せる記事甚だ多し。其中少數の記事に就き、反對派の批評家は其精確を疑へども、多數の記事は其誤なきを證明せられたり。此等の記事中多くは偶發の事件に關するものなれども、歷史の上に新發見ある每に、其誤なきを證明せられ、以前に爭論の主題となり居りし事件すら解決せられたり、而して歷史の研究が進むに從ひ、彌多く福音書の記事に歷史的性質あるを證明せられたり。然るに細かなる歷史の事件を多く暗示する歷史の木匡に多數の小說的記事を嵌込むことは、卓絕なる詩人及び小說記者と雖も皆同じく難しとする所にして、彼等の著作は之を證して餘あり。斯く爲したるが爲に最も卓絕なる小說記者と雖も多くの誤謬に陷れり。然らば多數の迷信的神話記者が、福音書の記事に於けるが如く、其創作を歷史の木匡に嵌込みしとせば(殊に事件の起りし場所より遠き地に於て)彼等が遭遇せし困難は如何許ぞや。常識ある讀者は其困難の大なるのみならず打勝ち難きものなることを推斷するに至るべし。

此外福音書中に描出されしキリストの人物は驚くべき程に終始一致せる想を表はす例を擧ぐることは容易なれども、本論の目的を達する爲には前述のものゝみにて充分なるべし。余は今種々別々なる此等の描寫が各特色を表はし、相合して調合せる一個の人物を成すと云ふ點に就き、讀者の周到なる注意を請はざる可ら

す。讀者若し此點に注意せば、不信者が福音書の起源を說明せんとて立てたる得意の解釋は常識に反するものと推斷するに至るべし。余が前述せし如く、福音書中に描出せるキリストの畫像を歷史的實在の描寫とする解釋はあらゆる過去の歷史と現在の事實に均しく適合するものにて、他の解釋は之に適合せず、又適合すること能はざるなり。故に此解釋は眞なり。

本章を終るに當り、吾人が今既に考究せし解釋は實際何を意味するかを一考せしめよ。此解釋の假面を脫すれば、其意味する所は他なし、即ち千八百有餘年間善を目的として働きたる最大勢力、及び歐羅巴と亞米利加に存在する大多數の制度をして現在人類の幸福を增進せしめつゝある最大勢力は幻想に基くと云ふにあり。然らば若し福音書中のイエスは想像に基く創作にして、歷史的實在に非ずとすれば、幻像と幻影は驚くべき勢力の中心にして、曾て存在せし有ゆる實物よりも更に愈りて善を起し、驚くべき感化を世に及ぼせり。若し然らば左の一事は眞なり、即ち人の世にあるは影に異ならず、其思ひ惱むことは空しからざるはなし。然らば何故に眞理の爲に、努力するや。幻想は實在よりも有力にして、其感化は(善を起す爲に)人間の中にて最も多く智あり德ある人の有ゆる犧牲獻身よりも大なるに非ずや。若し然らば萬事は空なり、現世は夢なり、來世は虛なり、人間の希望(彼の最善の希望と云ふべきにあらずや)も永遠の靜寂中に埋沒せらるべし。彼は其出來りし靜寂中に急ぎ往き、其處より再び起上ること無かるべし。此は吾人の基督教と神に就ける信仰とに代へて採用する爲に提出されし宗教なり、然れども吾人の信ずる神は憐みある吾人の主イエス、キリストの父にして、其國は永遠の國なり、其前には充足れる喜あり、其右には諸ろの樂永遠にあり。

第五章

道德に就けるイエス、キリストの教訓。

「イスラエルよ聽け、我等の神なる主は惟一の主なり。汝心を盡し精神を盡し意を盡し力を盡して汝の神なる主を愛すべし、是れ第一の誡なり。第二も之に同じ、己の如く汝の隣を愛すべし。學者イエスに曰けるは、善い哉師よ、神は惟一にして其外に神なしと汝の言ひしは眞なり。又心を盡し知慧を盡し精神を盡し力を盡して之を愛するは總ての燔祭と禮物よりも愈るなり(可十二〇廿九至三十三)。

若し福音書中に描出せるキリストの超人的人物は過度に熱したる弟子等の想像に基く創作なりとすれば、道德に就ける彼の教訓として福音書中に記載せるものも、狹量と排外に傾きし猶太人の境遇中に養育と教育を受けたる一野人より出しものとせざる可らず。然らば如何にして斯の如き道德的及び心靈的空氣の中より道德上の世界的法則を提出せし教師を出せしや、彼は有ゆる道德家の感化を綜合せしものよりも更に大なる感化を世に及ぼせり。此問題に對する不信者の解釋は如何。吾人は此點に就ても左の問を出すことを得るなり、即ち如何にして此人に斯の如き智慧ある乎。

此問に對して二個の答あり。第一はイエス、キリストが其血統と境遇より生せし束縛を打破するを得たりしは彼に卓絶なる天才ありしに因ると云ふにあり。第二はイエスキリストの教訓中に包含する種々の誡は他處にも發見し得らるゝが故に、彼は異常の事をなせしに非ずと云ふにあり。

一。此二答中第一に就ては左の事を言ふのみにて足るべし。即ち此答は余が前の數章に證明せし事を確むるものにて、イエス、キリストは人類の中にて絶對的に無類なる人物なり、されば人類の中にて唯彼のみ血統と境遇より生せし制限を打破することを得たり。故に讀者は前の論を此答に應用するのみにて充分也。

二。第二の答、即ちイエス、キリストの誡は他處にも發見し得らるゝと云ふ點に就ては、其實此誡に似たるもの僅ばかりを他處にも發見し得るに過ぎず。余が前に述べたるが如く、タルムッドの中には多量の價値なき物質中に數粒の黃金埋れるを發見し得る也。東洋に於ける道德の法則に就ては、釋迦牟尼、ゾロアステル、孔子などの教訓が當時ナザレの僻村に入込み居りしか、若くは大體に於て猶太思想

に幾何かの影響を及ぼし居りし證據更にあることなし、又縱令前の答は眞なりとするも、道德の敎師としてイエス、キリストの及ぼせし感化が有ゆる哲學者と道德家の感化を綜合せしものに超越するに至りし理由は其答に由て少しも說明するを得ず。

然れども此反對論は全く要領を得ざるものなり。實際の問題はイエス、キリストの興へし個々の誡が他處にも發見し得らるゝや否やと云ふに非ずして、個々の誡より成立する其組織が他處にも發見し得らるゝや否やと云ふにあり、又前代の思想家中何人か之に類似のものを作りしや否やと云ふにあり。抑も道德上の誡は其聯絡の位置と之を聯絡せしむる思想の組織如何に因て眞價を有するものなり。人は特別なる天啓の祐助を假るに非ざれば、道德上の眞理を多く發見する能はずとは、名聲ある記者中何人も主張せざるべし。人に之を發見し得る能力あるは、神が彼に德性を賦與したるより來る必然の結果なり。故に若し道德に就ける主の敎訓は充分に範圍廣き組織のものとすれば、人々の發見せる個々の眞理も其中に含まるゝが故に其敎訓の獨創を損ふとなし。又人は其知力に由り多少道德上の眞理を發見したるが故に、人間の幸福を起す者に必要なるものを悉く發見したるものと謂ふを得ず。加之、基督敎の本旨は倫理に關する一組の眞理を提出するにあるが如く假定して、反對論は立てられたるも、其實を云へば、斯敎の大目的は大なる道德的及び心靈的勢力を有せざる人間に之を有せしむるにあり。故に吾人の考究すべき實際の問題は、基督敎の敎訓や、有ゆる古代の智者が發見し得ざりし特性あるや否やと云ふにあり。基督敎は德性を有する人間に道德の法則を守ることを得せしむるに足るべき心靈的勢力を與ふるや否やと云ふにあり。古代の哲學者は此勢力の缺乏を深く感じたりしも、自ら之を供給すること能はざりき。

新約聖書の敎訓中、古代に於ける有ゆる大思想家の敎訓と殊に著しく相違せる點を擧ぐれば、其主要なるものは左の如し。

一。其熱心と主眼に於て著しき相違あり。

何人にても新約聖書を讀まば、書中人を敎ふること極めて熱心にして實際的なることを第一に感ずべし。彼は行爲を律する爲に一組の規則を示すことを目的

とせず、寧ろ人々に道德上の法則を守らしむることを主眼とする一群の教師に接するが如く感ずべし。此點に於て古代に於ける道德家の教訓は著しく相違す。彼等の主眼とせし所は主として知識的なりき、即ち義務の基礎となり、行爲を律する諸誡の基礎となるべき原理を究むるを以て目的とせり。故に彼等は人を教ふると自然に冷淡となり、隨つて結果を生せざりき。吾人は新約聖書を研究して後、古代に於ける道德家の書を讀む時、白熱と稱するも不當ならざる熱心の境域より理窟のみにて熱心なき特性ある思想の境域に移りたる感なきを得ず。

二。基督教に於ける義務の法則は充分に範圍廣き點に於て著しき相違あり。

此法則は左の三大主義に基づく。

(一)神に對する關係を基礎として人々相互に盡すべき義務

(二)己を視る分量を基礎として人々相互に盡すべき義務

(三)イエス、キリストに對して負へる恩義を基礎として人々相互に盡すべき義務

右の中第一と第二は本章の標題にある語中に示され、第三は左の新誡中に示されたり、即ち「新しき誡を我汝等に與ふ、曰く、汝等互に相愛すべし、我が汝等を愛せしが如く、汝等も互に相愛すべし」。

「己の如く汝の隣を愛すべし」と云ふ誡は類似のもの他にも發見し得らるゝことを主張する人あるべし、然れども神に對する關係を基礎として人々相互に盡すべき義務を示し、且新約聖書に始終示せるが如く、人々に道德の法則を守らしむる爲に有力なる動機として之を示すことは、古代の哲學者若くは道德家の曾て爲さゞりしこと明かなり。又新しき誡の如く、自ら他人に表はせし愛を基礎として、人々相互に盡すべき義務を教ふるが好きことは、過去に於ける有ゆる哲學者及び道德家の蔑視せし所なるべし。されば此二點に於て基督教は無類なり。

然らば此三大主義の下に包含せらるゝものは何ぞや。此等は天下の人類に普ねく及ぼすべき義務の法則を示すものにして、此法則は神の父たる事とキリストの愛とを基礎として、人類は互に兄弟なりとの大主義を表はすもの也。之に反して、古代の道德家に同類として何人にも義務を負はざる可からずと云ふが如き概念を有する迄に進歩せずして、其義務を及ぼすべき範圍を狹き境界の市民、人種、社會のみに限りたり。故に彼等は人類中の大多數を夷狄視し、此等の人間は義務を

及ぼすべき範圍外に在るものとせり。イエス、キリスト以後に起りし後世のストイク派哲學中に、麗げなる四海兄弟の概念あるを發見し得れども、其基礎となるべきものを缺けり、何となれば此派は萬有神敎を主義としたればなり。されば此派中より普ねく巡りて善を行はんが爲、己の生涯を悉く犧牲にせし弟子を一人も起さゞりき。要するに、古代の哲學者及び道德家は、近世に於ける或派の思想家がなせし如く、道德を宗敎より引離し、之に由て其誠より有ゆる道德的及び心靈的勢力を除き去れり。之に反してイエス、キリストは此二者を一致せしめ、宗敎より來る所の有ゆる認許に由り道德上の主義を勢力あるものとなせり。

三。一層温和なる道德を重んずる點に於て新約聖書の敎訓は古代の哲學者と道德家の敎訓に比すれば著しく其度を異にす。

古代の哲學者と道德家の場合に於て明白なる事實は、彼等の哲學中何れも政略的及び英雄的なる德(智と勇の如き)を第一位に置き、一層温和なる德を全く次位に置きしこと是なり、而して彼等は以上二者中の後者に屬する謙遜(基督敎中殊に重んずる德)を殆んど德の中に數へざりき。之に反して、基督敎に於ては一層温和なる德を第一位に置き、之を重んずること恰かも哲學に於て政略的なる德を重んずるが如し。古代の哲學者は其實修に於て後者に屬する德を充分に奬勵し、其行爲に於て最も愈れる勇を表はせり。然るに基督敎に於ては順序を顚倒し後者よりも前者に屬する德に重きを置けり、是れ疑ふ可らざる事實なり。然らば此二者中何れが是なる乎、新約聖書の記者なる乎、將た哲學者なる乎。此問に對する近世の答は、前者是にして後者非なりと云ふにあり。若し過去四千年の間、輿論は一層温和なる德を、英雄的なる德に於けるが如く、重んじたりしならんには、人類の幸福は千倍も愈りて增進したりしに相違なし。

四。基督敎は政治に關する法律制定の爲には一切の盡力を避け、全く無關係なる點に於て著しき相違あり。

此は疑ふ可らざる事實なり。基督敎が人類一般の宗敎となるに適する所以も亦茲にあり。古代の大哲學者と大思想家は之と全く相反する習慣を有したり。彼等の倫理問題は常に政治問題の趣を表はし、彼等の倫理學は政治學の一部門なりき。彼等は人民に德育を授くべき理想的共和國を起し、之に由て其大志を成就

せんとを唯一の希望とせり、然れども其共和國は彼等の望に應じて實現し來らざりき。舊約聖書中にすら或る組織の政治に關する法律は、神權より出づるものとして提出せられ、又預言者の教訓は一個人の良心よりも寧ろイスラエルの政治團體を教育せんが爲に予へられき。然るにイエス、キリストは自ら一王國の建設者なることを宣言すると同時に、其教訓中政治問題と社會問題に一切立入らざりしことは明白なる事實なり。其言中政治に關する趣ありと稱せらるゝものは左の一言あるのみ、曰く「カイザルの物はカイザルに歸し、又神の物は神に歸すべし」。此言は永久に個人の良心を國家の干渉より脫せしめ、政治と宗教とに各其守るべき本領を予へ、個人の自由を永久に確立せり。

イエス、キリストの時代より約六百年後にマホメットの宗教起りて侵略を始め、一時基督教國を滅絕せんとする勢を表はせしことは顯著なる事實なり。該教の聖書コーランには教祖の宗教的教訓のみならず、眞正の信徒が神權より出づるものとして承認すべき一種の政治に關する法律をも記載せり。然れども政治に關する此等の法律は吾人の目前にて回々教を破船せしめし暗礁中の一にして、該教が最初より永久に人類の宗教となるに適せざりし所以も亦茲にあり。懷疑者は、若し好まば、事物の眞相を洞觀せしイエスの此先見を天才と稱するを得べし、然れども此は神の顯現を證する所の天才なり。

五。イエス、キリストは一言にて人類の宗教を永久に確立せり。

其言に曰く「婦よ我を信せよ、唯に此山のみに非ず亦エルサレムのみにも非ずして、汝等父を拜すべき時來らん。眞の拜する者靈と眞を以て父を拜する時來らん。今其時になれり。夫れ父は斯の如く拜する者を要め給ふ。神は靈なれば拜する者も亦靈と眞を以て之を拜すべきなり」（約四〇廿一至廿四）

恐らくは此よりも愈りて崇高なる言は曾て人の唇より出でしと無かるべし。凡て古代の宗教は地方的にして、其心髓は儀式的なりき。主が其中に生れて教育を受けし猶太教すら、其聖書には神に就ける極めて崇高なる概念を多く記載したるにも拘らず、以上の例に漏るゝこと能はずして、只一國民にのみ適用せられたり。然れども主の言は事物の眞相を穿ち、凡て國民的、地方的、儀式的の宗教は全く價値なくして、唯心靈的禮拜のみ眞正にして、永久に存續することを言ひ表はせり。加之

主は禮拜の對象なる神は「父」なることを宣言し、之に由て宗教を抽象の境域より移出して、之に道徳的性質を有せしめき何となら、神は父としてのみ禮拜者の禮拜を嘉納し得れば也。又神は若し「父」ならば、其裔なる人類は兄弟ならざる可からず。主は此言に由て有ゆる哲學者と道徳家が爲し得ざりし所を爲し得たり、即ち人間の宗教的渇望を道徳的性質と一致せしめたり。試みに之を近世の人類崇拜と其道徳的狀態とに比較せよ。先代の文學中幾分にても此言の如く、理會力極めて廣くして、事物を深く洞觀することを表はすものあるや、之を發見するは難かるべし。

六。イエス、キリストと古代の哲學者及び道徳家は其使命の性質と範圍に就き各其所見を異にせり。

古代の哲學者と道徳家は少數なる精神上の貴族のみを其使命の範圍内に置けり、是れ彼等の立場より生せし必然の結果なり。彼等の教へし所は宗教に非ずして哲學なり、彼等の目的は人類の道徳的改新を目的とする會社を立つるに非ずして、哲學研究の爲に學校を設くるにあり。されば人類の道路と離の邊に往き、强ひて墮落者を引來るが如き事は彼等が全く思ひ至らざりし所なり。其理由は明白にして、彼等は斯かる者の爲に福音あるを悟らず、反つて救助の望なきものと思ひたり。彼等は主の比喩中にある祭司とレビ人の如く、路傍の彼方を過往きて、墮落者を其亡ぶる儘に捨置けり。惟ふに左の二句はイエス、キリストと哲學者が、其使命の性質と範圍に就き、各其所見を異にせしことを殊に著しく表はすべし。哲學者の宣言せし所によれば、哲學の特別なる使命は「人類中天性德に進む傾向ある人々にのみ及ぼすべきものにて、人類中の大多數を善に導くことは不可能なり、何となれば彼等は恥を知らずして、唯恐るゝ傾向を有し、又彼等が惡事を避くるは之を恥づるが爲に非ずして、罰を恐るればなり」（アリストートルの倫理學第十卷）。之に反して、イエス、キリストの宣言せし所によれば、彼の「來りしは義人を招く爲に非ずして、罪人を招かんが爲なり」、而して彼が多數の罪人を其墮落の中より救助せしことは事實なり。

七。基督教によりて驚くべき道徳的及び心靈的勢力は起されたり、哲學者は此勢力の必要を認めしも、發見し得ざることを告白せり。

此は有ゆる相違中の最も著しきものなり。基督教は墮落者を其墮落の中より救ひ出し、聖なる者を高めて更に聖ならしむるに足る程の勢力を有すと宣言す、此點に於て斯教は無類なり。此勢力は斯教の聖書中之を稱して信仰と云ふ。

之と對照して、古代の哲學者と道德家が自ら墮落者の改良に從事するに當り、彼等が利用することを得たりし勢力を枚擧せしめよ彼等は德に導く爲に普通の動機に訴ふることを得たり即ち道德上の美を愛すること、犧牲獻身の高尚なること德行の人には不德の人よりも概して幸福多きこと(此は個人の嗜好に由るものにて、德行を始むるには其趣味あるを要す)是なり。然れども斯かる動機は斯かる知覺を缺ける人々に何の効力をも及ぼさゞるべし。不道德の境遇に沈める人に向ひ、聖潔の德は美なるが故に之が實行を勸め、又は犧牲獻身は高尚なるが故に之が實行を勸むるも、何の用をもなさゞるべし。己が欲と情の奴隷となれる人には、斯かる動機は其束縛を脫せしむる助とならざるべし。斯かる人は其中の靈を勵ます爲に、其性質を全く一變するに足る程の勢力ある罪の自覺を起さしむるに非ざれば、到底改心せしむること能はざるべし。

哲學者が道德上微弱なる者又は墮落せる者を更生せしむるの力なかりしことを說明せんが爲に、吾人をして左の場合を假定せしめよ。即ち繼りて德を行はんと欲する人あらんに、彼は哲學者を心靈上の醫者とし、道德上健康狀態に復すべき處方を尋ねしとせよ。然らば其哲學者が予へ得たる唯一の助言は如何曰く德を行へ、さらば汝は時至りて德行の習慣を形造り、又漸次に德行の主義を形造り、之に由て已の力を得るに至るべし。心靈上の病人又問て曰く、如何にせば德を行ふことを得るや、汝は情を制する力を喚起して活動せしむるに非ずんば、如何にして猛烈なる我が情を制することを得んや。哲學者は其立場より陳腐なる數言を發するの外、何をも答ふること能はざるべし、其理由は明白也。哲學者は罪に就ける宗教的自覺を助として、人の良心に訴ふること能はざりき、何となれば斯かる自覺は哲學者自身にすら缺けたればなり。故に彼の處方は其患者には唯嘲弄となりしに過ぎず。惟ふに哲學者は品性を改良し又之を堅固にする爲に習慣の力あることを多く語るべし、されど無數の誘惑に取圍まれし不德なる我は、如何にして德行の習慣を形造り始むべきやと問はゞ、哲學者は之に答ふる辭を有せざりしならむ。

されば哲學者が全く失敗せし所に基督教は踏入れり。然らば斯教は如何にして其目的を成就せんと企てしやと云ふに、其方法は、宗教の勢力を悉く擧げて人間の道德心を勵まし、之に由て道德的及び心靈的眞理に就き彼に確信を起さしむるにあり、又神が人間に對し、人間が神に對する關係を彼に示すにあり、又人に其責任を深く感せしめ、又未來に於ける審判の事實なるとを深く感せしむるにあり、又イエス、キリストの人格を新しき靈的生命の中心として彼の前に表はすにあり、主の生涯と死とは神的感化を有し、清潔、純良にして神と人とに愛せらるべき總ての德を完全に表はすものなり、又吾人が誘惑の力に打勝つ爲に、吾人の求むる時は神の祐助あるとを約するにあり。此方法に由て基督教は何人も數ふること能はざる多くの墮落者を純良なる狀態に復せしめ、又其感化に浴せし純良なる者を更に高めて一層純良なる者となせり。

以上は基督教の教訓が過去と現在に於ける有ゆる他の宗教と趣を異にする一班を述べたるに過ぎず。此等は皆十分に顯著なる相違なれども、最後に擧げしものは殊に顯著なり。人間の靈性を勵まして更生せしむる基督教の力を新約聖書の語にて云へば信仰なり、即ち神を信じ、キリストを信じ、來世の實在を信ずる信仰なり。他の純良なる動機も皆之を補助として採用すれども、此等は其中の心髓なり。されば使徒の一記者は告げて曰く「我等をして世に勝たしむるものは我等が信なり」と。然れども古代の哲學者は深遠なる宗教的確信を自ら有せざりし爲、道德的及び心靈的勢力として信仰の有力なることを知らざりき。彼は自ら有せざるものを他人に予ふること能はざりき。故に彼は墮落者を其墮落の中より引上ぐること能はずして失望せり。されど近世の哲學者は失望の色なく、支柱なき梃を以て多數の墮落者を引上げんと試みつゝあるなり。

今余をして此論と前論の幾分に就き其結局を約言せしめよ。哲學者は人間の德性を深く研究して後、彼を更生せしめ得る所の如何なる靈的勢力をも發見し得ざることを告白せり。イエス、キリストは驚くべき感化を人間に及ぼせり、而して千八百餘年を經過して後、尙ほ彼は極めて有力なる感化を與へて、人類を更生せしめつゝあるなり。前者は知識上の問題を論じ、後者は人の良心と衷心に訴ふるを常とせり。前者は人類中の大多數を見て失望し、彼等の靈性を高むる爲に生涯を

犧牲にする事は精神病者の幻象なるが如く考へたりしが、後者は千八百有餘年の間、人類の改進を目的として爲されし運動中、殆ど總ての運動の創始者又は動機なりき。前者は德を行ふに由て有德の人とならんことを冷淡に勸めたりしが、後者は人間の靈性を有効に更生せしむる爲に、大なる勢力を其内なる靈に吹入れたり。前者は宗教が主義として良心に影響を及ぼすことを知らざりしが、後者は宗教の勢力を悉く人間の德性と靈性の上に集め、神的感化の完全なる理想として已を其中心に置けり。前者は德を高むる方法として善の抽象的觀念を默想すべき義務を說明せしも、之を群衆に理會せしむるは困難なりと云へり、然るに後者は其人的生涯に由て善の形體を人々の目前に表示せり。前者は書齋に於て實際に現れざる理想の共和國を冥想せしが、後者は天下一般の教會を創立せり。模範としてイエスと其教訓を有する今日に於てすら、哲學は其成功の點に於て古代に愈ることなく、均しく人々の良心をも衷情をも動かすこと能はざるなり。然らば吾人が爲し得べき唯一の推論は如何。余の答は左の如し、即ちガリラヤの一野人イエスは古今の偉人を悉く合せしよりも更に偉大にして、無類、無比、單獨の位地に立てり、別言すれば、超人的勢力は自ら彼の中に現れしものと認めざる可らず。

第六章

外觀微弱なりし機關に由て教會が建設せられしは其中に超人的勢力の働きし證なること。

紀元五十七八年の頃、コリント人に贈りし聖パウロの書中左の解あり、曰く「兄弟よ召を蒙れる汝等を觀よ。肉によれる智慧ある者多からず、力ある者多からず、貴き者多からざるなり。神は智者を愧かしめんとて、世の愚かなる者を撰び、强き者を愧かしめんとて、世の弱き者を選ぶ。又神は有る者を滅さんとて、世の賤き者、輕どらるゝ者、即ち無きが如き者を選びたまへり。是れ凡ての人神の前に誇ること無らん爲なり。汝等は神に由てキリスト、イエスにあり。イエスは神に立られて、汝等の智慧また聖また贖となりたまへり(哥前一〇廿六―三十)。

此はコリント教會の設立者より其會員に贈りし書翰の言にして、當時該教會は茲に描寫せるが如き會員より成立せり。吾人は使徒の設立せし他の諸教會も茲に描寫せると同樣なりしと假定するも不當には非ざるべし。簡短に言顯はせるが如く、該教會の會員中、教育ある上流社會の人は極めて少數にして、大多數は下等

社會と奴隷より成立せり。されば斯かる材料より靈的大帝國を建設して、カイザルの帝國よりも更に長き運命を有せしめ、又從來の文明を倒して新文明を起さしめ、其中に教祖の著しき印象を有せしむると云ふが如きことは、十分に哲學者、政治家、俗人の嘲笑を價すべし。然れども此書翰の記者が躊躇せずして確信する所によれば、世の愚なる者は智者を愧かしめ、世の弱き者は强き者を愧かしめ、世の賤き者、輕ぜらるゝ者、當時に於ける社會の階級中に無きが如き者は、哲學者の有ゆる智慧と政治家の有ゆる計算を愧かしむるに至るべし。此使徒は此機關の微弱なるを誇とせり、何となれば此機關に由て生出だされし結果は彼が傳へし福音の中に神の力あることを證したればなり、彼は其福音が勝を得て進み往き、將來にも勝を得ることを確信せり。現在十九世紀に生存する吾人は明白なる事實を眼前に見るが故に、彼の先見は之に由て證明せられ、果して誤なき預言なりしことを目擊する者なり。

然らば吾人をして、教會建設の爲に用ひられし機關が外觀微弱なりし事と、教會が其進歩の途中に於て遭遇せし妨碍の性質を簡短に觀察せしめよ。

一。此新社會の王として弟子等が宣傳へし人物は外觀無教育の猶太人にて、恥辱中の最大恥辱とすべき十字架上に死を遂げし事實のみにても、十分に全世界の異邦人より輕蔑を招くに足るものなり。十字架は猶太人種に最も甚く忌嫌はれしのみならず、初の三世紀間に於て之を耻とせし事は、其後千五百有餘年の間之を貴み、又十字架に釘けられし主を崇め來りし今日に於て、到底想像の及ばざる所なり。イエス、キリストの時代に於て十字架は凡て賤むべく憐むべきものゝ符號なりき。使徒パウロは之に對する一般の感想を述べて曰く、十字架は猶太人には礙くもの、希臘人には愚なるものなりと。然らば哲學者、政治家、俗人より見れば、此は教會の建設を企つる爲に妨碍となるべき弱點なりき。

二。猶太人及び異邦人より見れば、使徒等も亦同じく輕蔑せらるべき者なりき。其中數人は漁夫にして、最初の十二人中、教育ある者は一人も無かりき。故に彼等は博學のラビを尊敬せし同國人より「無學の小民」と稱せられ、又言ふ可からざる程猶太人を輕蔑せし異邦人より下等社會の猶太人と同視せられたり。

然れども他の使徒よりも多くの教會を異邦人中に建設せし聖パウロは異なる階級の人なりき。彼は大なるラビと同樣に、猶太人中に於ける最上の教育を受け

たり。彼は又希臘の高等教育を誇とせし一市に幼年の時代を送りたれば、異邦の思想を知らざりしに非ず。又彼の書と其中の言に由て知らるゝが如く、彼は多少希臘文學の知識を有したり。然れども彼は自ら語りし如く、大なる困難を有しながら働けり、彼の容貌は其弱き狀態を示し、彼の身は健かならず、又肉體に一の刺と稱するものを有したり、普通の推測によれば、此は彼が眼を病みしことを指せるものにて、大に彼を苦めたり。彼は又卓絶なる雄辨家にも非ざりし也。加之、彼が有せしラビの學識も、猶太人の聽衆には如何に多く益となりしにもせよ、異邦人の聽衆に對しては全く用を爲さゞりしならむ。彼は其書中屢ば已れの弱きことを言ひ顯せしのみならず、反つて其弱きを誇とせり、何となれば之に由て其傳へし福音に超人的勢力あることを證明したれば也。使徒パウロ即ち斯の如き人なりき、彼は已の輔助者として十人乃至十二人の伴侶を有したり、其中もと猶太人なりし者多くして、醫者たりしルカを除けば、社會に於ける彼等の地位は吾人之を知る能はず。異邦人中に教會を建設すべき義務を負はされし者は斯かる人々なりき。

三。此外、聖パウロの言によれば、主が未だ十字架に釘けられざりし以前に、主を預言者若くはキリストを信せし人々の中、五百以上の男女は尙ほ主に屬して、主の復活を信じ、主が靈的メシヤにして天國の王なることを確認せり。此人々の身分に就ては詳記する所なきも、福音書によれば、其中二人を除けば、餘は皆猶太國の議員なるパリサイ人が輕蔑して「法を知らざる此衆人は罰すべき者なり」と云ひし人々の階級に屬したり。彼等は皆猶太人なりしか、左なくば割禮を受けて猶太教に入る者なりしに相違なし。

往て萬國の民を弟子とせよとの命令を受けたる靈的軍勢は斯かる人々より成立せり。彼等は徧く世界を巡りて、到る處に神の教會又は神の國と稱すべき靈的新社會を堅固に、建設し、十字架に釘けられたるイエスを其國の王なりと宣傳し、萬民を募集して其民たらしむべきなり。使用せらるべき軍勢を成遂げらるべき目的と比較すれば、外觀に於ては唯輕蔑を招くの外なしと見ゆべし。之に加へて彼等が遭遇して打勝つべき妨碍の性質を考ふれば、一層確かにその如く見ゆべし。

此新王國の建設者が有ゆる種類の猶太人より確かに受くべき妨碍の性質は之を言ふの要なし。此王國と其律法は彼等の感想と偏見に反對し、彼等の傲慢を挫

き、メシヤに就ける彼等の希望に反くものなりき。加之、此王國の成功は彼等の中にて當時主權を有せし者の地位を危くせり。されば猶太人は最も強く此計畫に反對し、之を壓倒せんが爲に有ゆる手段を盡したりしに相違なし。然れども聖ヤコブの言によれば、初期の教會を形造りし六百の男女は、二十八年を歷て後、キリストを信ずる猶太人「幾萬」を以て數ふる程の團體となるに至れり。

聖パウロが其伴侶と共に神の國を羅馬帝國內に建設せし時、彼等が遭遇せし妨碍は、其性質同じからざるも、前者に劣らず烈しかりき。

一。ギボンの言によれば、哲學者と文學者は凡ての宗教を均しく僞と認めたり、委く云へば、彼等は外面に於て萬事其時代の狀態に從ひ、且つ之を重んずる態度を快く表はしたるも、其中に眞理あることを全く信せざりき、凡ての宗教に對しても彼等は概して斯かる意見を有したり。加之、其時代の哲學又は文學と基督教との間には殆ど共通の點なかりしなり。單純なる事實を云へば、基督教は斯かる人々の傲慢に對して妨碍となるものなりき。されば彼等は平素輕蔑せし猶太人より此新教會に入籍して會員となるべき募集を受けたるも、此新教會の王は、彼等が知れる如く、犯人として十字架に釘けられし者なれば、彼等は如何なる輕蔑を以て之を迎へしか吾人之を推知するに難からず。

二。政治家は何事にても最も危險なる改革と自ら思ふものには一層強く反對せり。ギボンの言によれば、「彼は凡ての宗教を均しく有益なるものと思ひたり」。羅馬帝國の政治家より觀れば、宗教は無學なる民衆を治むる爲に益となる機關なりき。例せば、古の共和政治時代に於て、官吏は己の贊成せざる法律案の通過を妨ぐる爲に、開議中の民會を烏占に由て解散することを得たり。此事實は多少當時代の迷信と狡猾なる政治家が人民の宗教を利用せし方法とを吾人に說明するもの也。古の共和國に於ける最高等の官吏は或る意味に於て祭司なりき、委く云へば、彼等は宗教上の儀式を行ふ資格を有したり。帝政時代には皇帝自ら祭司長なりき。而して宗教は全く國家の機關視せられし故、皇帝と從屬の祭司は不信者にても無神論者にても差支なかりしなり。實に宗教の事務を取扱ふことは最も重要なる政略の一なりき。されば國家が認可したる宗教を倒さんと企つる者ある毎に、政治家は極力之に反抗するを以て己の義務なりと考へたり。

三。又福音の宣傳は政治家と官吏より反逆の所爲と看做さるゝ危險ありき。使徒等は神の國と稱する一王國の建設とイエスを其國の王として宣傳する事を其說敎に於ける主要なる標題の一となせり。然るに認可なき社會の設立と王たる事の主張とは、如何なる種類のものにせよ、羅馬の政府は甚しく之を猜みたり。而して現世の王と靈界の王との區別を普通の官吏に理會せしむるは極めて困難なりしを以て、彼は前述の宣傳を聞き、之を現政府に對する隱謀として、嫌疑を起す傾向ありき。吾人が知れる如く、テサロニケに於ける基督敎の反對者は此感情を利用し、宣敎師を訴へて、此輩は「イエスと云ふ他の王」ありと言て、カイザルの命に背く者なりと云へり。兄弟等は此訴を容易ならざるものと見て、夜中直ちにパウロをベレヤに送りたり。

四。加之、新宗敎を輸入せんと企つるは常に羅馬の法律に背く者なりき。此等の法律は有ゆる國敎を默許せり。故に猶太敎は蔑視せられたるも尙ほ默許せられたり。然れども基督敎は猶太敎と區分せらるゝや否や、最早國敎に非ずして、法律の許さゞる宗敎となれり。加之、基督敎は當時の有ゆる思想に反せし新宗敎にして、有ゆる舊宗敎を非とし、信者となるには之を棄てゝ敎會に加入すべしと勸めたり。されば人々を斯敎に引入るる精神は政治家と官吏をして斯敎は當時の習慣を根抵より覆すものと思はしめ、彼等に大なる怒を起さしめき。

五。又基督敎は下流の人々にも均しく怒を起さしめき。ギボンが云へる如く、此社會の人々は「凡ての宗敎を均しく眞とせり」。故に彼等は當時の宗敎を悉く攻擊せし一宗派の行動に對して大に憤れり。狂熱せる暴徒が憤怒を起して一宗派に反對し、如何なる暴行をもなし得る事は、過去五世紀間の經驗に由て明かに知らるゝ也。然れども前述の衆民は狂熱よりも更に强き理由の爲に新宗派を惡みたり。劇場に於ける競技、遊戲、觀物などの娛樂は當時衆民の大に好みしものにて、彼等は隨意に入場することを得たりしが、其際常に偶像敎の儀式を行ふ習慣ありし爲、基督敎徒は入場せずして之に反對せり。而して彼が入場せしとすれば、そは彼が墮落せし犯罪人と共に猛獸の餌となり、微塵に嚙裂かれて殘忍なる群衆の目を悅ばす爲に出場せし時のみなりき。されば災害の起る時ごとに衆民は叫びて「基督敎徒を獅子に投與へよ」と云へり。

六。加之基督教を奉する事は普通の社交を妨げし場合少からず。當時の宴會は基督教徒より見る時は偶像禮拜と認むべき行爲も伴ひたれば、彼は之に反對するか、左なくば其招待を謝絶せざる可らず。他の方面に於ける社交も亦同じ。されば普通の人民が此新宗教を大に惡み、有ゆる汚名を信者に負はせ、彼等を目して人類の敵となしたるも亦怪むに足ざるなり。

然らば主が一小群の弟子に命令を與へ、羅馬帝國内到る處に於て己を靈的新王國の王なりと宣傳せしめ、其民となる爲に總ての人を招かしめし時、弟子等は此命令を行ふに當り、哲學者、政治家、祭司、遊客、中立者、下流の人民を含める當時の有ゆる有力者より反對せらるることを覺悟したりしに相違なし。彼等は確かに叫んで云ひしならん「我等は少數にして人に蔑視せられ、學なく才なく力なきに、如何にして有ゆる有力者の反對を支ふべきか」と。

然れども二十七年の間に成功は此微弱なる機關の運動に伴ひたれば、使徒の一人は其中に超人的勢力の顯現を認めたり。當時「幾萬」を以て數ふる程の會員を有する教會はユダヤ、サマリア及び附近の地に立てられき(聖ヤコブはパウロに語りて猶太人の信せし者「幾萬」ありと云へり)。主が十字架に釘けられし後十年を出ずして、有力なる教會はスリヤの首府アンテオケに立てられき。此處よりパウロと其輔佐たる宣教師は異邦の世界をキリストに服從せしむる爲に出發せり、而して彼等は二十五年間にクプロ、ピシデヤのアンテオケ、イコニオム、デルベ、ルステラ、ベルゲ、及び其附近の地方に於ける諸所、スリヤ、キリキヤ、ガラテヤ、トロアス、テサロニケ、ベリヤ、ピリッピ、アテンス、コリント、及び此首府のある地方の諸所、エペソ及び小亞細亞中にて有名なる七八ケ所の地に教會を設立せり。彼は羅馬に旅行せし時プテオリに既に設立されし教會を發見し、羅馬に着せし時、更に大なる信者の團體を見出せり。此教會は會員甚だ多くして、基督教に大不贊成なりし異教の一歷史すら七年後に至り此教會は夥しき大勢(ingens multitudo)より成立せしことを吾人に告ぐるに至れり。反對派の批評家は此語を他の意に說明し去らんと勉むれども、此語はニロ帝の迫害に關せる記錄中明白に記載せり。之と同時に他の宣教師も其運動を怠らざりしに相違なきも、不幸にして使徒行傳には其運動の情況若くは結果に就き何をも記載せず。

されば使徒パウロは二十七年間の運動に伴ひし結果を見て、神の力は現はれて此微弱なる機關の中に働きしことを確信せり。彼は此機關の微弱なると其遭遇せし妨碍の强大なるとに誇り、之を以て其中に神の內住せる確證とせり。若し彼は二百六十三年後の情勢を豫測することを得たりしならんには、彼の確信は一層大に增したりしに相違なし、何となれば其時に至り彼は羅馬の旗章中鷲の代りに輕蔑されし十字架を見、又ニロの帝位に公然たる信者の座するを見る可ければ也。コンスタンタインの改心は確信の結果なりし乎、政略の結果なりし乎、何れにせよ余の論旨には毫も影響する所なし。此は最も甚しき懷疑者と雖も爭ふこと能はざる事實にして、其時代には世の恐なる者、賤しき者、弱き者、蔑視せられし者、無きが如き者は智慧ある者、勢力ある者、貴き者、又は暴徒の反對せしにも拘らず、帝位に座する程、有力なる者となれり。斯かる結果は國家の保護に依らざるのみならず、反つて政府より大なる妨碍を受けしにも拘らず生じたり、而して十字架に釘けられたるイエスの宗教は世界を征服しつゝ進み往き、覺に近世に於ける文明の重なる要素となるに至れり。

然らば吾人の結論は如何。此簡短なる研究により吾人は確かに使徒パウロの語を用ひて「キリストの力は弱きに由て全せられたり」と云ふことを得るなり。機關の弱くして其擧げし成績の大なることは、主が微弱なる一組の宣教師に對して「見よ我は世の末まで常に爾曹と共に在なり」と約せし事の充分に成就せしことを證するなり、此約束に勵まされて彼等は主の命に從ひ、往て萬國の民を弟子とし、其事業に成功したるなり、されば彼等の成功を說明するものは此約束あるのみ。

第二編　基督教の奇蹟的證明及び其性質と證據

第七章

福音書及び其中に記載せる事實に就ける初代の基督教記者の證明。

「凡ての事試みて其善きものを守れ」(撒前五〇廿一)。

近世に於ける多くの記者は一擊の下に基督教の論を破らんため、力を盡して奇蹟の不可能なるを證せんとし、若しくは不可能ならずとするも、奇蹟の實際に行はれし事を記したる記事を歴史上の事實とせずして、大に疑ふべき者なるを證せんと企てたり。此論の周圍には多くの爭論起りしも、此紛はしき迷路に讀者を導き入るゝは余の目的に非ず。若し神なしとするか、或は神と稱する者は人格を有せざる勢力とするか、左なくば不可思議なる勢力にして、其性質は全く知り得られざるものとするか、然らば余は基督教的意義に於て奇蹟と稱するものは不可能なりと認むることを躊躇せず。科學上の觀察によれば、萬有の動作は一定せるが故に、

奇蹟は大に疑はしきものなりと云ふ。之より推して、一定の此動作は創造者の性質と全く相合するものにて、彼は如何なる場合にも一定の動作に外れたる動作をなさずと斷定せり、然れども此斷定は全く證據なき者にて、至上者の帷幕に入り、其目的を悉く會得し得る者にあらざれば之を眞理として確認するを得ず。之に反して吾人は若し人類の大多數が實際墮落したる境遇中にあるを思ひ、又人間の事を顧みる神ありとすれば(此は基督教の證據論に於ける假定)、人間の爲に特別なる神の干渉ありとし、隨て奇蹟ありとするは有り得べからざる事に非ずして、寧ろ大に有り得べき事となる也。然れども吾人は今抽象的推論に移るの必要なし、何となれば若しイエス、キリストは余が以上の六章中に論證したるが如き人物なりしとすれば、神が人間の爲に干渉せし事實は確實となり、神は吾人が奇蹟と稱する動作をなせしとするはなさざりしとするよりも一層多く有り得べき事なればなり。されば奇蹟は善く證明されし事實の如く、之と同じ證據に由て證明し得らるゝなり。加之奇蹟は甚だ非常なる事件ならざる可らず、何となれば若し然らざれば、基督教の天啓なることを證する程の價値なきものとなればなり。

基督教證據の重なる基礎は千八百有餘年前に興へられし奇蹟的證明にありと思はれし間は、道德的證明と同樣に基督教を證明する爲、實際に奇蹟の行はれし證據を擧ぐるの必要ありしなり。此はペエリの大著中にも、又彼の主義に從ひし多くの記者も採用せし論線にして、其要點は左の命題中に包含す。

「多くの人自ら基督教の奇蹟を最初に目擊せし者なるを宣言し、自ら好んで其述ぶる事柄を證明するの勞を取り、又全く其事柄を信ずる爲に、自ら骨折り、危險を冒し、苦を受けて其生涯を送りし事と、同じ動機よりして其行爲を新しき法則に從はしめし事に就き充分の證據あり」。

又之に追加すべき命題は左の如し。

「人あり自ら他に同類の奇蹟を目擊せしことを揚言し、其述ぶる事柄を證明する爲、又全く其事柄を信ずる爲に同樣の行爲をなせし事に就き充分の證據なし」。

此論は前世紀の不信者が概して贊成せし論、即ち元始の基督教宣傳者は狡猾なる欺騙者なりしとの論を破ぶる爲には非常に勢力ありしも近世の不信者は此論の維持す可からざるを見て之を捨て、他の說を以て之に代用せり、其說によれば福音書中に超自然的分子あるは初代の弟子が其師を頌揚せんと欲する熱心と彼等に生じ易き精神の錯亂とに原因すと云ふ。ペエリの大著作は全く異なる論に答ふる目的ありしを以て、現今の反對論に答ふるには、種々の點に於て不足する所あるは當然なり。

此論を普通の讀者に理解せしむるは困難にして、之を證するには種々錯雜なる歷史上の研究を爲さゞる可らず、又其研究の結果を適當に評定するにも斯かる問題を專門的に研究する人の伎倆に待たざる可らず、されば世務に多忙なる人は之を研究するの時間と機會を有せず、止を得ず專門家の推定に信賴せざる可からず、而して若し其推定にして一致せざる時は疑惑に陷るの外なし。故に吾人は一層簡短なる論線を辿るの必要あり。然れども之を爲す前に二例を擧げて斯かる研究の錯雜なるを示し、以て余が意のある所を明かにし置くべし。

一。奇蹟の證明は基督教證據論の重なる支柱なりと假定すれば、吾人の福音書は各其書名の記者が記せしものなるか、又各記者は其記錄せる事實の目擊者なるか、左なくば其目擊者に就て其事實を確むる機會を有せし者なるかを證すべき必

要あり、而して之を證するには初代に於ける師父の書を綿密に研究せざる可からず。然るに之を研究するに當り、甚だ迷惑なることは此等の師父中一人も福音書の書名を記せざりし事なり、されば此等の師父が實際に福音書を引用せしことを證すべき必要あり。然れども是も只其事實に最も近きことを證し得るに過ぎず、何となれば師父の書中には主の教訓と行動を記述する所多くあるも、其引用せし記事は福音書の記事と符合せざる所少からざれば也。此は反對論者をして此論點には充分の證據なしと云はしむる餘地を與ふるものにして、果して其然るや否やは錯雜なる爭論の問題となり、歴史上の研究に熟練せざる讀者は此論の當否を適當に判斷するを得ず。

二。奇蹟の證明は基督教證據論の重なる支柱なりと假定すれば、基督教の奇蹟を最初に目擊せし者は眞實に超自然なる出來事と其知らざるにより、その如く見えし出來事とを識別する能力ありし事と、凡て他の證據は其報ずる奇蹟の事實なるを證するに足らざる事を證すべき必要あり。此二者中第一の點は現在殊に必要なり、何となれば昔は疑もなき奇蹟と思はれし出來事も今は普通の自然力によりて生せしものと認めらるゝ場合多くあればなり。併し第二の點も亦同じく必要なり、何となれば羅馬教會は現今に至るまでの奇蹟的證明を受容れし事を宣言するのみならず、奇蹟として證明せらるゝ出來事は其數甚だ多ければなり、而して其中の或ものに就ける證明は、其證明のみに依賴して他の點を顧みざる時は頗る有力にして、其奇蹟の事實なるを主張する人の信仰も確かなり。此等の奇蹟中現今精靈說上の勢力に由て起さるゝものとして證明さるゝ奇蹟あり、信ずる者は之を不可思議なる自然力の作用に歸すれども、普通の人は斯かる奇蹟と眞正の奇蹟とを識別するを得ず。然れども斯かる奇蹟の事實なるを主張する人々は多數の高等教育を受けし人々にして、其中には二名の卓絕なる科學者あり。されば猶太教と基督教を證明する爲の奇蹟のみ眞にして、他の奇蹟は皆僞なることを證せんには、甚だ錯雜なる歴史上の證明を要するなり。

故に余は今一層簡短なる論線を撰ぶべし、斯くなす時は錯雜なる論線と同一の結論に吾人を導くのみならず、讀者をして種々錯雜なる歴史上の研究を要せずして、自ら種々の點を確めしむるの便あればなり。されば證すべき點を明瞭に說述

せば左の如し。

一。紀元三十年より百八十年までの間に種々の小說、神話、奇談の類は創作せられし爲、イエスの履歷に關する實際の事實は消失せて忘れられたるのみならず、純粹に人間なるイエスは變化して、現今の福音書中にあるが如く、神なるキリストとなれりとするは不可能なること。

二。イエス、キリスト十字架に釘けられしし後間もなく敎會は彼の復活を信せし爲に再興せり、而して此信仰は想像に基づく數回の顯現を事實と誤認せしより起りしとするは不可能にして、其顯現は復活せしイエスの實際的顯現なりしとするは唯一の合理的說明なる事。此二者中第二の點に就ては後章に於て考究すべし。

余は此論線を採用して、前述せし如き錯雜なる歷史上の證據に立入ることを避くべし。又經典を證し、福音書は各其書名の記者に由て著はされし事を證するは、神學上の見地より見て重要なるにもせよ、此は基督敎の天啓なるを證する爲に必要ならざることも亦明白なるべし。余は本書中極めて簡短に基督敎の證據を示し、其確實なるを證する爲に必要ならざるものは悉く之を除くことを務むべし。

余は既に福音書に於けるキリストの人物一致せるより、之を想像的、神話的又は小說的創作とするは不可能なる事を證したり。余は今全く異類なる證據、即ち純粹なる歷史上の證據に由て同一の結論に到着せんと企望す。余は紀元百八十年を余が論の起點とし、之より主が十字架に釘けられし時まで溯るべし。余が紀元百八十年を起點とせし理由は他なし、凡て文學上の名譽を重ずる不信者は全敎會が此年代に於て福音書を敎祖の履歷と敎訓の正確なる記錄として承諾せしことを許容すれば也。故に何人も爭はざる點を證するは不必要なり。余の爲すべき事は唯左の事實、即ち福音書中に集めたる主の敎訓と行動の詳細は實際に於て初代の弟子等が世に發表せしものと同一なる事實を確むるにあり。若し此點は確めらるゝとせば、不信者が云へるが如く、想像を以て事實を過大に叙述し、純粹に人間なるイエスを神なるキリストに變造するが如き餘地なかるべし。

紀元百八十年に於て四福音書のみ權威あるものとして一般に承認せられし爲、主の宣敎に關する他の物語は筆傳にせよ口傳にせよ皆消滅せし事實を考ふれば、無論福音書は以上の年代よりも幾年かの前に著はされしに相違なし。凡て寫本

を手寫せし時代に於て文書を出し、廣く之を流布せしむるには、特別なる事情あるに非ざれば、數年を經過せざる可からず、又教會によりては互に相距ること數百哩に及べるものもあるが故に、福音書を一般に採用せしむるの困難は一層大なることを忘る可からず。されば福音書が一般に承認せらるゝ迄には少からざる年月を經たるに相違なし、又主の行動と教訓に關する他の物語(路加傳の序言によれば此類のもの存せしを知る)が皆消滅して四福音書のみを權威あるものとして受容るゝ迄には更に長き年月を經たるに相違なし。余は若し此目的の爲に三十年を要求するとせば、讀者は之を穩當と思ふならん、若し然らずとせば、余は二十年にても滿足すべし。此は百五十年又は百六十年に溯るものにて、即ち主が十字架に釘けられし時より百二十年乃至百三十年となるものにて、若し小說的物語が作出されしとすれば、此年代より以前ならざる可らず。

余は更に歩を進めて主の宣教終りてより後八十五年以內又は聖ペテロと聖パウロの死後二十年以內に溯るべし。其頃の著者は殉教者ジャスチンにして、彼の著書は其以前に於ける基督教文學の殘留せるものよりも部數多く、其中には主の行動と教訓に言及せる所甚だ多し。彼の書は遲くも紀元百四十五年乃至百五十年に著せしものと假定し、又彼は其書を出す前の三十年間に於ける歷史上の事實を善く記憶せしものと假定せば、紀元百十五年乃至百十年に於ける教會の信仰に就ける彼の證明は正確となるなり。加之彼の自ら證明する所によれば、彼は普通の改宗者に非ず、彼は基督教を奉ずる前に種々の哲學を精密に研究して何れも不滿足なるを發見せり。されば彼は基督教に入らざる前に斯教の基礎となれる事實をも精密に研究せしこと明白なり。

ジャスチンの證明に由て明白となりし一事は、彼が其書を著すに當り、教會に傳はりし口傳のみならず、或る種類の文書よりも材料を取りし事なり、彼は其文書を「使徒と其伴侶の傳記」と稱し、又時として「福音」と稱したり。彼の告ぐる所によれば、此等の文書は信者の集會に於て公けに朗讀せられたり。されば此等の文書は公にせられてより多少年月を經過し、又其內容は主の行動と教訓に就き教會が既に受容れし遺傳と大體に於て符合するにあらざれば、斯の如く著しき者とはならざりしに相違なし。然らば「使徒と其伴侶の傳記」と稱する此等の書は吾人の四福音

と同書なりしか。彼の記述する所によれば、使徒の書とすべきものと其伴侶の書とすべきものと各二個ありて精確に四福音書と符合す。然れども此等の書は多分吾人の福音書なりしと思はるゝ證據あれども、實際確かにヂャスチンが言及せし文書は其なりと云ふを得ず、何となれば彼の書中福音書より引用せしものと證明せらるゝ記事は精確には符合せざればなり。されば此等の記事は當時存在せし他の福音書より引きしか、左なくば聖ルカが其福音の序に言及せし多くの記錄中より引きしものと推定するも妨げなし。

されば初代の基督教記者が他書を不精確に引用せし事に就き簡短に說述するは望ましき事なるべし。彼等は舊約聖書の七十人譯を用ひしに相違なきも、之を引用する時は、福音書を引用せし時の如く、其語の儘に精確に記さゞりき。其理由は明白にして、當時の寫本は段落なく、句點なく、又語と語の間をあけず、概して大字にて記したれば、引かんと欲する記事を發見せんには少からざる時間を費さゞる可からず。故に彼等は記憶の儘に引用するを例とせり。讀者は舊約より引用せし新約中の記事も亦同じく原文の儘ならざるを發見すべし。使徒等は概して原文の大意を引用せしのみにて、原文と全く同一の語を用ひざりしなり。余が此事を云ふ所以は不信者が斯く引用文の不精確なることを過當に利用するの習慣あるによる。

然るにジャスチンの書より供給せらるゝ證據は有力なるに相違なきも、其書中に引用せし記事は寸毫の疑なく吾人の福音書より引用せしことを充分精確に證するものには非ず。幸にして此點を證するは基督教の證據を確むる爲に全く不必要なり。然れども左の一事は彼の書に由て實際に證明せらるゝなり、即ち此等の傳記は如何なるものなりしにもせよ、又其部數多かりしにもせよ少かりしにもせよ、イエス、キリストの行動と教訓の詳細を記せしものにて、重要なる點に於ては吾人の四福音書に記載せるものと異なる所なし、而して吾人の證據に就ける重要なる點は、其中に奇蹟の記事と超人的キリストの畫像ある事なり。

此は最も重要なる論點なるが故に、余は明瞭に之を確むべし、何となれば此論點を充分に重視する時は種々錯雜なる歷史上の研究を進むるの必要を省けばなり。此師父の書中福音書の歷史を暗示せる所其數少なくも二百あり、若し計算の方法

を少しく變すれば、其數は一層多くなるべし。此中現今の福音書に記載せるもの百九十六ありて、記載せざるものは唯四個あるのみにて何れも左程重要なるものに非ず。ジャスチンの時代は主の宣教終りてより一世紀にも滿たざる程にて、福音記者の言によれば、主の言行中其書に記載せざりしもの多くありしと知らるゝが故に、ヂャスチンの暗示せる記事中福音書に記載せざるもの唯四個あるに過ぎずとは驚くべき事なり。然れども此は事實にして、彼の書は譯書もあるが故に、讀者は之を讀て容易に此事實を確むることを得べし。

余の論を簡短に述ぶれば左の如し。若しジャスチンは其書の材料を吾人の福音書より取らずして、當時流行せし他の書より取りしとせば、此等の書は主の行動と教訓の記事に就き吾人の福音書と異なること九十八に對する二、若くは百分の二の割合に過ぎず。されば此等の書は、主を奇蹟を行ふ者とし、又超人的人物として記載せし點に就き初の三福音と異なること九十八に對する二の割合に過ぎざる也。

余は更に歩を進めて云はん、若しジャスチンが吾人の福音書と異なる歴史の文書を多く用ひし事は證し得らるゝとせば、之に由て余の論點は强めらるゝのみなるべし。此は或人には殆ど逆說と見ゆるならむも、之を歴史的證據の問題として見る時は、用ゆる書の多きに隨ひ其證據は一層强くなるべし。若しジャスチンの用ひし「使徒等の傳記」は吾人の四福音書のみに限らずして、其數十二以上ありしと假定せば如何。彼が參考せし文書の多き程、彼が生存せし當時の教會に流布せし種々の遺傳を表はせし事は確かになるべし。今讀者をして多樣の歴史的證據を評價することを得せしむる爲に、余は英國史中にて能く知られたるトマス、エ、ベケットの暗殺事件を擧ぐべし。此暗殺に就き多數の記事ありし爲、歴史家は事件の眞相を細密に知ることを得たり、此は一個の記錄のみにては知ること能はざるものなり。讀者若し此種類の證據を充分に評價せんと欲せば、スタンリの著はせし「カンタベリ大聖堂の記錄」を參考すべし。此書中には此暗殺に關する細密なる記事あるのみならず、多樣なる證據の價値ある事を充分に表示せり(此は一個の記事のみにて充分に記述せられざるものなり)。讀者若し歴史の記臆がジャスチンの心に存する時期は主の宣教終りし後久からずして、ウエスレイ教の教祖死してより今日に至る迄と殆ど同一なるを記臆せば、彼の書より供給せらるゝ證據の價値あ

ることを一層適切に感ずるの助となるべし。然らば若し吾人の福音書にある奇蹟の記事と超人的キリストは種々の小説と想像的創作より成立するとせば、そは紀元三十年より百十年までの間に創作せしものとせざる可からず。

以上の言はジャスチンの書に就て異なるが如く、新約の經典中に包含せられざる初代師父の書に就ても均しく眞なり。此等の書中にて最も古きものは、近頃發見されし「使徒等の教訓」と稱する簡短なる文書を除けば、通例「クレメンの書翰」と稱するもの、即ち一層精確に云へば「羅馬教會の名を以てコリント教會に贈りし書翰」にして、紀元九十年乃至百年に著はせしものなり。此書中には共觀福音書中にあるものと酷似せる記事を包含す。併し記事は酷似せるも、果して共觀福音書より引用せしものなるや、之を確むることは不可能なり。此點は通例「使徒時代の師父」と稱する他の記者に就ても亦同じ。此等の師父が吾人の福音書中其一二を知り居たりし事は大に實らしく思はるゝが故に、吾人は是だけを認め得るに過ぎず。併し一歩を讓り、彼等が吾人の福音書を知り居たりし事は證明せられずと假定するも、彼等が知り居たりし主の宣教に關する記錄若しくは遺傳は福音書中にあるものと全く同樣の記事を包含するのみならず、彼等が眞實と認めし種々の言行中、福音書中に包含せざるものは甚だ僅かなることを彼等の書に由て確かに證明し得る也。されば教會は紀元八十年より百年までの間に、吾人の福音書中に包含せるものと酷似せる一部の遺傳を文書若くは口傳の儘に受容れ居たりしに相違なし、換言せば、彼等は事件の起りし時より唯五十年を隔てたるのみなりき。されば論者の云へるが如く、福音書は若し小説より成立し、其成立の時より眞正なるイエスの履歴は消滅せしとせば、此五十年間に其小説は創作せられて、人間なるイエスは神なるキリストに變造せられしものとせざる可からず。余は此期間を埋むる有力なる歴史上の證據として聖パウロの書翰を擧ぐべし。

然れども此問題に入らざる前に、初代の基督教會が主の履歴中主要なる事件と其教訓中大切なる點を善く記憶して之を保存すべき必要ありし事を讀者に注意するは望ましき事なるべし。

基督教の事實は歴史上に於ける普通の事實と同樣ならず、其異なる點を擧れば、此事實は基礎となりて教會が其上に建てられしのみならず、其事實に就ける知識

を絶えず、保存するは教會が其存在を繼續する爲の要件なること是なり、實に此事實は教會を社會として結合せしむる唯一の要素にして、個人なる會員の宗教的生命の泉源なり。此點に於て教會は有ゆる人立の會社と異なり、即ち教會はイエス、キリストに由て建られしのみならず、又彼の上に建てられて彼は其基礎となり、同時に隅の首石となれり。實情を云へば、教祖の履歴中の事實に因て教會は初めて存在する事となり、其事實を知る事は教會發展の爲に必要にして、若し其事實の小說的創作なる事が證明さるゝことせば、教會の滅亡は避くるを得ざるべし。此はキリストの教會が無類なる位置を占め、世間の有ゆる會社の中にて獨り教祖の人格(其履歴中の事實を知る事を包含す)を基礎として建てられし其結果なり。

更に注意すべき點は教會が常に改宗者を造るべき必要ありし事なり。若し斯くせざりしならば、教會は其設立されし世紀中に消滅したりしに相違なし。然らば教會は如何にして改宗者を造りしやと云ふに、イエスはキリストなる事を說きたるに相違なし。而して之を說くに當り左の二事をせざる可からず、即第一にキリストは如何なる意なるかを說明し、第二にイエスの履歴中の事實を示し、之に由て、彼のキリストなる事を充分に證明すること是なり。されば教會が其事實を確かに記憶するは改宗者を造る爲に必要にして、會員の德を立つる爲にも亦同しく必要なりき。

此等の點を考ふれば、主の宣教中の重要なる事件に就ける知識は教會の各會員に間斷なく傳へられて、明かに彼等の記憶に保存せられし事は確かなり、而して之を傳ふるには筆傳によりしか、口傳によりしか、又は二者を合せ用ひしかと云ふ點は余の論には何等の影響をも及ぼさず。此事實の重要なる事は普通の護教書中には餘り說かざるも決して輕視し得らるべきものに非ず。

此等の論點は充分に確かなりと假定せば、之より生ずる結論は左の如くならざる可からず。即ち主の履歴中の事實は最初教會の設立されし基礎となり、各會員の日々の生命の泉源となり、改宗者の爲に多くは其改宗の原因となりし者にて、此等の事實と全く性質を異にせる種々の小說的事項は、主の宣教終りてより第一世紀の末年までの七十年間、若くは其後長き間にすら、信者の團體中に信せらるゝに至りしと云ふが如き事は、不可能とは云はざるも、極めて困難なりしと認めざる可

らず。加之當時の信者は絶えず猶太教徒と異教徒に反對して日を過ごしたれば、彼等が從來の信仰を棄てゝイエスのメシヤなることを信せし理由を辨明するの必要ありき、而して彼等は主の履歴中の事實を明かに記憶したるに由てのみ之を爲すことを得たり。若し全く性質を異にせる物語を其中の或る團體に傳ふるとせば、會員は自然に叫んで、此は吾人が信仰の基礎となりし事實と全く異なるものにて、吾人が曾て聞かざる所なりと云ひしに相違なし。而して吾人の知る所によれば、他の數多き教會中の會員も曾て斯かる物語を聞入れしことなし。

加之此時期の全部は歴史上の事實を最も正確に記憶し得べき期間以内にあり。主の宣教を目擊せし者の中、幾分は紀元七十年まで、更に小さき幾分は八十年まで、少數の人は九十年まで生存したりしならむ。此等の人々の生存する間に一組の小説を以て主の履歴中の眞事實に代ふることを得べきや。若し然なせしとせば、之を創作せし者は最初の報告者ならざる可からず。而して其人々は故意に人を欺く者に非ずとせば、實際の事實に唯少しの後光を加ふるに過ぎざるべし。然れども傳聞によれる歴史上の證明は大體に於て信據すべき價値あり。吾人より五六十年も老耄にして有力なる目擊者が吾人に報告せし事實は吾人之を眞と認むることを躊躇せず。今生存する者の中にて、ツラファルガルの戰に臨みし人と面談し、其戰の大要を聞取りし人は其戰の事跡を充分正確に次の時代に傳ふるに適せし者にはあらざる乎。其人々の生存する間は、小説的事項を實際の事實に代用するは不可能なるべし。之よりも以前の戰にして、善く知られし場合に然なせし爲、著しく失敗せし例あり。主の宣教中の事件に關する此種の證明は紀元七十年より百三十年までの間に有効なるが故に、此期間若くは之よりも數年以後の間に、一組の小説を以て主の履歴中の大なる事實に代用するは不可能なり。

然るに余は一層有力なる證明、即ち聖パウロの書翰中の證明を貯へ置きたれば、次章には此書翰が歴史上の文書として價値あることを考究すべし。

第八章

歴史的文書としての聖パウロの書翰の性質と價値。

「我に力を賜へる我儕の主キリスト、イエスに謝す、そは我を此職に任じて忠信なる者となしたまへばなり。我昔は渡す者、瀆むる者、狂傳る者なりしが、我信せざる時知らずして之を行へる故に尚ほ憐を受たり」(提前一〇十二、十三)。

余は前章に於て左の諸點を論證せり、即ち第二世紀の初めに於て教會が教祖の行動と教訓に就き初めの三福音書に記載せるものと大體に於て符合せる遺傳を有せしことは同世紀中初めの八十年間に生存せし師父の書によりて充分に證せらるゝと、教會は主の行動と教訓に就ける眞實の物語を後世に傳ふる便利を有せしのみならず、然なすべき必要ありしこと、第一世紀中終りの二十年間に同樣の物語が教會に流布せしことは使徒時代に生存せし師父の書によりて證せらるゝこと、隨て紀元九十年以後に創作せられし小說的事項は福音書中に混入せざりしこと是なり。されば前に言及せし師父の證明ある時より主が宣教の終りし時まで尚ほ五六十年間の時期を餘すが故に、此時期の爲に他の證據を加ふるとせば、吾人の福音書は實際に於て初代の弟子中主の宣教を目擊せし人々の傳へし儘に、イエスの行動と教訓を精確に表示するものなることを確言し得るなり。抑も師父の證明を有する時期の全部は、近世に於ける有名なる記者の說に據れば、口傳の記憶が詳細の事に就ては絕對的に信を置かれざるも、普通歴史中の重大なる事實に就ては充分に正確なるものとして信賴し得らるゝ期間以內にあり、されば尚更口傳の記憶は主が宣教の大事實に就ては、余が前章中に述べたるが如き事情の下に信者の各團體に傳はりしものとして信賴し得らるゝなり。余は此點に注目して、殘れる時期を證するために聖パウロの書翰を擧ぐべし。

此等の書翰は最上等の歴史的文書なるにも拘らず、從來の護教記者が之を歴史的文書として多く使用せざりし事は吾人の大に怪む所なり。從來此等の書翰は辨護する爲に最も肝要なる材料とはならずして、反つて辨護せらるべき位置にある部分として認められき。其故他なし、一は此等の書翰が教理的神學の本源なるが如く認められたると、一は基督教を辨護するに必要なる部分として新約聖書中の各卷に經典的權威あることを證するの必要ありと思はれたるが爲なり。兎に

角此等の書中に認むべき歴史的文書の價値が除り認められざりし事は確かなり。隨つて此等の書により最も確實に證し得らるゝ事實を證する爲に、迂遠なる他の方法を取るべき必要ありしなり。併し乍ら此等の書翰を歴史的文書と認めしことなき研究者もあるべければ、余は先づ此等の書中に認むべき歴史的文書の價値を説明し、然る後此等の書翰によりて證明せらるゝ諸點を擧ぐべし。

一。歐羅巴の教育ある不信者中、此問題を研究せし人は殆ど皆新約中多くは他の書を眞作とし實錄とすることを否認すれども、聖パウロの書翰中にて最も大切なる四書翰、即ちコリント人に贈りし二書、ロマ人に贈りし書、ガラテヤ人に贈りし書は之を眞作とし實錄として充分に承諾す。故に吾人は彼等の承認するものを證明するに及ばず。然らば吾人は初代に於て最も多く活動せし基督教宣教師の著作なる此等の四書を有することに注目せざる可らず。此等の書は主が十字架に釘けられし後二十八年以内に記せし文書にて、時代を同くせし人の證明と認むべき價値あり。

此等の書に他の四書翰、即ちテサロニケ人に贈りし二書、ピレモンに贈りし書、ピリヅピ人に贈りし書を加へざる可からず、或る懐疑者は此等の書を實錄とすることに疑を入るれども、不信者すら其多數は之を聖パウロの作として承認す。之に反對する人の故障は甚だ瑣細なる性質のものにて、主として其中にパウロ的ならざる思想の表樣と形式ありと云ふにあり。然れども讀者は若し此等の書を自ら研究せば、四書共にコリント人とガラテヤ人に贈りし書翰と同一の著より出でたる確證あることを確認するに至るべし。而してテサロニケ人に贈りし二書は主の宣教終りし後二十三年若くは二十四年に記せしものなり。

新約中他の書に就ては、不信者なる批評家の多數は默示錄の外其眞作を否認す。彼等が默示錄を眞作と認むる所以は、其書中猶太思想の使徒と聖パウロとの間に意見の相反せる形跡あることを發見し得らるると思へばなり。然れども默示錄以外の書も歴史上の見地より見れば大に價値あるものなり。此等の書は疑なく古代のもの也。其著はされしは何れも教會の或部分に益を與ふる爲にして、其中に其部分に屬する人々の抱きし意見に就き爭ふ可からざる證據あり。例せば、聖ヤコブの書翰には疑なく猶太思想の基督教と認むべき意見は現はれ、聖ペテロの

第一書には讓歩せる基督教あるを見る。されば各其證明は聖パウロの記事を確むるものとして大に價値あるものなり。

余は今聖パウロの書翰中に認むべき歴史的文書の價値を示すべし。

原文の書翰にして其中に同時代の事件を暗示せる場合、殊に其記者が自ら其事件に關係せし場合には、其書翰の價値あるとは凡ての歴史記者が承認する所なれば、之を張大にする必要なし。若し其暗示が偶然なる時は殊に然りとす。斯かる場合に於て記者は概して預防せざれば、吾人は之が爲に實際の事實を發見するなり。是れ形式的歴史中屢ば歴史家の偏見に從つて實際の事實を文飾するが如き類に非ず。現今此類の書翰を發見せし爲、歴史家が偏見を以て記せし過去の歴史を改正して、全く趣を異にするものとなせし場合少からず。聖パウロの書翰ほど斯の如き偶然の暗示に富める書翰は他に其類あるを見ず。

二。聖パウロの書翰には彼の感情が種々に變化する中に終始同一なる人の書像あり。されば疑を入れられざる程明に彼の誠實は其中に現はれ、之が證跡は毎頁に印せらる。吾人は其中に彼が望を抱けるを見、又望を失へるを見る。又敵と戰へるを見、又友に胸中を悉く打明けるを見る。恐らくは此使徒の四大書翰ほど記者の性質を親密に表白する四書翰は他の文學中に無かるべし。此等の書翰によりて吾人は終始同一なる人を想起することを得るなり。其中には記者の誠實に就き爭はれざる證據現はるゝのみならず、彼が心中の秘密も其中に現はるゝを見る。此等の特質あるにより彼の證明は歴史上の證據として大に價値あるものにして、恰かも彼を法廷に立たしめて嚴重に審査することを得るが如く、其事實に就て彼の與ふる保證は有力なるものなり。

三。此等の書翰中彼が思慮の冷靜なりし點に就ても均しく有力なる證據あり。此は一層大切なり、何となれば彼は熱心なる氣質を有せし爲、殊に超自然に關する事項に就き、彼の判斷は信賴するに足らずと云ふ者あれば也。此使徒の熱心なりしことは何人も疑はざるべし、されど其熱心は最も冷靜なりし彼の思慮によりて制限せられたり。此點を證せんが爲に余は讀者がコリント前書十二、十三、十四の三章を熟讀せんをと請はざる可からず。此三章中には聖靈の超自然的賜物を論じ、又教會に於て之を使用する規則を設くる記事あれば、此は正しく熱心が粗暴に

流るゝことを預期し得べき場合なり。然れども見よ其賜物の使用を規則立つる爲に與へし命令中に彼の健全なる判斷は認めらるゝに非ずや。余は問はん、歴史中何人か彼の如く己と其書翰の讀者とを、其確信せし如く、超自然的勢力の下に在る者として考へ、此問題に就き斯かる命令を與へ、斯る辨論をなせし人あるやと。

四。彼は此冷靜なる思慮と共に寛容の精神をも兼備せり。熱心なる人多くは寛容ならず、されど使徒パウロの寛容なりしは敎會が長く其模範に倣ふこと能はざりし程なりき。之が顯著なる例として、余は開發せし信者が良心に遲疑せる弱き兄弟に對して寛容の精神を表はすべき事に就き、前述の書翰とロマ書中に彼が與へし命令を引くべし。此等の敎會中にて種々の會員は或る種類の食物を食するは合法なるや、又或る日を守るは義務なるやと云ふ點に就き、疑を懷き其良心安からざりき。之に對して聖パウロは使徒として判決を與へ、此爭點は新約時代にありては全く無關係のものとせり、然れども特殊の大量を以て彼は其判決を嘉納し得ざる人々の遲疑を敬重すべきことを命じたり。熱心家にせよ欺騙者にせよ、神命を受けたりと信ずる人々の中に斯かる寛容の精神を表はせし例あることなし。

五。此等の書翰は偶然の暗示多くあるが故に、歴史の材料として同樣の文書中他に類なき程價値あり。其偶然なる構造は此特殊の利益を有す。此等の書翰は記者が其暗示せる事實の眞なることを確信せしのみならず、讀者も同樣の意見を抱きしことを證明す。何人にても此等の書翰を熟讀せば、主の人格、行動、敎訓に就き記者も讀者も共に確かなる事實として承認せし數多の事實は其中に埋れることを認めざるを得ず。此點より見れば、羅馬書は歴史上大に價値あるもの也、何となれば此敎會は聖パウロに關係なき方面より基督敎を受け、又聖パウロも曾て此敎會を訪問せしこと無ければなり。然れども彼は已が基礎とせし事實を羅馬の敎會員も同じく之を基督敎の基礎とせしことを假定せり。されば此敎會を建設せし宣敎師は同じ事實を承認したりしに相違なし。換言せば、此等の事實は全敎會に共通せる基督敎の基礎なりしなり。

六。然れども左の事實は更に重要なり、此等の書翰によれば、使徒パウロは此等の敎會內に一群の忠友を有せしのみならず、多くの强敵を有せしことも亦明かなり。コリントとガラテヤの敎會は互に相反せる種々の黨派に分れしのみならず、

其中の一派は聖パウロの使徒たる任命を受けしことをすら否認せり。此一派はガラテヤの教會に於て有力となり、其勸誘により改心者の多數は聖パウロの主義に反する猶太系の基督教を採用するに至れり。此爭論の激烈なりし事に就き此等の書翰中有力なる證跡あり、然れども聖パウロの使徒たる職權を否認せし人々、即ち彼が語勢を强めて辨難し、屢ば已と論戰せんことを挑みし人々の前にて朗讀せしめんが爲に此等の書翰は贈られしなり。

此點のみにて此等の書翰には歷史的文書として極めて大なる價値あることを證するに足る。此等の書翰中事實に就て暗示せる記事あり、殊に其暗示は偶然なれば、其事實の眞なることは使徒パウロも其反對者も共に承認したりしに相違なし、何となれば若し其讀者が書中に暗示せし事實の眞なるを知らざりしか、又は信ぜざりしか、或は反對者が疑を入るべきものなりしに、聖パウロは之を知りつゝ尙ほ此種の爭論に於て斯の如く暗示せしとせば、此は信ず可らざる程愚かなる所爲なればなり。されば斯かる特徵あるにより書中に暗示せし事實は記者も讀者も共に之を眞として承認せしに相違なく、恐らくは斯かる證據を現存せる他の書中に發見するは難かるべし。此は事實其物の眞なることを證せざるやも知る可らず、然れども使徒パウロの反對者をも加へて、教會中各派の人々が之を眞として承認せしことは、之に據て充分に證し得らるゝなり。然るに此等の人々は猶太派の基督教徒なりき。されば彼等の證明は又エルサレム教會の證明にして、聖パウロと其反對者が共に承認せし事實は又教祖の十字架に釘けられし後直ちに復興せし教會の形造られし時、基礎となりし事實なりしことを證するなり。

今吾人をして此等の書翰中には實際時代を同うせし人の證據あることゝ、其證據は主が宣教を終りし後間もなく出でしことを觀察せしめよ。

一。フィリピ書とピレモン書は六十二年の終より以前、即ち主の十字架に釘けられし後三十二年以內に記せしものならざる可からず。

二。四大書翰は紀元五十七八年、即ち主が十字架に釘けられし後二十七八年以內に記せしものならざる可からず。

テサロニケ前書と後書は遲くも紀元五十四年、即ち主の宣教終りし後僅かに二十四年以內に記せしものなり。

讀者は若し此等の書翰が著作されてより主の十字架に釘けられし時までの期間は吾人の時代よりクリミヤ戰爭の初期印度の叛亂ブルスランの戰爭までの期間と各異ならざるを思はば、其間相距ること遠からざるを知るに難からざるべし、年齡五十の人ならんには、此等の事實は其記憶に新たなるべし。

されば若し敎會は此等の書翰が記されし時に、主の事業と敎訓に就き、福音書中に記錄せるものと大體に於て同樣なる事柄を受容れたりとせば、此等の事柄は紀元五十四年より三十年までの間か、又はテサロニヶ前書と後書の眞作には疑ありとせば、紀元五十八年より三十年までの間に創作せし種々の小說的描寫より成立せるものと認むるを得ず。

然れども前述せし如く、紀元五十八年より三十年までは年齡五十以上の人が最も明瞭に歷史上の事實を記憶し得る期間の一なり。余は問はん、此等の人々の生存中、種々の想像的創作より成立せし福音書は主の行動と敎訓に就ける眞實の物語として敎會に受容れられ、之が爲に主の人的生涯に就ける眞正の物語は滅絕せしと信ずるを得べきや。此は到底有り得べからざる事なり。されば若し此短時期の間に純粹なる人的イエスは想像的描寫によりて神的キリストに變化せしとせば、其小說的事項は初代に於ける弟子等の創作せしものならざる可らず。余は次章に於て此假定を考究すべし。之をなす前に、聖パウロが證明の價値に就き尙ほ數言を加ふべし。

惟ふに何人にても聖パウロの書翰を讀まば、彼は其書中に明示し又は偶然に暗示せし事實の確信者なりしことを疑はざるべし。彼の年齡を精確に確むることは容易ならず。聖ルカの記する所に據れば、彼はステパノが道に殉せし時青年なりき、然れども此は何年にても三十以下の人を意味す。紀元六十二年に彼は自ら「老年」なりと云へり、然れども彼は其勞と苦の爲に早く老ひたるやも亦知る可からず。併し乍ら此時彼の年齡は五十七若くは五十八以上なりしと推定せば安全なるべし。然らば彼が歷史上の記憶は紀元三十年、即ち主が十字架に釘けられし年に達するのみならず、主が宣敎の全時期を越えて其以前にまで達するなり。彼は肉體に在りし主を見しや否や確かならず、然れども紀元三十年後間もなく彼がエルサレムに在住せし事は之を疑ふと能はず、此時彼が親しく交はりし人々の多數は主

を見しのみならず、地上に於ける其履歴中の事實を能く知り居たり。されば聖パウロは其事實を知ざりしと云ふを得ず。余は彼が其改心後他人より聞きし事實の眞僞を細かに研究せず、唯其人を信じて容易に之を承認せりと妄言する者あるを知る。されど斯く云ふ人は彼が其改心前に「我神の教會を窘め且つ之を殘害せり」と自ら云ひしことを忘れたり。されば彼は迫害者の資格を以て、其迫害せし信者より、我が甚しき異端なりと思ひし斯教の根本的事實を聞糺さゞりしと認むるを得ず。

故に聖パウロが信者となりし時に承認せし事實は主が十字架に釘けられし後教會を復興せし初代の信者が承認せし事實と大體に於て符合するものと推定せざるを得ず。然らば余は紀元三十年より百八十年までの間に種々の教會が欺かれて、幾分にても大切なる小說的若くは想像的事項を受容れしことなく、殊に種々の斯かる物語出でしため、イエスの履歴中の眞事實が消失して忘れられしことなきを證するを得たり。使徒パウロはガラテヤ書中「異なる福音」を烈しく辨難せり、併し此福音は事實に非ざる僞の教理より成立せり。若し種々の小說より成立せし福音を傳へて、教會を欺かんと企てし者ありしとせば、彼は均しく此福音をも烈しく辨難せしに相違なかるべし。

第九章

初代の基督教に就き聖パウロの書翰中疑ふ可からざる事實として證明せる諸點。

「是故に兄弟よ爾曹堅く立ち、且つ或は我等の言或は我等の書によりて教へられたる傳を堅く守るべし」(撒後二〇十五)。

聖パウロの書翰は最上の歴史的文書なることを既に指摘したれば、余は今其書中に確證せる主要なる點を讀者に示すべし。

一。聖パウロの書翰に據れば、主が十字架に釘けられし後二十八年以内、又若しテサロニケ前書と後書を聖パウロの作とすれば(之を疑ふ批評家は稀なるべし)二十四年以内に、主は大に超人的なる性質を有せし者と認められ、キリストとして種々の教會に受容れられしこと確實なり。余は注意を控へて「大に超人的」てふ語を用ひたり、何となれば當時の信者が如何なる程度まで主を神と認めしかを精確に定むることは護教者の職掌に非ざればなり。故に此等の書翰中には主が神と認められし程度の極めて高かりし證據ありと云ふのみにて充分なるべし。此點を證する記事は一々引用し難き程多きが故に、羅馬書即ち聖パウロが建設せしことなく又往訪せしことなき羅馬の教會に贈りし書翰のみを引照すべし、其中には此教會がイエスを信じてキリストと認め、神的性質を有せし者と認めし確證あり。例せば、

「日を守る者も主の爲に守り、日を守らざる者も主の爲に守らず、食ふ者も主の爲に食へり、そは神に謝する事をすればなり。食はざる者も主の爲に食はず、是又神に謝する事をせり。我等の中己れの爲に生き、己れの爲に死る者なし、そは我等生るも主の爲に生き、死るも主の爲に死ぬ、この故に或は生き或は死るも我等は皆主のものなり。夫れキリストの死て復生きしは即ち生る者と死る者の主とならん爲なり」(羅十四〇、六—九)

聖パウロが此言を記せし目的は教理を定むる爲に非ずして、習慣を一定する爲なりき。當時教會に於て特別なる日を守るの義務に就き又或る種類の食物を食ふの當不當に就き猶太人系の信者と異邦人系の信者との間に大爭論ありければ、聖パウロは此難問を解決する爲に、キリストは教會の上に又會員各自の上に最上

の主なることを述べ、各信者が心中常に此感念を抱きて行動し、活るも死るも己の爲にせず、唯キリストの爲にすべきことを說けり。されば此使徒は羅馬の信者が其行爲を導く爲の大主義としてキリストの主たる事を受容れたるものと確信せしこと明かなり、若し然らずとせば、此主義に訴へて此爭點を解決せんとするも益なかるべし。故に此敎會が受容れしキリストは各信者が其生死を委ね、其愛情を悉く献ぐべき主なりしなり。余は問はん、此は神の要求と同樣なるにあらずや。

以上の考究より推論すれば、其結果は左の如し。

(一)此敎會がキリストとして信賴せしイエスは、十字架に釘けられし後二十八年以内に、大に超人的なる性質を有する者と認められしこと。

(二)此信仰は近頃に起りしものに非ずして、(此書翰の記事により證明せらるゝが如く)多年存續せしこと。

(三)全敎會はイエスの復活を疑ふ可からざる事實として永く信認したりしこと。

(四)此敎會は主に對する無上の此尊敬を價する主の行動と敎訓に就ける物語を有せしに相違なきこと。

二。此等の敎會が信せしキリストは過去の哲學者又は豫言者の如き者に非ずして、此等の敎會を繫ぎ合する綱なると共に、其會員各自の宗敎的生命及び道德的生命の泉源なりき、一言にて云へば、信者が無上の尊敬を表すべき主なりき。之を證する記事は、一々引用し難き程多く、此等の書翰全體の構造は之を證すと云ふも可なるべし。加之、此等の敎會は各活けるキリストを基礎とせし故に(死者を基礎として會社を建設するは不可能なりしに相違なし)、イエスの十字架に釘けられし後、舊團體を復興せし人々は十字架に釘けられしイエスの復活を宣傳したるに相違なし。故に其復活の信仰は其死後間もなく起りしに相違なし。

三。イエス、キリストを宣傳するにより當時の心靈界及び道德界に驚くべき影響を及ぼし、之を復生せしめし事は此等の書翰中明かなる證據あり。當時の心靈界及び道德界の墮落は非常なりしも、其中數多の人々は使徒パウロの說敎を聞き、之が爲に異敎の惡の深き淵より救出され、基督敎を奉ずるにより引上げられて高潔なる生涯を送る者となれり。此大なる變化の事實なる事は現實の結果に由て

確められしのみならず、之を經驗せし人々の內部の自覺に由て證せられき。余は此等の書翰中多くある例の中より其一を擧ぐべし。即ち此使徒はコリント人に對し、彼等の經驗に訴へて左の如く云へり、曰く「爾曹不義なる者は神の國を嗣ぎ得ざることを知らざるか。爾曹欺かるゝ勿れ、淫を行ふ者、偶像を拜む者、姦淫する者、男娼となる者、男色を行ふ者、盜む者、貪る者、酒に醉ふ者、詈る者、奪ふ者等は皆神の國を嗣ぐことを得ず。爾曹の中にもと斯の如き者ありき、されど今は主イエス、キリストの名により、神の靈によりて洗ひ且つ潔められ、又義とせられたり」(哥前六〇九—十一)。此記事中使徒パウロが、其書翰の讀者を信用し、道德的奇蹟と同樣なる此大事實に就き彼等の證明を求めし事は何人も疑ふことを得ず。哲學者も道德家も斯る事は不可能なりと認めしに相違なし、然れども斯かる力は此使徒の宣傳せし福音中に存在せり。

四。奇蹟の事を云はんに、聖パウロは一回も主の行ひし奇蹟に言及せしことなしと論ずる者あり。余は之に答へて、此等の書翰中に論せし問題中、奇蹟に關するもの無かりしと云ふのみにて充分なるべし。然れども此反對論は精確に眞ならず。何となれば聖パウロが屢ば言及せし一の奇蹟あればなり、即ち主の復活是れなり。加之、此等の書翰中のキリストは最高の程度に於て超人的なり。故に論者は若し主が地上に於ける其宣教中に行ひし奇蹟を聖パウロが全く知らざりしものゝ如く說去らんと欲すとせば、其効なかるべし、何となれば此書翰中の超人的キリストは其宣教の終りに於て死より甦りしのみならず、其後道德界及び心靈界に於て驚くべき奇蹟を行ひつゝありし者なるに、聖パウロは地上に於ける主の超人的顯現を信ぜざりしとせば、是れ信じ難き事なればなり。

併し乍ら此使徒は三ケ所に於て自ら行ひし奇蹟に言及せり。其一は甚だ偶然に出でたるものにて、羅馬書中に記載せり。曰く「何となればキリスト我を助けて異邦人を順はしめん爲に、休徵と奇蹟の能と神の靈の能を顯はし、言と行とを以てエルサレムより偏くイルリコに至るまで其福音を傳へさせ給ひし事の外は一の言をも我敢て言はざるなり」(羅十五十八、十九)。

其次には反對者に語りたり。曰く「我休徵と奇蹟と大能を以て爾曹の中に多く使徒の證をなせり」(哥後十二〇十二)。此記事と其文脈によれば、此使徒が其書翰の讀者の

中にて奇蹟を行ひし事は其讀者の確信するものと推定せしこと明かなり。

其次の暗示は簡短なれども、偶然に出で、且つ頗る爭論に關係ある記事なり。曰く「それ爾曹に靈を與へ、且つ奇蹟を行ふ者の斯くなすは律法を行ふに由てなるか、又は聞て信せしに由てなるか」(加三五)。此處に暗示されし人は無論パウロ自身なりき。

此等の記事によれば、奇蹟を行ふ力は使徒の職務に附隨するものと信ぜられしこと明白なり、隨つて他の使徒等も之を行ふ習慣ありしものと信ぜられし事も亦明白なり。加之、聖パウロは己れと他の使徒等の有せし力が彼等の主には欠けたりしとを信ぜしものと思はれざるが故に、イエスに奇蹟的行動を附するは當時の教會内に稗史的精神の生せし結果に非ずして、寧ろ此信仰は主の宣教と同時に信者間に存せしものとせざる可らず。

五。又此等の書翰によれば、聖パウロと其書翰を受けし諸教會(其中には彼の反對者をも含む)は皆同じく其教會員中に、他の奇蹟史中に比類なき程顯著なる或る種類の超人的能力を有せし者少からざりし事を信ぜしと明白なり。此使徒は屢ば之を暗示したりしも、紙面に制限あれば、茲に之を論ずるを得ず。されば余はコリント前書第十二章より第十四章迄の熟讀を讀者に請ふのみにて滿足せざる可からず。さらば讀者は之に由て其性質の大概を評價するを得べし。其中に三回繰返されし記事によれば、此教會にありし靈の賜は其數九つあり、其中今の時代に奇蹟を行ふ能力と稱すべきものは二つありて、他の七つは超自然なる心的能力と認むべきものなり。

此等の中其二つに就ける聖パウロの說明は非常に細密にして、其說明によれば、此等の教會に於て甚だ異常なる現象が客觀的事實として現はれしと明白なり(吾人は其性質と起源に就き如何なる說を立て得るにもせよ)。又彼が此問題を論せし樣式によるも、若し此等の賜に就き吾人には不明なる點ありとすれば、彼の書翰を受けし諸教會は事件の全體を能く了解し、其諸教會も彼の反對者も疑ふ可らざる事實として之を承認せしと明白なり。又此等諸書翰の記者は此等の賜若干を自ら有するのみならず、之を他人に與ふる力をも有するものと確信せし事も同じく明白なり。例せば「我爾曹を見んことを願ふは爾曹に靈の賜を與へんと思へば

なり。(羅一〇)

故に此等の書翰に據れば、奇蹟を行ふ能力が教會内に存在せし事は主の十字架に釘けられし後二十七年以内に廣く信ぜられしこと明白なり、又之に伴ふ事情を參考すれば、此信仰は近頃に起りしものに非ざることも亦確かなり。加之、奇蹟を行ふ能力が使徒職の標識中の一として敎へられし事はコリント人に贈りし書翰によりて知らるゝなり。此は主の宣敎終りし後間もなき期間に敎會の或る役員には奇蹟を行ふ能力あるものと信ぜられし事をも證する也。故に斯かる信仰は小説的假作若くは想像的創作より生せし結果ならざりしと明白なり。何となれば斯かる結果なりしならむには、其小説若くは想像が事實と誤認せらるゝ迄には長き時日を要すればなり。他の點を參考せず、單獨に此等の事實のみを擧げて、奇蹟的と見ゆる此等の顯現に超人的起源ある事を證する能はざれども(此は余の充分に許容する所なり)、此等の事實は或る程度まで之を確むるものなり。併し乍ら左の一事は此等の事實に由て明かに證明せらるゝなり、即ちイエスと其弟子等は己れに超人的能力ありと信ぜし故、彼等が奇蹟を行へりとの信仰は基督敎起りてより稍後に生ぜし傳説の結果に非ずして、斯敎と起源を同うするものなること是なり。さればイエス自ら奇蹟を行ひし事を公言せしものと推定せざるを得ず、何となれば使徒等は主が自ら有せざりし能力を己等に與へし事を信ぜしものと思はれざれば也。故に其奇蹟は事實に非ずとせば、左の二假定中其一を取らざる可からず、即不信者の自白によれば、人の子中にて最も偉大なりしイエスは一種の狂人となりて行動せしか、左なくば(斯く言ふは恐多けれども)彼は最も嚴しく僞善を言責せしにも拘らず、自ら詐僞の行爲に與みせし者ならざる可からず。

六。此等の書翰には左の點に就き確證あり、即ち吾人の福音書中に記載せるものと能く符合する主が宣敎の物語は恭く敎會に保存せられて(記錄にて保存せしか口傳にて保存せしかは余の論に關係なし)敎會に於ける敎訓の基礎となりし事是なり。若し此點は證せらるゝとせば、福音書の起源に就ける種々の解釋、即ち其材料の大部分を傳奇的精神の産出とする解釋の不當なる事も明白となるなり。

直接の引照は甚だ少なし。余は讀者が何處に之を見出し得るかを示すとせば、是にて充分なるべし、さらば讀者は之に由て其證明上の價値を自ら判定するを得

べし。羅馬書第一章三、四節には、主がダビデの裔より生れ、神の子にして復活せし事に就き直接の引照あり。哥林多前書第十一章廿三節―三十四節には、吾人の福音書中に記載せるものと能く符合する聖餐式設立の記事あり。此記事に據れば、此教會が福音書中に記載せるものと大體に於て同樣なる主が受苦の物語を有せしものと推定せらるゝが故に、此點に於ても亦大なる價値あり。

哥林多前書第十五章一節―十節に據れば、聖パウロが常に宣傳せし福音は主の生涯に就ける歴史の事實を基礎とせしと明かなり。共觀福音(若し第四福音は然らずとせば)も之を基礎とせし事は確かなり。前の二引照は又聖パウロが或る歴史の事實を信仰の基礎として其設立せし教會に恭しく傳へし事を證するが故に重要なるものなり。

此等の書翰中、主の道德的教訓として共觀福音書中に記せるものと能く符合する教訓を記せる記事少からず。試みに此二者を比較せよ、然らば前者は後者と能く符合する事を必らず發見すべし。例せば、山上の說教と比喩上の教訓は實際道德的教訓として此等の書翰中に示さるゝを見る。時としてコリント前書と後書には、主の教訓に就ける直接の引照あり、例せば哥林多前書第七章、八章の如し。然れども新約書中にて、直接の引照と殆ど同樣に、最も能く符合せる記事を收めたる書はヤコブ書なり。

以上は直接の引照なり。間接の引照は非常に多くして、何れも使徒パウロと其書翰の讀者が主の行動と教訓の物語(即ち彼等に共通なる基督教の基礎として受容れしもの)を熟知せし事を明かに證するものなり。余が既に述べたるが如く歴史の點より見れば間接の引照よりも遙かに愈りて價値あり。茲に人ありて他人の行爲に感化を及ぼさんが爲に眞理を說くとせば、彼は左の二者中其一を撰ぶべし、即ち彼は其眞理を證明せんと勉むるか左なくば其人既に其眞理を受容れしものと假定すべし。例を擧げて余の論點を說明すれば、人ありて德行は最大幸福に導くが故に之を行へと勸むるとせよ。然らば其人は他人が其眞理を受容るゝと假定せざれば、尙ほ其眞理を證明して止まざるべし。是れ常識によれる推定なり。聖パウロの書翰には、其書翰を受けし人々の行爲に大なる感化を及ぼさんが爲に、基督論に就き偶然に暗示せる記事甚だ多し。而して其基督論中のキリストは超

人的キリストなり。此二點に就ては疑ふ可からざる證據あり。然れども記者は己と其教會が共に受け容れしキリストの超人的なりし事を一回も正式に證明せざりき。彼は常に其書翰の讀者が主を超人的キリストとして受け容れしものと假定せり。然らざれば、彼は其讀者が信せざりしキリストを引て、彼等を奬勵するも不都合にして効力なかるべし。然るに超人的性質を有するキリストに就て暗示せる記事は此等の書翰中殆ど毎頁に發見さるゝなり。是れ初代の諸教會が受け容れしキリストは超人的キリストなりし事を確かに證明するに非ずや。畧パウロは其基督論を表はす爲に形式的信經を作らざりし事を記臆せよ。然れども其書翰中數多ある偶然の暗示は其信經に愈りて此點を確證するなり。

此使徒の屢ば告ぐる所に據れば、イエスはキリストなりと宣傳するは彼が說教の眞體にして、彼は基督教を知らざる人々に此事を宣傳せり。其意如何と云ふに、此はイエスのキリストなる事を證するに足るべき其行動の物語を其教訓中に包含する事を意味するなり。然らざれば其言は無意味なりしならむ。

キリストに就ける知識は基督教其ものと同意義なりとは屢ば繰返さるゝ言にして、此言も前と同樣の結果となるなり。斯かる知識は主の生涯と行動に就ける事實の大部分を知ることを意味す。而して此知識は人の心情と性質の上に大なる感化を及ぼすものとして記載せり。されば此知識は主が斯かる感化を及ぼし得ることを表はすに足るべき種々の事實より成立するものならざる可らず。而して吾人の福音書には斯かる事實を描寫せり。故に此知識を構成するものとして、此使徒の暗示せし事實は、福音書中に寫し出だせるものと能く符合する主の畫像を形成するものならざる可からず。加之、熱心に主を愛する精神を起すことは此知識の結果なりき。併し乍ら愛すべき對象なくば、其愛は起らざるべし。故に此等の教會が受け容れしイエスの畫像は他人に熱愛を起ざしむる者として主を描寫せしものなりしに相違なし。此場合に於ても此使徒の描寫せしキリストは福音書中のキリストと大体に於て同一なることを表はせり。

此等の書翰中には又前と異なる間接の引照ありて、其書翰の讀者が主の行動の大体を知り居たるのみならず、其品性を能く描寫し得る程に知り居たる事を證明するなり。即ち此等の書翰中には主を模範とすべき事を信者に勸告する記事多